

LEICA S2

取扱説明書

LEICA

SUMMARIT-S 1:2.5/70 ASPH.

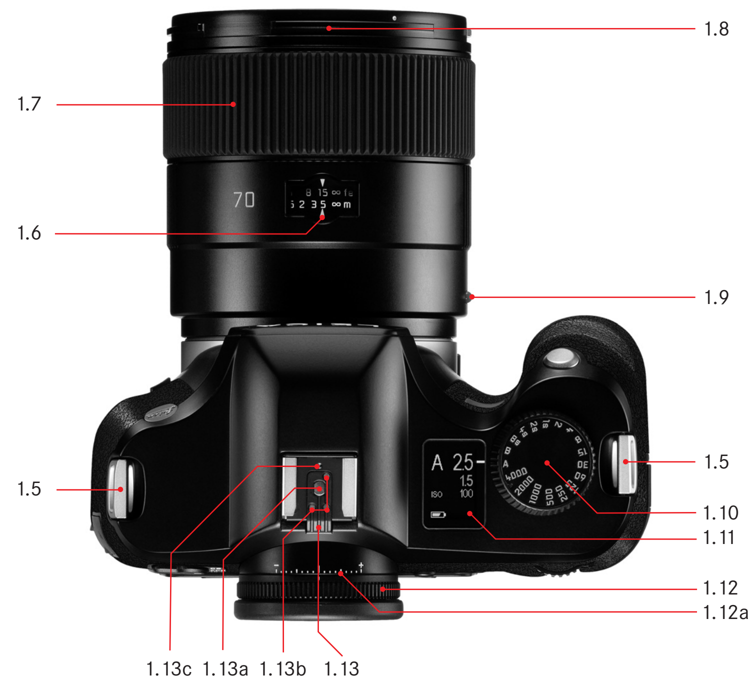
LEICA

E82

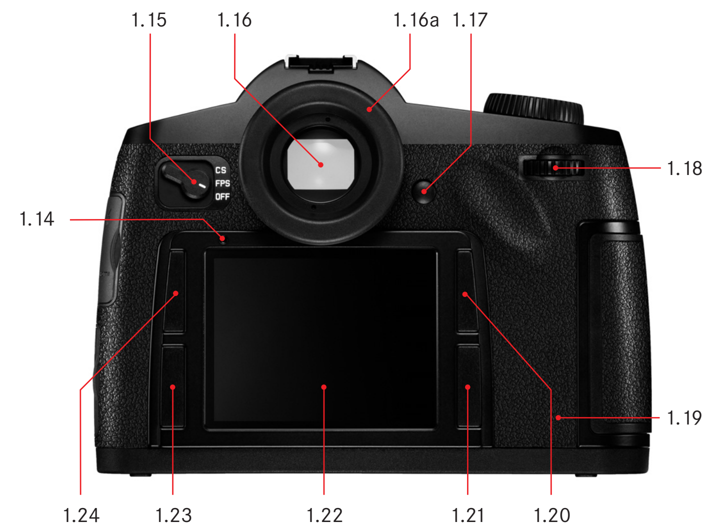
4090592




1.1
1.2
LEICA
SUMMARIT-S 1:2.5/70 ASPH.
LEICA
E82
4090592


1.8
1.7
1.6
70
1.9
1.5
1.5
1.10
1.11
1.12
1.12a
1.13c
1.13a
1.13b
1.13

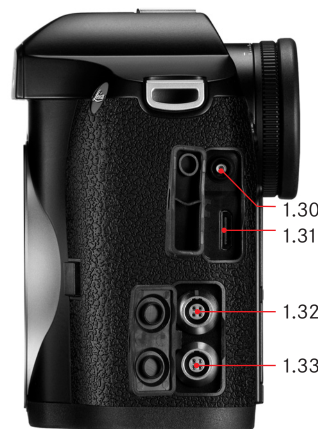

LEICA
1.3
1.4c
1.4b
1.4a
1.4


1.15
1.16
1.16a
1.17
CS
FPS
OFF
1.18
1.14
1.19
1.24
1.23
1.22
1.21
1.20

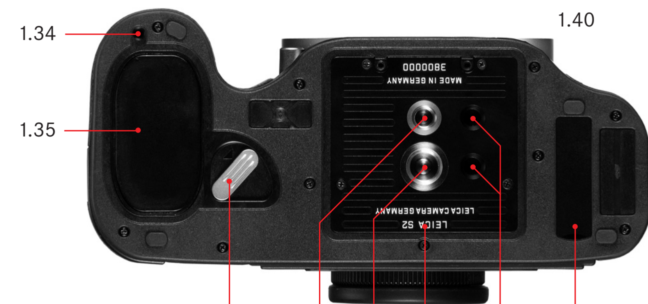

1.25

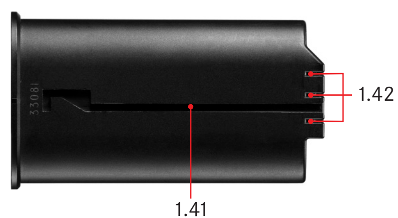

1.26a
1.26
1.27


1.28
1.29

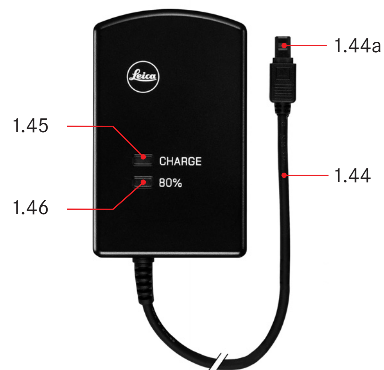

1.30
1.31
1.32
1.33

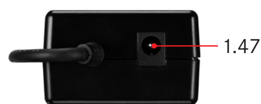

1.37
1.37a
1.37b
1.40


1.34
1.35
1.36
1.38a
1.38b
1.38
1.38c/d
1.39


1.42
1.41


Li-ion BATTERY
7.4V / 2500mAh / 18.5Wh
FOR
LEICA S2
LEICA CAMERA
XXXXX
1.43


1.44a
1.45
CHARGE
1.46
80%
1.44


1.47


1.48
1.48a


1.48b


1.49b
1.49a
1.49



LEICA S2

取扱説明書


CS
FPS
OFF


LEICA
SUMMARIT-S 1:2.5/70 ASPH.
LEICA
E82

はじめに

お客様へ

このたびはライカ S2 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ライカ S2 は、独特の機能・性能を備えたデジタル一眼レフカメラです。
ライカ S2 を正しく十分にご活用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。
ライカ S2 の機能と性能をご活用のうえ、末永くご愛用ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に接近して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

露出を設定する

その他の機能・設定

フラッシュを使って撮影する

画像を再生する（画像再生モード）

他の機器と接続して使う

資料

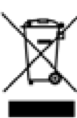
ご注意

- 現代の電子機器は、静電気放電の影響を受けやすくなっています。合成繊維のカーペットの上を歩くなどすると、人体に大量の静電気が帯電し、特に導電性のものの上に本機が置かれていた場合には、本機に触れると静電気放電が発生します。静電気が電子回路に侵入しなければ、不具合は生じません。また、本機は安全回路を装備していますが、安全上の理由から、本機の下部などにある端子部には手を触れないでください。
- 端子部をお手入れする際は、綿やリネンの布をお使いください。レンズ用のマイクロファイバークロス（合成繊維）は使用しないでください。お手入れの前には、接地された導電性のもの、（暖房器具のパイプや水道管）に触れて、静電気を放電してください。また、端子部の汚れやさびつきを防ぐために、本機にはレンズまたはボディキャップを取り付けて、乾いた場所で保管してください。
- 指定以外のアクセサリーは使用しないでください。故障、感電、ショートの原因となります。
- 本機は防滴性を備えていますが、防水性は備えていません。雨中での使用時は、雨にさらさないようにしてください。
- 本機の部品やカバーを取り外さないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにて専門の修理担当者にご依頼ください。

本機に貼付されている CE マークは、EC 指令に適合していることを示しています。

著作権と商標について

- あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- 本機に付属するすべてのソフトウェアの著作権その他一切の権利は、正当な権限を有する第三者に帰属します。
- SD ロゴ、HDMI ロゴ、CF ロゴ、USB ロゴは登録商標です。
- 本書に記載されているその他の名称、企業名、製品名は、当該各社の商標または登録商標です。



電気・電子機器の廃棄について

（分別廃棄を実施する EU 諸国およびその他のヨーロッパ諸国のみ）

この装置には電気・電子部品が含まれているため、一般家庭廃棄物として廃棄することはできません。お住まいの自治体のリサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。
電池や充電池を使用する装置を廃棄する場合は、電池や充電池を取り外してから回収場所にお持ちいただくか、必要に応じてお住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
廃棄についての詳しい情報は、お住まいの自治体またはご購入店にお問い合わせください。

付属品

本機をご使用になる前に、下記の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

A. 充電式リチウムイオンバッテリー
B. バッテリーチャージャー（変換プラグ付）
C. カーバッテリーコード
D. USB 接続ケーブル
E. キャリングストラップ
F. ボディキャップ
G. アイピースカバー
H. 取扱説明書

各部の名称

本体正面

1.1 シャッターレリーズボタン
1.2 セルフタイマー LED/ホワイトバランスセンサー
1.3 プレビューボタン
1.4 レンズマウント
a.接点
b.レンズ着脱赤指標
c.レンズ取り外しボタン

本体上面

1.5 キャリングストラップ取り付け部
1.6 距離目盛窓
1.7 フォーカスリング
1.8 レンズフード取り付け部
1.9 レンズ着脱赤指標
1.10 シャッター速度ダイヤル
- A：プログラム AE モードまたは絞り優先 AE モード
- B：バルブ撮影
1.11 上面ディスプレイ
1.12 視度調整ダイヤル
a. 目盛
1.13 アクセサリーシュー
a. 中央（シンクロ）接点
b. 制御接点
c. ロックピン用の穴

本体背面

1.14 輝度センサー
1.15 メインスイッチ
a. OFF ：本機の電源を切ります。
b. FPS ：フォーカルプレーンシャッターで撮影します。
c. CS ：レンズシャッターで撮影します。
1.16 ファインダー
a. アイカップ
1.17 AE/AF ロックボタン
1.18 クリックホイール
1.19 LED（メモリーカードへのデータ記録中に点滅）
1.20 メニューボタン
1.21 メニューボタン
1.22 LCD モニター
1.23 メニューボタン
1.24 メニューボタン

本体右側面

1.25 カードカバー（閉じた状態）
内部（開けた状態）
1.26 CF カードスロット
a. 取り出しボタン
1.27 SD カードスロット

本体左側面

1.28 端子カバー（閉じた状態）
1.29 端子カバー（閉じた状態）
内部（開けた状態）
1.30 シンクロターミナル
1.31 HDMI 端子
1.32 データ出力端子
1.33 リモートレリーズケーブル端子

本体底面

1.34 ハンドグリップ S2 用ガイドピンの穴
1.35 バッテリー
1.36 バッテリーリリースレバー
1.37 バッテリースロット（バッテリーを取り出した状態）
a. 接点
b. ガイド溝用の突起
1.38 三脚取り付け部
a. ねじ穴（1/4 インチ）
b. ねじ穴（3/8 インチ）
c.–d. ガイド用の穴
1.39 ハンドグリップ S2 用接点カバー（閉じた状態）
内部（開けた状態）
1.40 ハンドグリップ S2 用接点

バッテリー

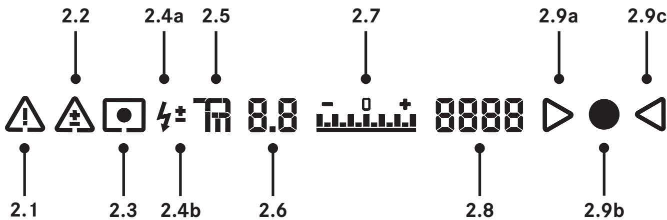
1.41 ガイド溝
1.42 端子部
1.43 バッテリーチャージャーの接続コード用ソケット

バッテリーチャージャー

1.44 接続コード
a. 3 ピンプラグ
1.45 緑色の LED（CHARGE）
充電中に点滅します。
1.46 オレンジ色の LED（80%）
バッテリー容量の 80%まで充電が完了したときに点灯します。
1.47 カーバッテリーコード用 2 ピンソケット
1.48 ヨーロッパ/UK/オーストラリア仕様の電源プラグ（着脱式）
a. リリースボタン
b. 米国仕様の電源プラグ（着脱式電源プラグを取り外し、電源プラグを起こして使用）
1.49 カーバッテリーコード
a. 2 ピンプラグ（バッテリーチャージャーに接続）
b. プラグ（シガレットライターに接続）

画面の表示

2. ファインダー



2.1 警告表示
LCD モニターにメッセージが表示されたときに点滅します。

2.2 露出補正マーク

2.3 測光モードマーク
a. ⊡：マルチ測光
b. □：中央重点測光
c. •：スポット測光

2.4 フラッシュマーク
a. ϟ：フラッシュ充電中は点滅し、充電が完了すると点灯します。
b. ±：フラッシュ調光補正時に点灯します。

2.5 露出モード
a. P：プログラム AE モード
b. A：絞り優先 AE モード
c. T：シャッター速度優先 AE モード
d. m：マニュアルモード

2.6 絞り値
露出モードが「A」および「m」では手動設定した絞り値が、「P」および「T」では自動設定された絞り値が、1/2 段ステップで表示されます。

2.7 露出インジケーター
a. 露出モードが「m」のときは、露出値を確認できます。
b. 露出モードが「A」、「P」、「T」のとき、露出補正を行うとその補正値が表示され、また AE ロックを行うと点灯し、固定した露出値と新しい露出値の差を確認できます。
長い目盛は 1EV を、短い目盛は 1/2EV を示します。

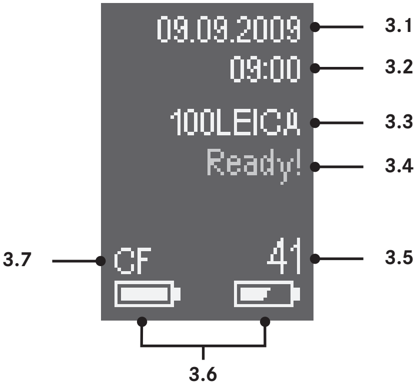
2.8 シャッター速度
a 露出モードが「T」および「m」では手動設定したシャッター速度が、「P」および「A」では自動設定されたシャッター速度が、1/2 段ステップで表示されます。
b 露出モードが「P」、「A」、「T」のときやフラッシュ撮影時に、露出オーバーの場合は「HI」が、露出アンダーの場合は「LO」が表示されます。また、測光範囲を下回る場合も「LO」が表示されます。
c バルブ撮影時（B）は「bulb」が表示されます。

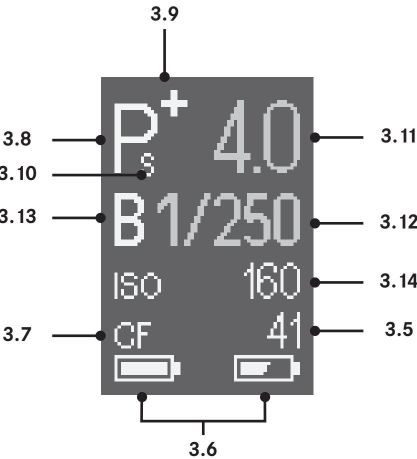
2.9 フォーカスマーク
a. ▷マニュアルフォーカスおよびマニュアル優先オーバーライド：目的の被写体よりも奥にピントが合っているときに点灯します。AFs および AFc：表示されません。
b. ●マニュアルフォーカスおよびマニュアル優先オーバーライド：被写体にピントが合っているときは点灯します。ピント合わせができないときは点滅します。
AFs：被写体にピントが合っているときは点灯します。ピント合わせができないときは点滅します。
AFc：被写体にピントが合っているときは点灯します。再度ピント合わせを開始したときは消灯します。
c. ◁ マニュアルフォーカスおよびマニュアル優先オーバーライド：目的の被写体よりも前にピントが合っているときに点灯します。AFs および AFc：表示されません。

メモ
ファインダー内の LCD 表示は、本機の電源を入れると（カメラ電源オン、電装系作動開始、測光システム作動開始、と進んでいきます。P21 参照）点灯します。表示の明るさは、周囲の明るさに応じて見やすいように自動調整されます。

画面の表示

3. 上面ディスプレイ





起動直後の画面

カメラの電源を入れたあとに約 4 秒間表示されます。この間にシャッターレリーズボタンを軽く押すと、通常画面に切り換わります。

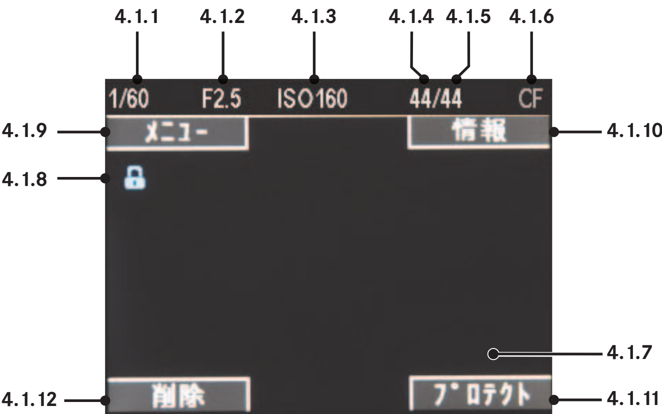
3.1　日付
3.2　時刻
3.3　フォルダー名
3.4　起動表示
3.5　撮影可能枚数または警告表示（→3.7）
3.6　バッテリー残量
左はカメラ本体のバッテリー残量を、右はハンドグリップ内のバッテリー残量（ハンドグリップ装着時のみ）を示します。
3.7　使用中のメモリーカードまたは警告表示（赤）
No card：メモリーカードが入っていません。
Full：使用中のメモリーカードに空き容量がありません。
Error：メモリーカードに関するエラーが発生しています。

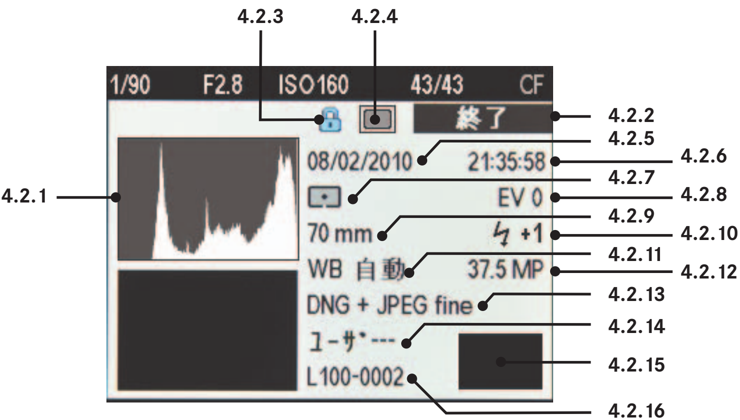
通常画面

白の表示は手動設定したものを、黄の表示はクリックホイールで設定したものを、緑の表示は自動設定されたものを示します。
また、LEICA Image Shuttle でシャッター速度を設定したとき、設定したシャッター速度がカメラで設定されているシャッター速度と異なる場合は、上面ディスプレイにシャッター速度が青で表示されます。

3.8　露出モード
3.9　a. **+**、**-** 露出補正
b. **+**、**-**、**0** オートブラケット撮影時の露出補正
＋補正での撮影前、ー補正での撮影前、標準露出での撮影前にそれぞれ表示されます。
3.10　プログラムシフト使用表示
3.11　絞り値
3.12　シャッター速度
3.13　バルブ撮影表示
3.14　ISO 感度

4. LCD モニター

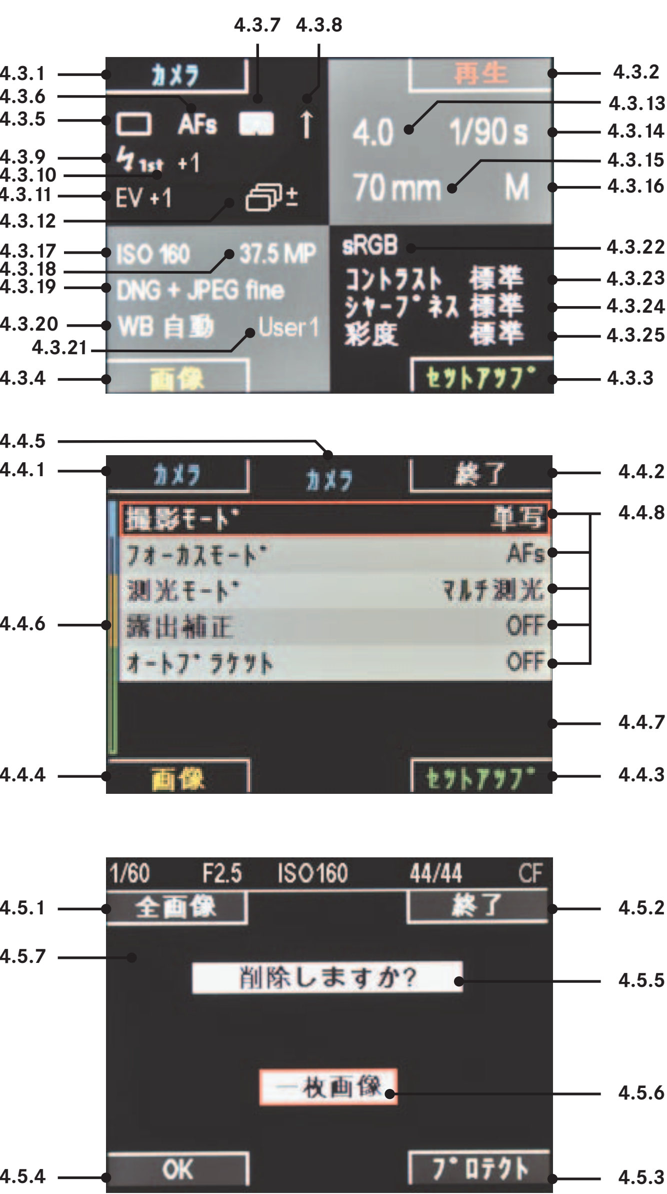




4.1 **通常再生表示画面**
画像は画面全体に表示されます。
4.1.1 シャッター速度
4.1.2 絞り値
4.1.3 ISO 感度
4.1.4 表示中の画像のコマ番号
4.1.5 表示中のメモリーカード内の総画像数
4.1.6 表示中のメモリーカード
4.1.7 ■ ズーム表示位置
［再生］モード時のみ表示されます。4.1.8〜4.1.12 が表示されているときは表示されません。
4.1.8 プロテクトマーク
4.1.9〜4.1.12 が表示されているときのみ表示されます。
4.1.9 左上メニューボタン（1.24）の機能表示
4.1.10 右上メニューボタン（1.20）の機能表示
4.1.11 右下メニューボタン（1.21）の機能表示
4.1.12 左下メニューボタン（1.23）の機能表示
1.20、1.21、1.23、1.24 のいずれかを押すと表示されます。表示されてから 5 秒後に消灯します。

4.2 **情報再生表示画面**
機能表示の［情報］メニューボタンを押すと表示されます。画像は縮小表示されます。
4.2.1 ヒストグラム
4.2.2 メニューボタン 1.20 の機能表示
4.2.3 プロテクトマーク
プロテクトされている場合に表示されます。
4.2.4 選択マーク
スライドショー再生する画像として選択されている場合に表示されます。
4.2.5 撮影日付
4.2.6 撮影時刻
4.2.7 測光モード
4.2.8 露出補正値
4.2.9 レンズの焦点距離
4.2.10 フラッシュ調光補正値
4.2.11 ホワイトバランス
4.2.12 画像解像度
4.2.13 記録形式/圧縮率
4.2.14 ユーザプロファイル名
4.2.15 ズーム表示位置
［再生］モード時のみ表示されます。
4.2.16 フォルダー番号/ファイル名

4. LCD モニター（続き）



4.3　撮影設定情報画面

4.3.1.-　メニューボタン（1.20、1.21、1.23、1.24）の機能表示
4.3.4

左上のセクション：[カメラ] メニュー画面での設定内容

4.3.5　撮影モード
4.3.6　フォーカスモード
4.3.7　測光モード
4.3.8　ミラーアップモード
4.3.9　フラッシュ同調モード
4.3.10　フラッシュ調光補正値
4.3.11　露出補正値
4.3.12　オートブラケット

右上のセクション：撮影設定

4.3.13　絞り値
4.3.14　シャッター速度
4.3.15　レンズの焦点距離
4.3.16　露出モード

左下のセクション：[画像] メニュー画面での設定内容

4.3.17　ISO 感度
4.3.18　画像解像度
4.3.19　記録形式/圧縮率
4.3.20　ホワイトバランス
4.3.21　ユーザプロファイル番号

右下のセクション：[画像] メニュー画面での設定内容

[画像ファイル設定] を [**DNG**] に設定しているとき（28 ページ）は表示されません。

4.3.22　色空間
4.3.23　コントラスト
4.3.24　シャープネス
4.3.25　彩度

4.4　メニュー画面

4.4.1-　メニューボタン（1.20、1.21、1.23、1.24）の機能表示
4.4.4
4.4.5　表示中のメニュー項目のグループ
4.4.6　スクロールバー
表示されているメニュー画面が全体のどの位置にあるかを示します。
4.4.7　メニュー項目
4.4.8　現在の設定内容

4.5　画像プロテクト/画像削除/スライドショー再生の画像選択の画面

4.5.1-　メニューボタン（1.20、1.21、1.23、1.24）の機能表示
4.5.4
4.5.5　操作メッセージ
4.5.6　「一枚画像」、「全画像」メッセージ
4.5.7　プロテクトマーク

メニュー項目一覧

[カメラ] メニュー

画面 1	5.1	**撮影モード**	1 枚撮影、連続撮影、セルフタイマー撮影（2 秒または 12 秒）を選びます。
	5.2	**フォーカスモード**	ピント合わせの方法を選びます。
	5.3	**測光モード**	測光方法を選びます。
	5.4	**露出補正**	露出補正について設定します。
	5.5	**オートブラケット**	オートブラケット撮影について設定します。
画面 2	5.6	**シャッター速度制限**	フラッシュ撮影時に自動設定されるシャッター速度の下限を設定します。
	5.7	**フラッシュ同調モード**	フラッシュ同調のタイミングを選びます。
	5.8	**ミラーアップモード**	ミラーアップ撮影を設定します。

[画像] メニュー

画面 3	5.9	**ISO**	ISO 感度を設定します。
	5.10	**画像ファイル設定**	記録形式/圧縮率を設定します。
	5.42	**DNG 圧縮**	DNG 圧縮を設定します。
	5.11	**ホワイトバランス**	ホワイトバランスを設定します。
	5.12	**色空間**	色空間を設定します。
画面 4	5.14	**コントラスト**	画像のコントラストを調整します。
	5.15	**シャープネス**	画像のシャープネスを調整します。
	5.16	**彩度**	画像の彩度を調整します。

[セットアップ] メニュー

画面 5	5.17	**記録メディア**	メモリーカードへの画像データの記録方法や、外部メディアへの記録を設定します。
	5.18	**画像番号**	フォルダーやファイルについて設定します。
	5.19	**フォーマット**	メモリーカードをフォーマット（初期化）します。
	5.20	**USB モード**	USB ケーブルでパソコンに接続して画像を取り込むときの通信方式を設定します。
	5.28	**HDMI**	スライドショー再生について設定します。
	5.21	**センサークリーニング**	センサー（撮像素子）をクリーニングするために、シャッターを開放状態にします。
画面 6	5.23	**オートレビュー**	撮影直後に画像を自動表示する機能について設定します。
	5.24	**ヒストグラム**	ヒストグラムの表示方法について設定します。
	5.43	**下限上限エリア表示**	クリッピング警告の範囲を設定します。
	5.25	**モニター/ディスプレイ**	LCD モニターまたは上面ディスプレイの明るさなどを調整します。
	5.26	**オートパワーオフ**	カメラを自動的にスタンバイモードにする機能について設定します。
	5.27	**音声**	音声について設定します。
画面 7	5.29	**カスタム設定モード**	任意のメニュー項目をメニューボタン（1.21、1.23、1.24）およびプレビューボタン（1.3）に割り当てて、直接呼び出せるようにします。
	5.30	**AE-/AF-ロック**	AE/AF ロックボタンの機能を選びます。
	5.31	**ズーム状態保持**	表示画像をズーム（拡大）したまま切り換えることができます。
	5.41	**キーロック**	シャッター速度ダイアルと絞り設定クリックホイールのロックを設定します。
	5.40	**コマンドダイアル操作**	露出モードを切り替えるときのクリックホイールの操作方法を設定します。
画面 8	5.13	**ユーザプロファイル**	ユーザプロファイルについて設定します。
	5.22	**設定リセット**	メニュー項目の設定をすべて基本設定（初期状態）に戻します。
	5.32	**日付**	日付を設定します。
	5.33	**時刻**	時刻を設定します。
	5.34	**Language**	メニュー項目やメッセージの表示言語を設定します。
	5.35	**ファームウェア**	ファームウェアのバージョンを表示します（設定変更はできません）。

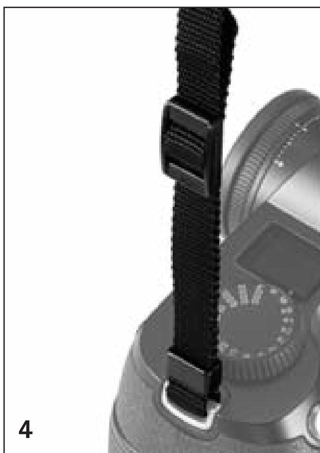
使用前の準備

キャリングストラップの取り付けかた


1


2


3


4

バッテリーを充電する

本機をお使いになるためには、充電式リチウムイオンバッテリー（A）が必要です。

ご注意

- 本書またはライカで指定したバッテリー以外は使用しないでください。
- 付属のバッテリーを本機以外には使用しないでください。また、本書の説明に従って正しく充電してください。
- 指定以外のバッテリーを使用したり、説明に従わずにバッテリーを使用したりしないでください。破裂するおそれがあります。
- バッテリーを直射日光の当たる場所や高温多湿の場所に放置しないでください。また、電子レンジや高圧容器に入れないでください。破裂や発火の原因となります。
- バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。
- ぬれたバッテリーや湿ったバッテリーは、絶対に使用したり充電したりしないでください。
- バッテリーの端子部は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくいですが、クリップやアクセサリーなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- バッテリーを落とした場合は、外装や端子部が破損しなかったか直ちに確認してください。破損したバッテリーを使用すると、本機が故障するおそれがあります。
- バッテリーの使用中や充電中に、異音、変色、変形、発熱、漏液などの異常に気づいたときは、本機やバッテリーチャージャーから直ちに取り出してください。そのまま使用や充電を続けると、破裂や発火の原因となります。
- バッテリーが漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火するおそれがあります。
- 本書またはライカで指定したバッテリーチャージャー以外は使用しないでください。指定以外のバッテリーチャージャーを使用すると、バッテリーの故障の原因となり、死亡や重傷を負うおそれがあります。
- 付属のバッテリーチャージャーでは、専用バッテリー以外は充電しないでください。また、バッテリーチャージャーを他の用途に使用しないでください。
- 公共施設などの使用許可のないコンセントでバッテリーを充電しないでください。
- バッテリーおよびバッテリーチャージャーを分解しないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにご依頼ください。
- バッテリーは幼児の手の届かないところに置いてください。バッテリーを飲み込むと、窒息するおそれがあります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

バッテリーから漏れた液が人体などに付着した場合の処置

- 液が目に入った場合は、失明の原因となることがあります。目をこすらずに、直ちにきれいな水でよく洗ったあとに、医師の治療を受けてください。
- 液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に障害を起こすおそれがあります。直ちにきれいな水でよく洗い流してください。医師に相談する必要はありません。

メモ

- バッテリーはカメラ本体から取り出して充電してください。
- バッテリーはお買い上げ時には充電されていませんので、充電してからお使いください。
- バッテリーは 0〜35℃の場所で充電してください。これ以外の温度では、まったく充電できないか、充電中になっても再度充電できない状態になります。
- リチウムイオンバッテリーは、残量にかかわらずいつでも継ぎ足し充電ができます。残量が多い状態で充電すれば、短時間で充電が完了します。
- バッテリーを取り出して保管する場合は、容量がある程度残った状態で保管してください（P17 参照）。長期間保管する場合は、過放電を避けるため、半年に一度 15 分ほど充電してください。
- 充電中はバッテリーとバッテリーチャージャーが温かくなりますが、異常ではありません。
- 新しいバッテリーは、フル充電してから完全放電させる（本機に入れて使い切る）というサイクルを最初に 2、3 回行うことで、性能を十分に発揮できるようになります。その後もこのサイクルを 25 回に 1 回ほど行うことをおすすめします。
- 充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。バッテリーを長持ちさせるために、夏季や冬期の自動車内など、極端に暑い場所や寒い場所に放置しないでください。
- バッテリーには寿命があります。最適な条件のもとで使用し続けても、数百回の充電を重ねると容量が低下し、使用時間が極端に短くなります。
- 不要になったバッテリーは、お住まいの自治体の条例や規則に従い（6、57 ページ）、リサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。
- 本機はバックアップ電池を内蔵しています。バックアップ電池は、日付と時刻の設定を最大 3 ヶ月間保存するためのもので、バッテリーを電源としています。バックアップ電池が放電してしまった場合は、バッテリーを入れて充電してください。充電を始めてから約 60 時間後にフル充電になります。充電中は本機の電源を入れる必要はありません。また、バックアップ電池が放電してしまった場合は、日付と時刻の設定が失われますので、再設定してください。
- 本機は、電源を切っても日付などの設定の保存に微量の電流を使用するため、数週間後には多量の電力を消費してバッテリーが過放電状態になります。本機を長期間使用しない場合は、メインスイッチで電源を切り（21 ページ）、バッテリーを取り出してください。



バッテリーチャージャーを準備する
米国以外の外国で充電する場合



1. 次の手順で、お使いになる国に対応した電源プラグをバッテリーチャージャー（B）に差し込みます。
   a. リリースボタン（1.48a）を上に押します。
   b. 電源プラグ（1.48）を上にスライドさせます。
2. 電源プラグを取り外します。
3. お使いになる国に対応した電源プラグをバッテリーチャージャーにしっかりと差し込みます。

日本や米国で充電する場合



1. 次の手順で、お買い上げ時に取り付けられている電源プラグをバッテリーチャージャー（B）から取り外します。
   c. リリースボタン（1.48a）を上に押します。
   d. 電源プラグ（1.48）を上にスライドさせます。
2. 電源プラグ（1.48b）を起こします。

メモ
バッテリーチャージャーは自動電圧切替式です。

バッテリーを充電する



1. バッテリーチャージャー（B）の 3 ピンプラグ（1.44a）をバッテリーのソケット（1.43）に差し込み、電源プラグ（1.48/1.48b）をコンセントに差し込みます。
   • 正しくセットされると、緑色の LED（**CHARGE**）（1.45）が点滅し、充電中になったことを示します。
   容量の **80**%まで充電が完了すると、オレンジ色の LED（80%）（1.46）も点灯します。
   フル充電が完了すると（約 3 時間半後）、緑色の LED（**CHARGE**）が点灯に変わります。

メモ
• 容量の 80%までの充電に要する時間は約 2 時間です。したがって、フル充電する必要がなければ、比較的短時間で十分な枚数が撮影できる程度まで充電できます。
• フル充電が完了して緑色の LED（**CHARGE**）が点灯に変わると、自動的に微小電流での充電（トリクル充電）に切り換わります。

2. 充電が終わったら、バッテリーチャージャーの電源プラグをコンセントから抜きます。過充電されることはありませんが、コンセントから抜いておくことをおすすめします。

バッテリーを入れる/取り出す

バッテリーを入れる

1. メインスイッチ（1.15）を「OFF」にします。
2. ガイド溝（1.41）を内側に、端子部を奥に向けて、バッテリー（C）をバッテリースロットに入れます。「カチッ」と音がするまで押し込んでください。



バッテリーを取り出す

1. メインスイッチ（1.15）を「OFF」にします。
2. バッテリーリリースレバー（1.36）を本体背面の方向にスライドさせます。バッテリースロット内部のバネにより、バッテリーが少し飛び出てきます。

メモ

バッテリースロットにはロック機構が備わっているため、取り出し口を下に向けたままカメラを持ち上げてもバッテリーは保持されています。

3. バッテリーを軽く押し込んで、ロックを解除します。
4. バッテリーを取り出します。取り出し口を下に向けている場合は、バッテリーが落下しないように注意してください。

バッテリー残量表示（3.6）

バッテリー残量は 8 段階で上面ディスプレイ（1.11）に表示されます。

- ：約 100 %（白）
- ：約 90 %（白）
- ：約 75 %（白）
- ：約 50 %（白）
- ：約 25 %（白）
- ：約 10 %（白）
- ：約 5 %（赤）
- ：約 3 %（赤、点滅）：バッテリーを交換または充電してください。

メモリーカードを入れる/取り出す

本機では、SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、CF（コンパクトフラッシュ）メモリーカードが使用できます。SD/SDHC カード用と CF カード用の 2 つのスロットを装備しています。なお、本書では、SD メモリーカードと SDHC メモリーカードを「SD/SDHC カード」、CF メモリーカードを「CF カード」、これら一般を指す場合は「メモリーカード」と表記しています。

SD/SDHC カードは、書き込み防止スイッチを装備しているので、誤って画像を書き込んだり消してしまったりする心配がありません。このスイッチは、カード本体の角が斜めになっていない側にあり、「LOCK」の方向にスライドさせれば書き込み防止機能がオンになります。

メモ

メモリーカードの端子部には手を触れないでください。

メモリーカードを入れる

1. メインスイッチ（1.15）を「OFF」にします。

2. 本体右側のカードカバー（1.25）を、矢印の方向にスライドさせて開けます。





3. 次の手順でメモリーカードをカードスロットに入れます。
   a. CF カードは、端子部を奥に向け、カードのラベルを前に向けて CF カードスロット（1.26）に入れます。
      重要
      メモリーカードを強い力で押し込まないでください。カードスロットの端子部が破損するおそれがあります。
   b. SD/SDHC カードの場合は、端子部を奥に、角が斜めになっている側を上に向けて、SD カードスロット（1.27）に入れます。奥まで入れるとバネの感触がありますが、そのまま「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
4. カードカバーを閉じます。前方にスライドさせて、しっかりとロックしてください。

メモリーカードを取り出す

1. メインスイッチ（1.15）を「**OFF**」にします。

2. 本体右側のカードカバー（1.25）を、矢印の方向にスライドさせて開けます。

CF カードの場合

3. 取り出しボタン（1.26a）を中に押し込むと、CF カードが少し飛び出てきます。

4. CF カードを取り出します。

SD/SDHC カードの場合

3. SD/SDHC カードを軽く押し込むと、SD/SDHC カードが少し飛び出てきます。

4. SD/SDHC カードを取り出します。

5. カードカバーを閉じます。前方にスライドさせて、しっかりとロックしてください。

メモリーカードに関する表示

メモリーカードに関するエラーが発生した場合は、内容に応じて LCD モニターや上面ディスプレイにメッセージが表示されます。

メモ

- メモリーカードがうまく入らない場合は、メモリーカードの向きが正しいか確認してください。
- 本機に対応するメモリーカードのラインアップは頻繁に変わります。種類によっては本機で正常に動作しないことがあります。
- 背面右下の赤い LED（1.19）が点滅している場合は、画像記録中またはデータ記録中ですので、メモリーカードやバッテリーを取り出さないでください。保存されていないデータや保存済みのデータが消失することがあります。
- メモリーカードへの画像の記録方法を選ぶこともできます。詳しくは「記録メディアを選ぶ」（31 ページ）をご覧ください。
- 電磁波、静電気、カメラ本体やメモリーカードの故障により、メモリーカードのデータが破損・消失することがあります。データをこまめにパソコンに取り込み（52 ページ）、バックアップをとることをおすすめします。
- 同じ理由から、メモリーカードを帯電防止性のケースなどで保管することをおすすめします。

ファインダースクリーン

本機は、被写体や撮影状況に合わせてファインダースクリーンを交換することができます。交換できるファインダースクリーンについては、「システムアクセサリー」の「交換用ファインダースクリーン」（55 ページ）をご覧ください。

交換用ファインダースクリーンには、ピンセットとクリーニングブラシが付属します。

ファインダースクリーンを交換する

1. レンズを取り外します（20 ページ）。



2. ピンセットの先端で止め具（B）を押して、スクリーンマウント（A）のロックを外します。ロックが外れると、ファインダースクリーン（C）が乗ったスクリーンマウントが下りてきます。





3. ファインダースクリーンの底辺にある小さな突起部分をピンセットで挟み、軽く上に持ち上げながらファインダースクリーンを取り出します。
4. 取り出したファインダースクリーンを交換式ファインダースクリーンのケース内に置きます。
5. 取り付けるファインダースクリーンの突起部分をピンセットで挟んで、ケースから取り出します。
6. ファインダースクリーンをスクリーンマウントに乗せます。
7. ピンセットの先端でスクリーンマウントを押し上げて、ロックします。「カチッ」と音がするまでしっかりロックしてください。

重要

ファインダースクリーンの交換は、上の手順に従って正しく行ってください。また、ファインダースクリーンの表面を傷つけないよう十分に注意してください。

S レンズ

S レンズには、次のような特徴があります。

- フォーカスリング（1.7）の操作は、フォーカスモードにより異なります。
- マニュアルフォーカス（13、22、33 ページ）のときは、フォーカスリングを回してピントを合わせます。フォーカスリングはフォーカス機構に連動しています。
- オートフォーカス（**AFs/AFc**、13、22、33 ページ）のときは、フォーカスリングがフォーカス機構に連動していないため、フォーカスリングに手を添えてレンズを支えても、オートフォーカスの動作に影響はありません。なお、オートフォーカスでピントを合わせたあとに、フォーカスリングを回して手動でピントを微調整することもできます。この場合は、フォーカスリングがフォーカス機構に連動します。
- 距離目盛はレンズ内部に表示されており、距離目盛窓（1.6）から確認できます。
- 絞りリングは装備していません。絞り値の設定は、カメラ本体のクリックホイール（1.18、37 ページ）で行います。

レンズを取り付ける/取り外す

本機では、ライカ S バヨネットマウント方式のレンズとアクセサリーが使用できます。



レンズを取り付ける

1. レンズにあるレンズ着脱赤指標と、レンズマウントにあるレンズ着脱赤指標（1.4b）の位置を合わせます。
2. レンズをまっすぐはめ込みます。
3. 「カチッ」と音がするまでレンズを右に回します。



レンズを取り外す

1. レンズ着脱ボタンを押しながら
2. レンズをゆっくり左に回すとロックがはずれます。
3. レンズをまっすぐに引き抜きます。

メモ

- 本機の内部にほこりが入り込んだり、センサー（撮像素子）にほこりが付着したりしないために、本機には常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- 同じ理由から、レンズ交換はできるだけほこりの少ない場所で素早く行ってください。

視度調整する

ファインダー（1.16）内の表示がはっきり見えるように、視度を−3〜＋1ディオプターの範囲内で調整できます。ファインダーをのぞきながら、スポット測光枠が最も鮮明に見えるように視度調整ダイヤル（1.12）を回してください。

メモ

ファインダーから目を離して撮影する場合は、ファインダーから入る光によって適正露出で撮影できないことがありますので、ファインダーにアイピースカバー（G）を取り付けることをおすすめします。アイピースカバーは、キャリングストラップに取り付けられるようになっています。

カメラの電源を入れる/切る

電源のオン/オフはメインスイッチ（1.15）で行います。メインスイッチはレバー式で、次の 3 つの位置にセットできます。



a. OFF：電源オフ

b. FPS：電源オン/フォーカルプレーンシャッターでの撮影

カメラ本体に搭載されたフォーカルプレーンシャッターで撮影します。

c. CS：電源オン/レンズシャッターでの撮影

レンズに搭載されたシャッター（レンズシャッター）で撮影します。

メモ

レンズシャッターを搭載していないレンズを装着した場合は、メインスイッチを「**CS**」にしてもフォーカルプレーンシャッターでの撮影となります。また、LCD モニターにはメッセージが表示されます。

メインスイッチを「**FPS**」または「**CS**」にすると電源が入ります。電源が入ると、本機の起動が完了するまでの約 2 秒間背面右下の赤い LED（1.19）が点滅し、ファインダー（1.16）内の表示（「2. ファインダー」）と上面ディスプレイ（1.11）の表示（「3. 上面ディスプレイ」）が点灯します（9、10 ページ）。

メモ

- **オートパワーオフ**（5.26、22、26 ページ）を設定している場合は、メインスイッチを「**OFF**」にしなくても、設定した時間が経過すると自動的にスタンバイモード（電源が切れた状態）になり、すべての機能が使用できない状態になります。
- オートブラケット撮影（35 ページ）の途中で電源を切ると、メニュー項目での設定内容がリセットされます。セルフタイマー（40 ページ）作動中に電源を切ると、セルフタイマーが解除され、メニュー項目での設定内容もリセットされます。

メニュー画面と設定

メニュー操作

機能の選択や設定は、主にメニュー画面を使って素早く簡単に行えます。

1. メニュー項目は、内容ごとに 3 つのグループのメニュー画面に分類されており、素早く呼び出せます。
2. メニューボタンとクイックホイールだけで操作・設定できます。
3. 操作・設定の手順も簡単です。
4. メニューボタンにメニュー項目を割り当てて、素早く呼び出せるようにすることもできます。

メニュー画面を表示する

メニュー画面を表示するには、LCD モニター（1.22）の左右にある 4 つのメニューボタンのうち、3 つ（1.21、1.23、1.24）のいずれかを押します。

メモ

4 つのメニューボタン（1.20、1.21、1.23、1.24）は「ソフトキー」と呼ばれるもので、メニュー画面を表示する機能だけでなく、LCD モニターに画像を表示したときには別の機能も果たします。

設定に使う操作部

メニュー画面での設定はすべてクリックホイール（1.18）を使って行います。

メニュー画面を終了する

メニュー画面を終了するには、次のいずれかの操作を行います。

- 画像撮影モードに切り換える
  シャッターレリーズボタン（1.1）を軽く押します。
- 撮影設定情報画面（4.3、12 ページ）に切り換える
  右上のメニューボタン（1.20）を押します。このとき、このメニューボタンの機能表示は［終了］となっています。
- 画像再生モードに切り換える
  撮影設定情報画面に切り換えてから、右上のメニューボタン（1.20）を押します。このとき、このメニューボタンの機能表示は［再生］となっています。

メニュー項目のグループ

メニュー項目は内容ごとに次の 3 つのグループに分類されており、グループの名称がそれぞれ異なる色で LCD モニターに表示されます（13 ページ）。

カメラ（青）
画像（黄）
セットアップ（緑）

各グループは 2～4 ページのメニュー画面で構成されています。メニュー画面では、1 行に 1 つのメニュー項目が割り当てられており、各行の左に項目が、右に設定内容が表示されます。

メニュー画面で設定する

1. メニューボタン（1.21、1.23、1.24）のいずれかを押して、メニュー画面を表示します。
   • LCD モニターが消灯しているときにメニューボタンを押すと、撮影設定情報画面が表示されます。撮影設定情報画面では、各メニューボタンで設定できる項目のグループが、メニューボタンの機能表示（4.3.1～4.3.4）で確認できます。このときの機能表示は、1.20 が［再生］、1.21 が［セットアップ］、1.23 が［画像］、1.24 が［カメラ］となっています。確認のために、MENU 画面中央上の箇所には［画像］／［カメラ］／［再生］／［セットアップ］のうちの選択されたアイテムが同じ色で表示されています。

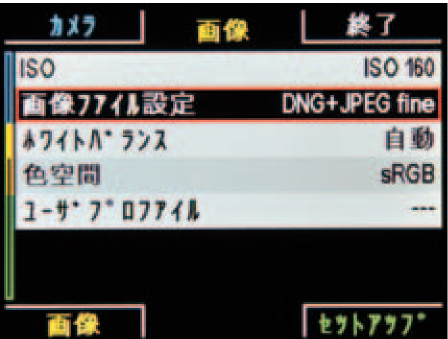


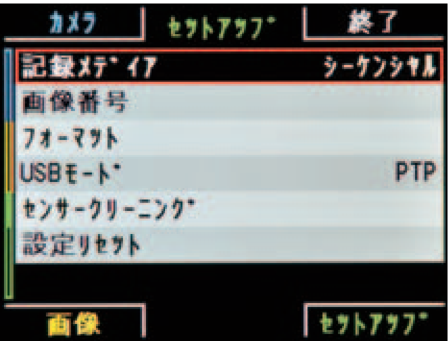
• 画像再生モードで 4 つのメニューボタンのいずれかを押すと、画像再生モードでのメニューボタンの機能表示（4.1.9：[メニュー]、4.1.10：[情報]、4.1.11：[プロテクト]、4.1.12：[削除]）が表示されます。

機能表示が［メニュー］のメニューボタンを押すと、撮影設定情報画面に切り換わります。

2. 各グループの最初のメニュー画面が表示されます。1.21 を押すと［セットアップ］メニュー画面、1.23 を押すと［画像］メニュー画面、1.24 を押すと［カメラ］メニュー画面が表示されます。
   • 画面上部にある 2 つのメニューボタン機能表示（4.4.1、4.4.2）の間には、現在選択されているメニュー項目のグループ（4.4.5）が表示されます。また、画面左端にはスクロールバー（4.4.6）が表示されており、全部で 8 つあるメニュー画面の中でどのグループのどの画面が表示されているかを、ノブの位置と色で確認できます。
   現在選択されているメニュー項目は、赤枠と白黒反転でハイライト表示されます。メニュー項目の右側には、現在選択されている設定内容が表示されます。
   各メニュー画面を表示したときは、最後に設定したメニュー項目がハイライト表示されます。

3. 再度手順 2.と同じメニューボタンを押すと、各グループ内でメニュー画面を切り換えることができます。

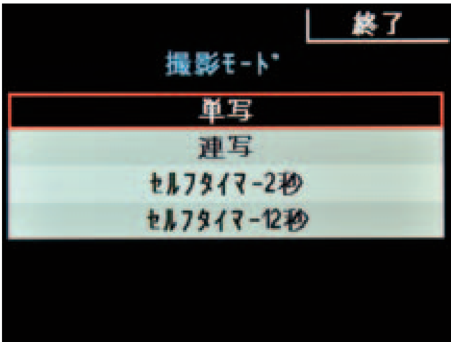




4. クリックホイール（1.18）を回して、設定したいメニュー項目を選びます。右に回すと下の項目に、左に回すと上の項目に移動します。
クリックホイールを回し続けると、グループにかかわらず、すべてのメニュー画面が順番に表示されます。

設定の実行も、クリックホイールを使って行います。

5. クリックホイールを押します。



• サブメニュー画面として、選択できる設定内容の一覧が表示されます。
現在選択されている設定内容は、赤枠と白黒反転でハイライト表示されます。
メニュー項目によっては、目盛と矢印など、選択しやすい方式で表示されます。



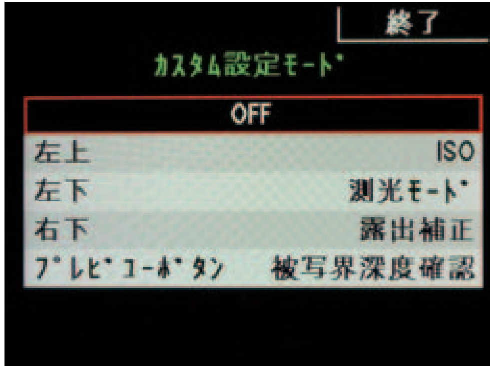
6. クリックホイールを回して希望の設定内容を選び、クリックホイールを押して設定を実行します。

メモ
右上のメニューボタン（1.20）の機能表示が［終了］となっているときにこのメニューボタンを押すと、設定内容を変更せずにサブメニュー画面を終了できます。

［画像］と［セットアップ］のメニュー項目の多くは、2 階層以上のサブメニュー画面で構成されています。第 2 階層以降のサブメニュー画面での設定方法も、上の手順 5.、6.と同じです。
各メニュー項目の内容と設定方法については、各項目のページをご覧ください。

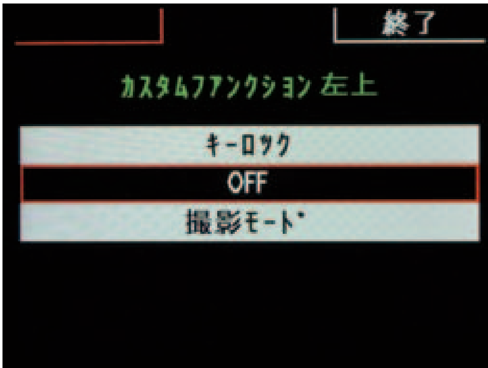
メニュー項目を直接呼び出す（カスタム設定モード）

メニューボタン（1.21、1.23、1.24）およびプレビューボタン（1.3）にメニュー項目を割り当てて、これらのボタンで直接呼びさせるようにすることができます。よく使う項目を登録することで素早く呼び出せるように設定できます。

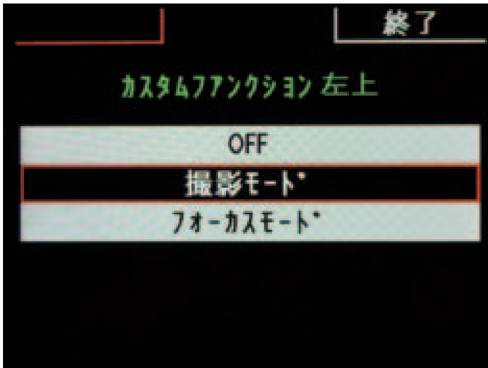


カスタム設定モードを設定する

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**カスタム設定モード**］（5.29）を選びます。



2. サブメニュー画面で割り当てるメニューボタンを選びます。
   - メニューボタンを選ぶと、割り当てるメニュー項目（5.1〜5.13、5.19、5.41）を選ぶ画面が表示されます。



3. 割り当てるメニュー項目を選びます。

残りの 2 つのメニューボタンについても、同じ手順でメニュー項目を割り当てます。

割り当てたメニュー項目を呼び出す

メニュー項目を割り当てたメニューボタンを 1 秒以上長押しします。

メモ

初期設定では「標準」に設定され、下記の項目が割り当てられています。

左上	1.24：	**ISO**
左下	1.23：	**測光モード**
右下	1.21：	**露出補正**
プレビューボタン	1.3：	**被写界深度確認**

基本設定

カメラに関する設定

表示言語
表示言語の初期設定は英語です。メニュー項目やメッセージなどは、すべて英語で表示されます。表示言語は、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、日本語、繁体中国語、簡体中国語から選べます。

表示言語を設定する
1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**Language**］（5.34）を選びます。
2. サブメニュー画面で言語を選びます。
• 略称など一部を除き、表示言語が変わります。

日付と時刻
日付と時刻は、それぞれ別のメニュー項目で設定します。

日付
年、月、日の並び順を 3 種類から選べます。

日付を設定する
1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**日付**］を選びます。
2. サブメニュー画面で［**設定**］と［**フォーマット**］が表示されます。
3. ［**設定**］を選びます。
   • ［**日付設定**］というサブメニュー画面で、年、月、日の数値が表示されます。現在選択されている（数値を変更できる）項目は、赤枠でハイライト表示されます。
4. クリックホイール（1.18）を回して数値を選び、クリックホイールを押して設定を実行します。設定を実行すると、次の項目で数値を選べるようになります。
5. 年、月、日の数値を設定したら、クリックホイールを押して設定を実行します。
   • ［セットアップ］メニュー画面に戻ります。
6. 年、月、日の並び順を変えるときは、再度［**日付**］を選びます。
7. サブメニュー画面で［**フォーマット**］を選びます。
   • 次のサブメニュー画面で［**日/月/年**］、［**月/日/年**］、［**年/月/日**］の 3 種類が表示されます。
8. クリックホイールを回して並び順を選び、クリックホイールを押して設定を実行します。

時刻
24 時間と 12 時間の表示形式から選べます。

時刻を設定する
1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**時刻**］（5.33）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**設定**］と［**フォーマット**］が表示されます。時刻を設定するときは［**設定**］を、表示形式を設定するときは［**フォーマット**］を選びます。設定方法は［**日付**］と同じです。

メモ
日付と時刻の設定は、バッテリーが入っていなかったり、バッテリーが消耗してしまったりしても、内蔵のバックアップ電池により約 3 ヶ月保存されます（「バッテリー残量表示」、17 ページ）。約 3 ヶ月経過して設定が失われてしまった場合は、本ページの手順で再設定してください。

オートパワーオフ
設定した時間が経過すると本機が自動的にスタンバイモードに移行する機能です。スタンバイモードの状態は、メインスイッチを「**OFF**」（1.15a）にして電源を切ったとき（21 ページ）と同じです。

オートパワーオフを設定する
1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**オートパワーオフ**］（5.26）を選びます。
2. サブメニュー画面で設定内容を選びます。

メモ
オートパワーオフによるスタンバイモードや、シャッターレリーズボタン（1.1）から指を離して 12 秒後に機能や表示がオフになった状態は、シャッターレリーズボタンを軽く押すと解除されます。

音声

メッセージが表示されたときやピントが合ったときに音声を鳴らすように設定できます。音量は 2 段階で調整できます。音声を鳴らすか鳴らさないかは、それぞれ個別に設定できます。

メモ

初期設定では、音声は鳴りません。

音声を設定する

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**音声**］（5.27）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**音量**］、［**AF 確認**］、［**警告**］が表示されます。
3. ［**音量**］を選びます。
   • 次のサブメニュー画面で［**小**］と［**大**］が表示されます。
4. 音量を選びます。
   • 設定を実行すると、［セットアップ］メニュー画面に戻ります。
5. ［**AF 確認**］と［**警告**］では、それぞれの場合で［**ON**］（音声を鳴らす）と［**OFF**］（音声を鳴らさない）から設定内容を選びます。

［ON］に設定した場合

［**AF 確認**］では、マニュアルフォーカスとオートフォーカスのどちらでも、ピントが合うと音声が鳴ります。なお、ピントが合うと、同時にフォーカスマーク（2.9b）も点灯します（9 ページ）。

［**警告**］では、LCD モニター（1.22）に表示されるすべてのメッセージに対して音声が鳴ります。また、セルフタイマー（40 ページ）作動中も音声が鳴ります。

［OFF］に設定した場合

［**警告**］では、［**OFF**］に設定しても、次の場合は音声が鳴ります。

• データ転送中（17 ページ）にメモリーカードカバー（1.25）を開けた場合
• センサー（撮像素子）のクリーニング（58 ページ）が終了したあとにシャッターが閉じるとき

LCD モニターと上面ディスプレイ

本機は 2 つの表示部を搭載しています。

- カラー有機 EL を採用した上面ディスプレイ（1.11）
- 3.0 型大型カラー LCD モニター（1.22）
- 上面ディスプレイでは、メモリーカード情報、バッテリー残量、撮影設定など、主な基本情報を確認できます（「3. 上面ディスプレイ」、10 ページ）。LCD モニターでは、メモリーカードに記録した画像を画面全体に表示しながら、一部の撮影情報を同時に表示できます（「4.1 通常再生表示画面」、11 ページ）。また、次のような画面も表示できます。
- 画像、より詳しい撮影情報、ヒストグラム（47 ページ）の同時表示（「4.2 情報再生表示画面」、11 ページ）
- 現在の主な撮影設定の一覧表示（「4.3 撮影設定情報画面」、12 ページ）

S2-P の LCD モニターには、保護用のカバーガラスとして、強度と耐傷性に優れたサファイアガラスが取り付けられています。

メモ

画像を表示するには、画像再生モード（46 ページ）に切り換える必要があります。オートレビューモード（46 ページ）を設定しているときは、撮影直後に画像が自動表示されます。

LCD モニターと上面ディスプレイはいずれも、明るさを手動で調整できます。周囲の光量に合わせて最も見やすい明るさを選んでください。なお、LCD モニターの明るさは、輝度センサー（1.14）により、周囲の光量に合わせて自動調整されます。LCD モニターはバックライト機能も装備しています。また、上面ディスプレイがスタンバイモードへ移行するまでの時間を選ぶこともできます。

明るさを調整する

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**モニター/ディスプレイ**］（5.27）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**LCD モニター表示**］または［**上面ディスプレイ表示**］を選びます。

LCD モニターについて設定する場合

3. 次のサブメニュー画面で［**輝度**］または［**バックライト**］を選びます。
4. 次のサブメニュー画面で明るさを選びます。［**輝度**］は 5 段階から、［**バックライト**］は 5 段階と自動調整から選べます。

上面ディスプレイについて設定する場合

3. サブメニュー画面で［**輝度**］を選びます。
4. 次のサブメニュー画面で明るさを選びます。

上面ディスプレイのスタンバイモード移行時間を設定する

1. ［**セットアップ**］メニュー画面（13、22 ページ）で［**モニター/ディスプレイ**］（5.27）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**上面ディスプレイ表示**］を選びます。
3. 次の画面で［**スタンバイ**］を選びます。
4. さらに次の画面で消灯までの時間を選びます。

画像に関する設定

記録形式/圧縮率

画像データを記録するときは、次の形式と圧縮率から選べます。

a. ［**DNG**］
b. ［**JPEG fine**］
c. ［**JPEG basic**］
d. ［**DNG + JPEG fine**］（2 種類の画像を同時に記録）
e. ［**DNG + JPEG basic**］（2 種類の画像を同時に記録）

記録形式/圧縮率を設定する

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**画像ファイル設定**］（5.10）を選びます。
2. サブメニュー画面で希望の記録形式/圧縮率を選びます。

メモ

- 記録形式/圧縮率にかかわらず、画像解像度は常に 37.5MP になります。
- ［**DNG**］（デジタル・ネガティブ）とは、RAW ファイル形式の標準フォーマットです。センサー（撮像素子）が記録したデータを、カメラ内で画像処理も圧縮もせずに、そのまま保存します。
- ［**JPEG basic**］は圧縮率が高いため、画像の複雑な部分では、情報が失われたり正確に再現できなかったりすることがあります（斜めの線がギザギザになるなどのアーチファクトが発生します）。
- 上面ディスプレイに表示される撮影可能枚数が撮影後に減らないことがあります。これは、記録に必要なデータ容量が被写体によって異なるためです。JPEG 形式の場合、複雑な細部には多めの、均一な表面には少なめのデータ容量が必要になります。被写体や圧縮率にもよりますが、一般にファイルサイズは小さめになり、メモリーカード容量もそれほど必要とはならないので、撮影前に算出されて表示された撮影可能枚数が変わらないことがあります。なお、表示の記録可能枚数は、各画像解像度における標準的なファイルサイズに基づいています。

DNG のロスレス（可逆式）圧縮

DNG を画像劣化のない圧縮 DNG に設定することができます。

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**DNG 圧縮**］（5.42）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**OFF**］または［**ON**］を選びます。

メモ

- DNG 圧縮を行うと、ファイルサイズが約 75MB から約 40MB に縮小（画像によって異なります）
- 連続撮影可能コマ数が最大 14 コマに向上（画像やカードの種類によって異なります）
- Image Shuttle による連続撮影での画像転送速度が向上

ホワイトバランス

ホワイトバランスを次の 10 種類の設定から選べます。

- **自動**：ホワイトバランスを自動調整します。ほとんどの状況で自然な色合いに再現できます。
- 7 種類のプリセット：よくある光源別に最適なプリセットを選べます。
  - **晴天**：屋外で晴天のとき
  - **曇り**：屋外で曇り空のとき
  - **日陰**：屋外で主要被写体が日陰にあるとき
  - **白熱灯**：屋内で白熱灯が主光源のとき
  - **HMI 照明**：屋内で HMI 照明が主光源のとき
  - **白色蛍光灯**：屋内で白色蛍光灯が主光源のとき
  - **昼光色蛍光灯**：屋内で昼光色蛍光灯が主光源のとき
  - フラッシュ：フラッシュが主光源のとき
- **マニュアル測光**：撮影場所の光源に合わせて、手動でデータを取得して設定します。
- **色温度**[1]：色温度を数値で直接設定します。

メモ

ライカ SF 58 フラッシュユニットや、SCA（システムカメラアダプション）-3002 システム対応フラッシュユニットと SCA-3502 アダプター（バージョン 5 以降）を使用するときは、［**自動**］に設定してもホワイトバランスが正しく調整されます。

その他のフラッシュユニットを使用するときは、［**自動**］に設定してもホワイトバランスは正しく調整されませんので、［ ］に設定してください。

[1] 単位はすべて K（ケルビン）です。

ホワイトバランスを設定する

自動調整またはプリセットを選ぶ場合

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ホワイトバランス**］（5.11）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**自動**］または希望のプリセットを選びます。

色温度を数値で直接設定する場合

設定範囲は 2000〜13100K[1] です。2000〜5000K では 100K ステップで、5000〜8000K では 200K ステップで、8000〜13100K では 300K ステップで設定できます。撮影において実際にありえる色温度のほぼすべてをカバーしているので、光源に応じてきわめて自然に、または好みに合わせて、画像の色合いを調整できます。

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ホワイトバランス**］（5.11）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**色温度**］を選びます。
   - ［**色温度ケルビン設定**］というサブメニュー画面で、数値が赤枠内に表示されます。
3. 数値を選びます。

手動で調整する場合

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ホワイトバランス**］（5.11）を選びます。
2. サブメニュー画面で［マニュアル測光］を選びます。
3. クリックホイール（1.18）を押します。
   「**注意　カメラを白い被写体に向け、シャッターボタンを押してください。**」というメッセージが LCD モニターに表示されます。
4. 白またはニュートラルグレーのものが中心にくるようにして撮影します。撮影すると、ホワイトバランスのデータが取得されます。
   - 撮影後、画像と「**ホワイトバランスセット**」というメッセージが LCD モニターに表示されます。
     露出が適切でなかった場合は、エラーメッセージが LCD モニターに表示されます。手順 1.から繰り返して、適正露出で撮影し直してください。

取得したデータは、データを取得し直すか、別のホワイトバランス設定を選ぶまで、そのままその後の撮影に使用できます。

ISO 感度

ISO 感度を 5 段階で調整できます。設定した ISO 感度に応じて、撮影状況にふさわしいシャッター速度と絞り値を設定できます。

［**Pull 80**］は、ISO 80 に相当する感度です。この感度で撮影するときは、コントラストが低めになりますので、主要被写体が露出オーバーにならないように注意してください。

ISO 感度は［**自動**］[1] にも設定できます。［**自動**］を選ぶと、明るさに応じて ISO 感度が自動設定されます。

［**自動**］では、自動設定される ISO 感度の上限や、［**自動**］が作動する露光時間（シャッター速度）の基準をあらかじめ設定して、自動設定機能を制限することもできます。

メモ

設定される ISO 感度によって、「P」プログラム AE モード、「A」絞り優先 AE モード、「B」バルブの最大シャッタースピードが変化します。

- ISO PULL80　125 秒
- ISO 160　125 秒
- ISO 320　60 秒
- ISO 640　32 秒
- ISO 1250　32 秒

ISO 感度を設定する

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ISO**］（5.9）を選びます。
2. サブメニュー画面で、設定できる ISO 感度と［**自動**］が表示されます。

手動で設定する場合

3. 希望の ISO 感度を選びます。

自動設定を選ぶ場合

3. ［**自動**］を選びます。
   - サブメニュー画面で［**OK**］、［**最大 ISO 感度**］、［**最大露光時間**］が表示されます。

自動設定機能を変更しない場合

4. ［**OK**］を選びます。
   ISO 感度は［**Pull 80**］以外の感度に自動設定され、シャッター速度は次の MENU 設定により、1/500 秒から 1/2 秒までの間に制限されます。

自動設定機能を変更する場合

4. ［**最大 ISO 感度**］または［**最大露光時間**］を選びます。
   自動設定される ISO 感度の最大値を選ぶ場合は、［**最大 ISO 感度**］を選びます。
   ［**最大露光時間**］を選ぶと、［**F 値**］と［**マニュアル設定**］のサブメニューが開きます。

5. ［**最大 ISO 感度**］を選ぶと、サブメニュー画面で感度の一覧が表示されます。一覧から自動設定される ISO 感度の上限を選びます。この感度より高く自動設定されることはありません。

5. ［**最大露光時間**］を選び、サブメニュー画面で［**F 値**］と［**マニュアル設定**］のどちらかを選択します。
   ［**F 値**］はブレを防ぐことができるシャッター速度を維持するものです。
   ここでこの［**F 値**］とは、露光時間が（レンズの焦点距離）分の一秒、たとえば 70mm のレンズの場合であれば 1/60 秒以下の露光時間を意味し、それよりも長くなる場合に、感度を高く制御します。
   F 値の大きなレンズでは適正露光でのシャッター速度が遅くなりがちでブレやすくなります。そのため［F 値］に設定するとレンズの F 値と関係する焦点距離情報を自動で把握し、その値をもとにブレを防ぐシステムを搭載しています。ただし焦点距離が長い望遠レンズの場合、上記制限は 1/125 秒を限界とします。たとえば仮に 125mm 以上の望遠レンズが装着されても 1/125 秒制限のままです。

6. ［**マニュアル設定**］では（1/2 秒から 1/500 秒までのなかで）最大露光時間を設定すると、その露光時間よりも長くならないように ISO 感度を自動的に高くしていきます。

[1] フラッシュ撮影時は機能しません。

画質を決める要素 - コントラスト/シャープネス/彩度

コントラスト、シャープネス、彩度という画質を決める 3 つの大切な要素を、メニュー項目でそれぞれ個別に 3 段階で調整できます。撮影シーンや光の状況に合わせて、最適な設定を選んでください。彩度は［**白黒**］にも設定できます。

メモ

［**画像ファイル設定**］（5.10）を［**DNG**］に設定しているときは、センサー（撮像素子）が記録したデータを処理せずにそのまま保存するので、これらの調整はできません。データをコンピューターに取り込み、RAW 現像ソフト等使用して調整してください。

コントラスト/シャープネス/彩度を調整する

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**コントラスト**］（5.14）、［**シャープネス**］（5.15）、［**彩度**］（5.16）から調整したい要素を選びます。
2. サブメニュー画面で［**低**］、［**標準**］、［**高**］の 3 段階から調整レベルを選びます。

色空間

色空間を［**sRGB**］、［**Adobe RGB**］、［**ECI RGB 2.0**］の 3 種類から選べます。

色空間を設定する

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**色空間**］（5.12）を選びます。
2. サブメニュー画面で希望の色空間を選びます。

メモ

• DNG には設定できません。

記録メディアを選ぶ

2 つのカードスロットの両方にメモリーカードが入っているときは、画像を記録するメディアや記録方法を次の中から選べます。

– ［**シーケンシャル**］：一方のメモリーカードから優先的に画像を記録し、空き容量がなくなったら、もう一方のメモリーカードに記録します。
– ［**パラレル**］：［**画像ファイル設定**］（5.10）を［**DNG + JPEG fine**］または［**DNG + JPEG basic**］に設定しているとき（28 ページ）は、［**パラレル**］を選ぶと、CF カードには DNG 形式で、SD/SDHC カードには JPEG 形式で画像が記録されます。
– ［**PC ダイレクト**］：接続ケーブルを使って画像を直接パソコンに保存します。

記録メディアを選ぶ

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**記録メディア**］（5.17）を選びます。
2. サブメニュー画面で希望の設定内容を選びます。

撮影する（画像撮影モード）

シャッターレリーズボタン

シャッターレリーズボタン（1.1）の作動ポイントは、次の 3 段階です。

1. 軽く押す：測距システム、測光システム、ファインダー表示、上面ディスプレイがオンになります。
   軽く押し続けている間は、これらがオンの状態のままになります。指を離すと、約 12 秒後にこれらがオフになります。オートフォーカスについては「オートフォーカス」（33 ページ）を、測光については「測光方法を選ぶ（測光モード）」（34 ページ）をご覧ください。

メモ

- 画像再生モード（46 ページ）の状態でシャッターレリーズボタンを軽く押すと、画像撮影モードに切り換わります。スタンバイモード（26 ページ）の状態でシャッターレリーズボタンを軽く押すと、スタンバイモードが解除され、測距システム、測光システム、ファインダー表示、上面ディスプレイがオンになります。
- 次の場合は、シャッターが切れません。
  - バッファメモリーが（一時的に）いっぱいのとき（10 枚の連続撮影後など）
  - メモリーカードに空き容量がなく、バッファメモリーも（一時的に）いっぱいのとき
  - メモリーカードが入っておらず、バッファメモリーがいっぱいのとき

2. 半押し：軽く抵抗を感じるところまで押し込み、その位置で押し続けることを「半押し」といいます。露出モードが「P」、「A」、「T」（38、39 ページ）のときに半押しすると、露出を固定できます。また、［**フォーカスモード**］を［**AFs**］（フォーカス優先）に設定しているときは、ピントも同時に固定できます。

指を離すと、ピントや露出の固定が解除されます。

メモ

露出やピントの固定は、AE/AF ロックボタン（1.17）でも行えます（35 ページ）。

3. 全押し：深く押し込むことを「全押し」といいます。全押しすると撮影できます。また、セルフタイマー撮影（40 ページ）では、セルフタイマーが作動し始めます。

連続撮影する

通常の 1 枚撮影だけでなく、連続撮影することもできます。

連続撮影する

1. ［カメラ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**撮影モード**］（5.1）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**連写**］を選びます。
3. シャッターレリーズボタンの操作により、次のように撮影できます。
   - 全押しし続けると、その間連続撮影できます。ただし、メモリーカードの容量が十分である必要があります。
   - 一瞬だけ全押しすると、1 枚だけ撮影します。

メモ

連続撮影したときは、撮影枚数にかかわらず、どちらの画像再生モード（24 ページ）でも、最後に撮影した画像が表示されます。また、連続撮影した画像すべてがバッファメモリーから使用中のメモリーカード（31 ページ）に転送されていないときは、メモリーカードに最後に記録された画像が表示されます。

表示された画像を別の画像に切り換える方法など、画像表示の各機能については、「画像を再生する（画像再生モード）」（46 ページ～）をご覧ください。

ピント合わせの方法を選ぶ（フォーカスモード）

どの S レンズでも、マニュアルフォーカスとオートフォーカスからピントの合わせかたを選べます。オートフォーカスでは、ファインダースクリーンの中央の測距点（十字線）に自動的にピントを合わせます。ピント合わせを行うと、ピントの状態に応じて、ファインダー内に次のようなフォーカスマーク（2.9）が表示されます。

- 左の三角形▷：目的の被写体よりも奥にピントが合っているときに点灯します（マニュアルフォーカスおよびマニュアル優先オーバーライドのみ）。
- 中央の円●：ピントが合っているときは点灯します。ピント合わせができないときは点滅します。
- 右の三角形◁：目的の被写体よりも前にピントが合っているときに点灯します（マニュアルフォーカスおよびマニュアル優先オーバーライドのみ）。

フォーカスマークの表示については、9 ページをご覧ください。

メモ

本機のオートフォーカス方式はパッシブ方式で、被写体の明暗差に基づいて測距を行います。そのため、コントラストが極端に低い被写体は、オートフォーカスではピントが合いにくいことがあります。

フォーカスモードを選ぶ

1. ［カメラ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**フォーカスモード**］（5.2）を選びます。
2. サブメニュー画面で希望のピント合わせの方法を選びます。

マニュアルフォーカス

レンズのフォーカスリング（1.7）を回して、ファインダー内の主要被写体がはっきり見えるようにします。
ファインダースクリーンは、用途に合わせて別売の交換用ファインダースクリーン（55 ページ）に簡単に交換できます。

メモ

マニュアルフォーカス時、［**AE-/AF-ロック**］（5.30）の設定により、AE/AF ロックボタン（1.17）を押してオートフォーカスを作動させることができます。（35 ページ）

オートフォーカス

次の 2 種類のモードから選べます。

AFs：シングル（フォーカス優先）

シャッターレリーズボタン（1.1）を軽く押し続けると、測距システムがオンになり、自動的にピントを合わせます。

- 1 度ピントが合うと、シャッターレリーズボタンをそのまま軽く押し続けても、ピントを合わせ直すことはできません。
- シャッターレリーズボタンを半押ししている間は、ピントを固定できます。
- ピントが合わないと、シャッターレリーズボタンを全押ししても撮影できません。

AFc：コンティニュアス（レリーズ優先）

シャッターレリーズボタン（1.1）を軽く押し続けると、測距システムがオンになり、自動的にピントを合わせます。

- シャッターレリーズボタンを軽く押し続けるか、半押ししている間は、ピントを合わせ直すことができます。測距システムが撮影距離の異なる被写体を検知したり、ピントを合わせた被写体までの距離が変わったりすると、ピントを合わせ直します。
- ピントは固定できません。
- ピントの状態にかかわらず、いつでもシャッターレリーズボタンを全押しして撮影できます。

メモ

ピントの固定は AE/AF ロックボタン（1.17）でも行えます（35 ページ）。

測光方法を選ぶ（測光モード）

測光モード

3 種類の測光モードから選べます。

測光モードを選ぶ

1. ［カメラ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**測光モード**］（5.3）を選びます。
2. サブメニュー画面で希望の測光方法を選びます。

スポット測光（•[1]）

画面の中央部で測光を行います。被写体の特定の部分を測光するのに適しています。

中央重点測光（□[1]）

画面の中央部に重点を置いて、全体の明るさを平均的に測光します。

マルチ測光（◘[1]）

画面全体を中央部とその周囲の 4 つのエリアに分割して測光します。

露出やピントを固定して撮影する（AE ロック/AF ロック）

露出やピントを固定して撮影できます。

- 被写体の特定の部分だけを測光したり（スポット測光）、特定の部分を重点的に測光したり（中央重点測光）してから、露出を固定して撮影できます。なお、マルチ測光では、AE ロックの効果が十分に得られません。
- 被写体の特定の部分にオートフォーカスでピントを合わせてから、ピントを固定して撮影できます。

露出やピントの固定には、シャッターレリーズボタン（1.1、32 ページ）を使います。また、［セットアップ］メニュー画面の［**AE-/AF-ロック**］*（5.30）の設定内容により、AE/AF ロックボタン（1.17）を使って次の操作も行えます。

- シャッターレリーズボタンから指を離しても、露出とピントのいずれか、またはその両方を固定できます。
- シャッターレリーズボタンで固定しなかった露出またはピントを固定できます。

シャッターレリーズボタンの代わりに **AE/AF ロックボタン**を押し続ければ、露出やピントを固定したまま連続して撮影できるので便利です。

* 「AE」は「Automatic Exposure」の略で、自動露出を意味します。「AF」は「Auto Focus」の略です。

シャッターレリーズボタンで固定する場合

1. 露出やピントを合わせたい部分にファインダースクリーンの中央の円を合わせます。
2. シャッターレリーズボタン（1.1）を半押しします。半押ししている間は、露出とピントが固定されたままになります。
   露出がロックされると露出インジケーター（2.7）が点灯します。
3. 露出モードが P、A、T（38、39 ページ）のときは、固定した露出値と新しい露出値の差を露出インジケーター（2.7）で確認できます。この間に絞り値とシャッター速度のいずれかを変更すると、もう一方の設定値も変更され、ファインダー内の表示も変わります。
4. シャッターレリーズボタンを半押ししたまま、構図を決めます。
5. シャッターレリーズボタンを全押しして撮影します。

シャッターレリーズボタンを半押しした状態から指を離すと、固定が解除されます。

[1] ファインダー内に表示されるマークです（9 ページ）。

AE/AF ロックボタンで固定する場合

AE ロック/AF ロックについて設定する

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**AE-/AF-ロック**］（5.30）を選びます。
2. サブメニュー画面の［AF モード時］では次の中から設定内容を選びます。
   - **AF-L**
     シャッターレリーズボタンを半押しすると露出とピントが固定されます。その状態で AF/AE ロックボタンを押し続けると、シャッターレリーズボタンから指を離してもピントが固定されたままになります。
   - **AE-L**
     シャッターレリーズボタンを半押しすると露出とピントが固定されます。その状態で AF/AE ロックボタンを押し続けると、シャッターレリーズボタンから指を離しても露出が固定されたままになります。
   - **AF-L + AE-L**
     シャッターレリーズボタンを半押しすると露出とピントが固定されます。その状態で AF/AE ロックボタンを押し続けると、シャッターレリーズボタンから指を離しても露出とピントの両方が固定されたままになります。
3. サブメニュー画面の［MF モード時］では次の中から設定内容を選びます。
   - **AFs オン**
     AF/AE ロックボタンを押すと［**AFs**］（33 ページ）と同じピント合わせの方法で撮影できます。
   - **AFs オン / AE-L**
     AF/AE ロックボタンを押し続けると［**AFs**］（33 ページ）と同じピント合わせを行い、露出が固定されたままになります。
   - **AFc オン**
     AF/AE ロックボタンを押し続けると［**AFc**］（33 ページ）と同じピント合わせの方法で撮影できます。
   - **AFc オン / AE-L**
     AF/AE ロックボタンを押し続けると［**AFc**］（33 ページ）と同じピント合わせを行い、露出が固定されたままになります。
   - **AE-L**
     AF/AE ロックボタンを押し続けると露出が固定されたままになります。

露出を補正する

露出を補正する

1. ［カメラ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**露出補正**］（5.4）を選びます。
   - サブメニュー画面で目盛と赤い矢印が表示されます。矢印が［**0**］を指しているときは、露出補正されていないことを示します。
2. クリックホイール（1.18）を回して、希望の補正値を選びます。
   - 設定を実行すると、メニュー画面に補正値が［**EV ±X**］[1] と表示されます。

ファインダー内の表示

– 露出補正マーク（2.2）が点灯します。

上面ディスプレイの表示

– ＋側に補正すると「**+**」が、ー側に補正すると「**-**」（3.9a）が表示されます。

メモ

設定した補正値は、本機の電源を切っても記憶されます。

重要

設定した補正値は自然光の測光にのみ有効で、フラッシュ光が届く被写体の露出は変わりません。フラッシュ撮影については、「フラッシュを使って撮影する」（43 ページ～）をご覧ください。

[1] プラスまたはマイナスのいずれかが表示されます。**X** は数値を示します。

露出を自動的に変えながら撮影する（オートブラケット）

本機は、撮影フレーム数と補正値のステップ間隔を選んで、露出を自動的に変えながら撮影するオートブラケット機能を装備しています。撮影フレーム数と補正値のステップ間隔は、次の中から選べます。

- 補正値のステップ間隔：1/2EV、1EV、2EV、3EV
- 撮影フレーム数：3 枚、5 枚

オートブラケット撮影する

1. ［カメラ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**オートブラケット**］（5.5）を選びます。
   - サブメニュー画面で、［**フレーム数**］と［**間隔**］を選ぶボックスと、露出値を示す目盛が表示されます。最初に［**フレーム数**］を選ぶボックスがハイライト表示されます。
     同時に露出補正を設定しているときは、露出補正値が目盛の下に表示されます。
2. クリックホイール（1.18）を回して［**フレーム数**］を選びます。
   - 選んだフレーム数と同じ数の赤い矢印が目盛の上に表示されます。矢印の示す値が撮影時の補正値です。

メモ

露出モードが「**P**」、「**A**」、「**T**」（38、39 ページ）のときに同時に露出補正を設定していると、補正された露出値を基準に露出を変えながらオートブラケット撮影を行います。

3. クリックホイールを押して設定を実行します。
   - 設定を実行すると、［**間隔**］を選ぶボックスがハイライト表示されます。また、選んだフレーム数と同じ数の赤い矢印が目盛の上に表示されます。矢印の示す値が撮影時の補正値です。

4. クリックホイールを回して［**間隔**］を選びます。
   - 選んだ間隔に応じて、矢印の位置が変わります。

メモ
- フレーム数と間隔の設定によって露出値の範囲が±3EV を超えると、目盛が±6EV まで表示されます。また、矢印の位置も変わります。
- ［**フレーム数**］を設定しないと、オートブラケット撮影できません。

5. クリックホイールを押して設定を実行します。
   - メニュー画面に設定内容が［**XEV / X**］[1] と表示されます。

ファインダー内の表示
– 露出補正マーク（2.2）が点灯します。
– 設定した間隔に応じて、オートブラケット撮影中に絞り値（2.6）やシャッター速度（2.8）の表示が変わります。

上面ディスプレイの表示
– 露出モード（3.8）の右上に、「**0**」（標準露出での撮影前）、「**-**」（ー補正での撮影前）、「**+**」（＋補正での撮影前）が順番に表示されます。
– オートブラケット撮影の進行状況（3.9b）が表示されます。

メモ
- 露出を変える方法（シャッター速度または絞り値の変更）は、露出モード（「露出を設定する」、37 ページ）により異なります。
- ＋補正→標準露出→ー補正の順に撮影します。
- ［**ISO**］を［**自動**］に設定しているとき（30 ページ）は、機能に次のような制限があります。
  - 標準露出での撮影時に自動設定された ISO 感度で残りの撮影も行います。
  - ［**自動**］のサブメニュー画面での設定内容は無効となり、シャッター速度の制限はなくなります。
- 撮影設定により、オートブラケットの効果に制限が生じることがあります。その場合でも、設定したフレーム数で撮影できますが、補正効果が得られないことがあります。
- 設定内容は、メニュー画面で再設定するか本機の電源を切るまで記憶されます。

測光範囲を超える場合
本機の測光範囲を超える場合は、正確に測光できないため、ファインダー内の表示にかかわらず、適正露出は得られません。測光範囲を下回る場合は、ファインダー内に「**LO**」（2.8b）が表示されます。

[1] 最初の **X** は間隔を、次の X はフレーム数を示します。

露出を設定する

シャッター速度や絞り値を設定する/露出モードを選ぶ

露出に関する次の操作は、シャッター速度ダイヤル（1.10）とクリックホイール（1.18）で行います。

- 3 つの自動露出モードの切り換え
- シャッター速度と絞り値の手動設定
- バルブ撮影時の露光時間設定（最大 125 秒）

露出モード、シャッター速度、絞り値はいずれも、ファインダー（1.16）内と上面ディスプレイ（1.11）に表示されます。各表示については、「2. ファインダー」（9 ページ）および「3. 上面ディスプレイ」（10 ページ）をご覧ください。

シャッター速度ダイヤル

シャッター速度ダイヤル（1.10）は、露出モードが「T」（シャッター速度優先 AE モード）または「m」（マニュアルモード）のときに、シャッター速度を手動で設定するために使います。

シャッター速度ダイヤルで設定できるシャッター速度の範囲は、撮影に使用するシャッターの種類により異なります。

- カメラ本体が搭載したフォーカルプレーンシャッターで撮影するとき（メインスイッチを「FPS」に設定、21 ページ）は、1/4000〜8 秒です。
- 一部のレンズが搭載したレンズシャッターで撮影するとき（メインスイッチを「CS」に設定、21 ページ）は、1/500〜8 秒です。8 秒より遅いシャッター速度に設定した場合は、自動的にフォーカルプレーンシャッターでの撮影に切り換わります。1/500 秒より速いシャッター速度に設定した場合は、撮影できません。
- どちらのシャッターで撮影する場合でも、シャッター速度は 1/2 段ステップで設定できます。

シャッター速度ダイヤルを「A」にすると、露出モードを「P」（プログラム AE モード）または「A」（絞り優先 AE モード）にして撮影できます。シャッター速度は連続的に自動設定されます。

シャッター速度ダイヤルを「B」にすると、バルブ撮影できます。露光時間は最大 125 秒で、設定された ISO 感度（30 ページ）により変化します。

本機のフラッシュ機能と互換性のないフラッシュユニットを使用して、フォーカルプレーンシャッターでフラッシュ撮影する場合は、フラッシュ同調速度の 1/125 秒以下に設定することをおすすめします。

クリックホイール

クリックホイール（1.18）を回すと、露出モードが「A」または「m」のときに、絞り値を手動で設定できます。絞り値は 1/2 段ステップで設定できます。

クリックホイールを押すと、露出モード「P」と「A」の切り換えと、「T」と「m」の切り換えが行えます。

バルブ撮影時、最大 125 秒までの露光時間をクリックホイールで設定できます。（39 ページ）

露出モードが誤って変更されることを防ぐため、露出モードを切り換えるときのクリックホイールの操作方法をメニュー画面で設定することができます。

操作方法は次の 2 種類から選べます。

- ［ショートプッシュ］：クリックホイール短押しで露出モードを切り換えます。
- ［ロングプッシュ］：クリックホイール長押しで露出モードを切り換えます。

1. ［セットアップ］メニュー画面（12、22 ページ）で[コマンドダイアル操作]（5.40）を選びます。
2. サブメニュー画面で［ショートプッシュ］または［ロングプッシュ］を選びます。

シャッター速度ダイヤルとクリックホイールの操作と機能は、下の表のとおりです。

シャッター速度ダイヤル	クリックホイール	
	押す	回す
シャッター速度の手動設定（1/4000〜8 秒）	露出モード「T」/「m」の切り換え	- 露出モードが「T」のとき なし - 露出モードが「m」のとき 絞り値の手動設定
「A」に設定	露出モード「P」/「A」の切り換え	- 露出モードが「P」のとき プログラムシフト（38 ページ） - 露出モードが「A」のとき 絞り値の手動設定
「B」に設定	バルブ時間設定メニューの呼び出しと設定	バルブ、8〜最大 125 秒までの露光時間手動設定

露出モード
本機には、次の 4 つの露出モードがあります。

P：プログラム AE モード
被写体の明るさに応じて、適正露出になるようにシャッター速度と絞り値が連続的に自動設定されます。自動設定の範囲は、シャッター速度が 1/4000〜最大 125 秒（レンズシャッターでの撮影時は 1/500〜32 秒）、絞り値が使用レンズの開放絞り〜最小絞りです。

プログラム AE モードで撮影する
1. シャッター速度ダイヤル（1.10）を「**A**」にします。
2. クリックホイール（1.18）を押して、上面ディスプレイに露出モードの「**P**」（3.8）を表示させます。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示
- 露出モードとして「**P**」（2.5.a、3.8）が表示されます。
- 自動設定されたシャッター速度（2.8a、3.12）と絞り値（2.6、3.11）が表示されます。

メモ
- プログラム AE モードのときは、［**ISO**］を［**自動**］に設定しているとき（30 ページ）に、［**F 値**］に強制的に設定されています。
  ただしそのときでも、ISO 感度が最大値に制御され、絞りが開放に制御され、かつ適正露光レベルよりも暗いときは、通常での［**F 値**］制限値よりもさらに長い露光時間に制御され、適正露光を得ようとします。
- 被写体が明るすぎるために、本機で設定できるシャッター速度や絞り値の範囲では露出オーバーになってしまう場合は、ファインダー内に「**HI**」（2.8b）が表示されます。被写体が暗すぎるために、本機で設定できるシャッター速度や絞り値の範囲では露出アンダーになってしまう場合は、ファインダー内に「**LO**」（2.8b）が表示されます。「**LO**」が表示される場合は、同時に本機の測光範囲を下回っていることもあります（「測光範囲を超える場合」、36 ページ）。

プログラムシフト
プログラム AE モードでは、本機が自動的に決定した適正露出を維持したまま、シャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。

プログラムシフトを使う
クリックホイール（1.18）を回して、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせにします。
- 絞りを開きたい（絞り値を小さくしたい）ときや、シャッター速度を速くしたいときは、右に回します。
- 絞り込みたい（絞り値を大きくしたい）ときや、シャッター速度を遅くしたいときは、左に回します。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示
- 露出モードとして「**P**」（2.5.a、3.8）が表示されます。
- 上面ディスプレイにプログラムシフト使用表示の「**S**」（3.10）が表示されます。
  クリックホイールを回すと、自動設定されたシャッター速度（2.8a、3.12）と絞り値（2.6、3.11）の表示が変わります。

メモ
次の場合は、プログラムシフトは解除されません。
- 撮影後
- 測距システムと測光システムがオフになった状態（32 ページ）を解除したとき

次の場合は、プログラムシフトは解除されます。
- 他の露出モード（「**A**」、「**T**」、「**m**」）に切り換えたとき
- 本機の電源を入れ直したとき
- **オートパワーオフ**によるスタンバイモードを解除したとき

これら場合、再度プログラム AE モードで撮影するときは、本機が自動設定したシャッター速度と絞り値に戻ります。

A：絞り優先 AE モード
絞り値を手動設定すると、被写体の明るさに応じて、適正露出になるようにシャッター速度が連続的に自動設定されます。自動設定の範囲は、1/4000〜最大 125 秒（レンズシャッターでの撮影時は 1/500〜32 秒）です。

絞り優先 AE モードで撮影する
1. シャッター速度ダイヤル（1.10）を「**A**」にします。
2. クリックホイール（1.18）を押して、上面ディスプレイに露出モードの「**A**」（3.8）を表示させます。
3. クリックホイールを回して希望の絞り値に設定します。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示
- 露出モードとして「**A**」（2.5.b、3.8）が表示されます（「**A**」は「Aperture」の略で、絞り値を意味します）。
- 手動設定した絞り値（2.6、3.11）が表示されます。
- 自動設定されたシャッター速度（2.8a、3.12）が表示されます。

メモ
- ［**ISO**］を［**自動**］に設定しているとき（30 ページ）は、一定の ISO 感度に設定しているときよりも、シャッター速度と絞り値の設定範囲が広くなります。
- 被写体が明るすぎる場合は「**HI**」（2.8b）が、暗すぎる場合は「**LO**」（2.8b）がファインダー内にそれぞれ表示されます。その場合は、絞り値を変更してください。なお、本機の測光範囲を下回る場合（36 ページ）も「**LO**」が表示されます。その場合は、絞り値にかかわらず適正露出は得られません。

T：シャッター速度優先 AE モード

シャッター速度を手動設定すると、被写体の明るさに応じて、適正露出になるように絞り値が連続的に自動設定されます。自動設定の範囲は、使用レンズの開放絞り～最小絞りです。

シャッター速度優先 AE モードで撮影する

1. シャッター速度ダイヤル（1.10）を希望のシャッター速度に設定します。
2. クリックホイール（1.18）を押して、上面ディスプレイに露出モードの「**T**」（3.8）を表示させます。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示

- 露出モードとして「**T**」（2.5.c、3.8）が表示されます（「**T**」は「Time」の略で、露光時間を意味します）。
- 自動設定された絞り値（2.6、3.11）が表示されます。
- 手動設定したシャッター速度（2.8a、3.12）が表示されます。

メモ

- ［**ISO**］を自動に設定しているとき（30 ページ）は、固定 ISO 感度設定のときよりも、T-モードでの制御レンジが広くなります。
  また［**ISO**］→［**自動**］→［**最大露光時間**］で設定した最大露光時間設定は無効となり、シャッターダイアルでの露光時間を優先します。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、設定したシャッター速度に対して使用レンズの絞り値では適正露光がえられないことがあります。その場合は、シャッター速度を変更してください。もしそのまま使う場合でも、手動で設定した露光時間が適正方向に修正されます。本機の測光範囲を下回る場合は（36 ページ）は、ファインダー内に「**LO**」が表示されます。その場合は、シャッター速度にかかわらず適正露出は得られません。

m：マニュアルモード

シャッター速度と絞り値の両方を手動で設定します。

マニュアルモードで撮影する

1. シャッター速度ダイヤル（1.10）を希望のシャッター速度に設定します。
2. クリックホイール（1.18）を押して、上面ディスプレイに露出モードの「**m**」（3.8）を表示させます。
3. クリックホイールを回して希望の絞り値に設定します。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示

- 露出モードとして「**m**」（2.5.d、3.8）が表示されます。
- 手動設定したシャッター速度（2.8a、3.12）と絞り値（2.6、3.11）が表示されます。
- 露出値を確認できる露出インジケーター（2.7）が表示されます。

露出インジケーターには、手動設定したシャッター速度と絞り値の組み合わせによる露出値と、本機の測光による露出値の差が、±3EV の範囲内で 1/2EV ステップで表示されます。露出値の差が±3EV を超えると、露出インジケーターの右端または左端の目盛のいずれかが点滅します。

適正露出を得るには、露出インジケーターの中央にある「0」の目盛だけが点灯するように、シャッター速度または絞り値を調整します。

メモ

［**ISO**］を［**自動**］に設定しているとき（30 ページ）でも、最後に手動で設定した感度が使われます。また［**ISO**］→［**自動**］→［**最大露光時間**］で設定したシャッター速度設定は無効になります。

バルブ撮影する

シャッター速度ダイヤルを「**B**」にすると、シャッターレリーズボタンを押し続けている間シャッターが開いた状態になり、バルブ撮影できます。露光時間は最大 125 秒です。

セルフタイマー（40 ページ）を使ってバルブ撮影することもできます。これを T モードといいます。T モードでは、シャッター速度ダイヤルを「**B**」にしてから、シャッターレリーズボタンを押してセルフタイマーを作動させると、設定した時間が経過したあとに自動的にシャッターが開いた状態になります。シャッターは、シャッターレリーズボタンを再度押すまで開いた状態になります。シャッターを押し続ける必要がないので、長時間の露光でもブレを抑えて撮影できます。

バルブ撮影時と T モード撮影時は、測光システムは作動しません。

バルブ撮影の拡張メニューで 8 秒以上の露光時間を設定することができます。クリックホイールを押してバルブ時間設定メニューを呼び出し、クリックホイールを回転させて B（バルブ）、8 秒、12 秒、16 秒、24 秒、32 秒、45 秒、60 秒、90 秒、125 秒（ただし、設定された ISO 感度により変化　30 ページ）から選択し、クリックホイールを押して決定してください（37 ページ）。設定露光時間は上面ディスプレイに表示されます。

ファインダー内の表示

- シャッター速度の代わりに「**bul b**」（2.8c）が表示されます。

上面ディスプレイの表示

- 「**B**」（3.13）が表示されます。
- シャッターが開いてからの経過時間（3.12）が秒単位で表示されます。

メモ

- 露光時間が長くなると、ノイズが目立つことがあります。本機では、わずらわしいノイズを低減するために、遅いシャッター速度で撮影したときは、撮影後に自動的にブラックピクチャー（シャッターを閉じた状態での撮影）として再撮影します。再撮影中に元の画像に生じたノイズをデジタル処理によって除去し、実際に撮影したデータとして保存します。
- このように露光を 2 度行うようなかたちになるため、特にバルブ撮影時には撮影完了までに時間がかかりますのでご注意ください。この機能が作動している間は、本機の電源を切らないでください。
- シャッター速度を 1/2 秒より遅く設定した場合は、撮影後に「**ノイズリダクション**」というメッセージが LCD モニターに表示されます。
- バルブ撮影と T モードは、カメラ本体が搭載したフォーカルプレーンシャッターでしか行えません。メインスイッチ（1.15）を「**CS**」にしても（21 ページ）、フォーカルプレーンシャッターでの撮影となります。

セルフタイマーを使って撮影する

セルフタイマーを 2 秒または 12 秒に設定して撮影できます。

セルフタイマーを使って撮影する

1. ［カメラ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**撮影モード**］（5.1）を選びます。
2. サブメニュー画面で設定時間を選びます。
3. シャッターレリーズボタンを全押し（「シャッターレリーズボタン」、32 ページ）して、セルフタイマーを作動させます。

メモ

セルフタイマー作動中にシャッターレリーズボタンを全押しすると、セルフタイマーを再度最初から作動させることができます。

撮影までの本機の動作

2 秒に設定した場合

最初に測光を行い、オートフォーカスに設定しているときは自動的にピントを合わせます。その後、ミラーが上がり、セルフタイマーが作動し始めます。

12 秒に設定した場合

シャッターレリーズボタンを全押しした直後にセルフタイマーが作動し始めます。その後、撮影の 2 秒前にミラーが上がります。

作動中の表示

セルフタイマーが作動し始めると、LCD モニター（1.22）に次のような表示が現れます。また、正面の LED（1.2）が次のように点灯または点滅します。

- LCD モニターには「**後に記録 Xs**」というメッセージで撮影までのカウントダウンが表示されます。
- 2 秒に設定した場合は、LED が点灯します。12 秒に設定した場合は、最初の 10 秒は LED が点滅し、残りの 2 秒はさらに早く点滅します。

セルフタイマーを中止するには

作動中のセルフタイマーを中止するには、次のいずれかの操作を行います。

- メインスイッチ（1.15）を「**OFF**」にして本機の電源を切ります。
- 12 秒に設定した場合は、作動し始めてから 10 秒以内であれば、機能表示が［中止］となっている右上のメニューボタン（1.20）を押しても中止できます。

通常の撮影に切り換えるには、［カメラ］メニュー画面の［**撮影モード**］で設定内容を変更してください。

本機の電源を入れ直すと、［**撮影モード**］の設定内容が［単写］に戻ります。

メモ

同時にミラーアップ撮影を設定しているときは、セルフタイマーで設定した時間が経過するとミラーアップ撮影されます。

ミラーアップ撮影する

ミラーアップ撮影すると、ミラーの動作や絞り込みの振動の影響を受けずに撮影できます。

ミラーアップ撮影する

1. ［カメラ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ミラーアップモード**］（5.8）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**ON**］を選びます。
3. シャッターレリーズボタンを全押し（「シャッターレリーズボタン」、32 ページ）して、ミラーを上げます。
4. 再度シャッターレリーズボタンを全押しして、撮影します。

撮影までの本機の動作

最初にシャッターレリーズボタンを押すと、測光を行い、オートフォーカスに設定しているときは自動的にピントを合わせます。その後、ミラーが上がり、絞りを設定値まで絞り込みます。シャッターは作動しません。

再度シャッターレリーズボタンを押すと、シャッターが作動して撮影します。

撮影後、ミラーが下がり、絞りが開きます。

ミラーアップ撮影を中止するには

ミラーを上げたあとに撮影せずに中止するには、メインスイッチ（1.15）を「**OFF**」にして本機の電源を切ります。電源を切ると、ミラーが下がります。

ただし、本機の電源を入れ直しても、メニュー項目での設定内容はリセットされません。通常の撮影に切り換えるには、［カメラ］メニュー画面の［**ミラーアップモード**］のサブメニュー画面で［**OFF**］を選んでください。

メモ

- ミラーアップ撮影するときは、ミラーを上げてから 2 分以内に撮影してください。2 分経過すると、バッテリー消費を防ぐために、ミラーが自動的に下がります（シャッターは作動しません）。
- ミラーを上げてから 2 分以内にシャッターレリーズボタンを半押しすると、さらに 2 分間ミラーが上がった状態になります。
- 同時にセルフタイマーを設定すると、再度シャッターレリーズボタンを押さなくても、セルフタイマーの設定時間が経過するとミラーアップ撮影されます。

被写界深度を確認する（プレビューボタン）

プレビューボタン（1.3）を押し続けると、どの露出モードでも、そのとき設定されている絞り値まで絞りが絞り込まれ、ファインダーで被写界深度を確認できます。プレビューボタンを押し続けている間は、絞り値とシャッター速度が LCD モニターと上面ディスプレイに表示されますが、測光システムはオフになります。
プレビューボタンを使うには、次の操作を行う必要があります。

1. シャッターレリーズボタン（32 ページ）を軽く押して、測光システムをオンにします。
2. シャッターレリーズボタンから指を離します。

プレビューボタンを押し続けている間は、シャッターが切れません。

メモ
カスタム設定モード（5.29）でプレビューボタンに他の機能を割り当てた場合は使用できません。（25 ページ）

その他の機能・設定

好みの設定を保存する（ユーザプロファイル）

メニュー項目の設定を組み合わせて、ユーザプロファイルとしてカメラに保存しておくことができます。同じ状況で、あるいは同じ被写体を、同じ設定で素早く撮影したいときなどに便利です。保存できるユーザプロファイルは 4 つです。保存したユーザプロファイルの名前を変更することもできます。なお、ユーザプロファイルには、初期値プロファイルもあります（設定は変更できません）。
設定を保存したユーザプロファイルは、メモリーカードに保存することもできます。メモリーカードに保存したユーザプロファイルは、別の S2 で読み込んで、同じ設定内容で撮影できます。

ユーザプロファイルを保存する

1. 保存したい項目の設定を行います。
2. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ユーザプロファイル**］（5.13）を選びます。
3. サブメニュー画面で［**プロファイル保存**］を選びます。
4. 次のサブメニュー画面で保存先のユーザプロファイルを選びます。

保存したユーザプロファイルを呼び出す

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ユーザプロファイル**］（5.13）を選びます。
   - サブメニュー画面が表示されます。すでに設定を保存しているユーザプロファイルは名前が黒で、設定を保存していないユーザプロファイルは名前が緑で表示されます。
2. 呼び出したいユーザプロファイルまたは［**初期値プロファイル**］を選びます。

メモ
ユーザプロファイルを呼び出してから設定内容を変更すると、［**ユーザプロファイル**］のサブメニュー画面では、そのユーザプロファイル名の代わりに［—］が表示されます。

保存したユーザプロファイルの名前を変更する

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ユーザプロファイル**］（5.13）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**プロファイル管理**］を選びます。
3. 次のサブメニュー画面で［**プロファイル名変更**］を選びます。
   - ユーザプロファイルの番号と名前が表示されます。最初は番号がハイライト表示されており、名前を変更するユーザプロファイルを選ぶことができます。
4. クリックホイール（1.18）を回して名前を変更したいユーザプロファイルの番号を選び、クリックホイールを押します。番号を選ぶと、名前の最初の 1 文字を変更できるようになります。クリックホイールを回して希望の英数字を選び、クリックホイールを押します。クリックホイールを押すと、次の文字がハイライト表示されて変更できるようになります。
   - ユーザプロファイル名には、アルファベット大文字（A〜Z）、数字（0〜9）、スペース（空白）が使用できます。クリックホイールを回すと、この順番で英数字とスペースが表示されます。「スペース」の次は再度「A」に戻ります。

保存したユーザプロファイルをメモリーカードに保存する/メモリーカードから読み込む

1. ［画像］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ユーザプロファイル**］（5.13）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**プロファイル管理**］を選びます。
3. 次のサブメニュー画面で［**カードからプロファイル入力**］と［**カードへプロファイル出力**］が表示されます。メモリーカードに保存するときは［**カードへプロファイル出力**］を、メモリーカードから読み込むときは［**カードからプロファイル入力**］を選びます。
   - 確認メッセージが表示されます。
4. ［**はい**］を選びます。

メモ
メモリーカードに保存するときは、設定を保存していないユーザプロファイルを含むすべてのユーザプロファイルがメモリーカードに保存されます。
メモリーカードから読み込むときは、すべてのユーザプロファイルが読み込まれ、すでに設定を保存しているユーザプロファイルを含むすべてのユーザプロファイルに上書きされます。

シャッター速度ダイアルとクリックホイールの操作をロックする

誤って露出設定が変更されることを防ぐため、シャッター速度ダイヤル（1.10）とクリックホイール（1.18）をロックすることができます。

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**キーロック**］（5.41）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**OFF**］または［**ON**］を選びます。

設定をリセットする

メニュー項目の設定をすべてリセットして、基本設定（初期状態）に戻すことができます。

設定をリセットする

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**設定リセット**］（5.22）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**はい**］を選びます。

メモ
［**ユーザプロファイル**］の［**プロファイル保存**］で保存したユーザプロファイル（本ページ）もリセットされます。

フォルダー管理

撮影した画像データは、メモリーカードの中に自動生成されるフォルダーに保存されます。フォルダー名は、3桁の数字（フォルダー番号）と5文字の英数字で構成されます。初期設定では、最初のフォルダーから順番に「100LEICA」、「101LEICA」とフォルダー名が付けられていきます。フォルダーはフォルダー番号999まで作成できます。
フォルダーはいつでも新規に作成できます。また、フォルダー名やファイル名を変更することもできます。

フォルダーを作成する/フォルダー名を変更する/ファイル名をリセットする

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22ページ）で［**画像番号**］（5.18）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**新フォルダー作成**］を選びます。
   - フォルダー名が「XXX[1]LEICA」のように表示されます。「LEICA」の部分の5文字を変更できます。最初は「L」がハイライト表示されており、この文字から変更できます。

メモ

- 新しく作成するフォルダーには、既存のフォルダー番号より大きく、かつそのメディアで使われていないフォルダー番号が付けられます。
- フォルダー番号999まで作成できます。フォルダー番号が999に達して新しいフォルダーを作成できなくなった場合は、LCDモニターにメッセージが表示されます。

3. クリックホイール（1.18）を回して希望の英数字を選び、クリックホイールを押します。クリックホイールを押すと、次の文字がハイライト表示されて変更できるようになります。
   - フォルダー名には、アルファベット大文字（A～Z）、数字（0～9）、アンダーバー（_）が使用できます。クリックホイールを回すと、この順番で英数字とアンダーバーが表示されます。「アンダーバー」の次は再度「A」に戻ります。
   すべての文字を変更したら、クリックホイールまたは機能表示が［OK］のメニューボタン（1.21）を押して設定を実行します。
   設定を実行すると、「**ファイル名リセット**」というサブメニュー画面が表示されます。
4. ［**はい**］を選びます。
   - ［セットアップ］メニュー画面に戻ります。

ファイル名を変更する

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22ページ）で［**画像番号**］（5.18）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**ファイル名変更**］を選びます。
   - ファイル名が「LXXXXXXX[1]」のように表示されます。最初の4文字を変更できます。最初は「L」がハイライト表示されており、この文字から変更できます。
3. クリックホイール（1.18）を回して希望の英数字を選び、クリックホイールを押します。クリックホイールを押すと、次の文字がハイライト表示されて変更できるようになります。
   ファイル名には、アルファベット大文字（A～Z）、数字（0～9）、アンダーバー（_）が使用できます。クリックホイールを回すと、この順番で英数字とアンダーバーが表示されます。「アンダーバー」の次は再度「A」に戻ります。
4. すべての文字を変更したら、クリックホイールを押して設定を実行します。
   - ［セットアップ］メニュー画面に戻ります。

画像番号をリセットする

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22ページ）で［**画像番号**］（5.18）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**画像番号リセット**］を選びます。
3. ［**はい**］を選びます。
   - ［セットアップ］メニュー画面に戻ります。

メモ

- フォルダー名「xxxLEICA」、ファイル名「Lxxxxxxx」もリセットされ、次の撮影からは0001から連番でファイル番号がつきます。

[1] 「X」には数字が入ります。

メモリーカードをフォーマット（初期化）する

本機でフォーマットされていないメモリーカードを使うときは、フォーマットが必要になります。

重要

メモリーカード内のデータは、本機でフォーマットしても、ディレクトリのみが削除されるだけで、完全には削除されません。そのため、特定のソフトを使えば、データを復旧することができます。新しいデータを保存して上書きした場合にのみ、データは完全に削除されます。

メモ

- メモリーカードのフォーマット中は、本機の電源を切らないでください。
- パソコンなどの他の機器でフォーマットしたメモリーカードは、本機でフォーマットし直してください。
- メモリーカードをフォーマットできない場合は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。
- メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカード内のプロテクトされている画像（50ページ）も消去されます。

メモリーカードをフォーマットする

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、33ページ）で［**フォーマット**］（5.19）を選びます。
2. サブメニュー画面で、CFカードとSD/SDHCカードのどちらをフォーマットするかを選びます。両方のメモリーカードを同時にフォーマットすることもできます。
   - フォーマットするメモリーカードを選ぶと、誤ってフォーマットしてしまうのを防ぐために、フォーマットしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。
3. ［**はい**］を選びます。

フラッシュを使って撮影する

対応フラッシュユニット

現行規格の ISO 10330 または旧規格の DIN 19014 に準拠する一般的なクリップオンフラッシュユニットおよびスタジオ用ストロボ（シンクロ接点が＋極性のもの）が使用できます[1]。
標準的なプラグを装備したシンクロコード付きのフラッシュユニットも使用できます。シンクロコードをシンクロターミナル（1.30）に接続してください。
次の 2 種類のフラッシュユニットは、本書に記載されているフラッシュ機能に対応しています。

- ライカ SF 58（コード番号 14488）
  汎用性の高い高性能フラッシュユニットです。最大でガイドナンバー 58（照射角 105mm）の大光量、使用レンズの焦点距離に合わせて照射角が自動設定されるメインリフレクター、サブリフレクターなど、多彩な機能を搭載しています。取り付け脚に装備した制御接点と信号接点により、カメラ本体との間で設定値などのデータ通信が自動で行われるので、非常に便利です。
- SCA（システムカメラアダプション）-3002 システム対応フラッシュユニットと SCA-3502 アダプター（バージョン 5 以降）[2, 3]
  ガイドナンバー制御による調光とハイスピードシンクロ撮影（44 ページ）に対応します。
  また、取り付け脚が標準で、中央接点（シンクロ接点、1.13a）が＋極性であれば、この接点によって発光できるその他のフラッシュユニット[4, 5]も使用できます。最新のサイリスタ制御式エレクトロニックフラッシュユニットの使用をおすすめします。ただし、TTL 調光は行えません。

メモ

本機のフラッシュ撮影では、実際の撮影の前に 1 回または複数回プリ発光を行い、必要な発光量を測定します。その直後に、実際の撮影と同時にメイン発光を行います。
フィルター、絞り値、撮影距離、被写体の反射率といった、フラッシュ撮影に影響を与える諸条件は、すべて自動的に考慮されます。

[2] SCA-3502 アダプター（バージョン 5 以降）を使用する場合は、［**ホワイトバランス**］（29 ページ）を［**自動**］に設定しても自然な色合いで撮影できます。
[3] 他社製のフラッシュユニットと SCA-3502 以外の SCA アダプターを併用しないでください。接点の位置や機能が異なるため、本機が正常に動作しないばかりか、故障の原因となることがあります。
[4] 本機のフラッシュ機能とは互換性のないフラッシュユニットを使用する場合は、［**ホワイトバランス**］（29 ページ）を［ϟ］に設定してください。
[5] 絞り値と ISO 感度は、手動でフラッシュユニットに入力してください。

フラッシュ同調速度

一般的なフラッシュユニットを使用するときのフラッシュ同調速度は、フォーカルプレーンシャッターでの撮影時は 1/125 秒、レンズシャッターでの撮影時は 1/500 秒です。本機のハイスピードシンクロ機能（44 ページ）に対応したフラッシュユニットを使用すれば、フラッシュ撮影時のシャッター速度を本機の最高速度まで設定できます。
スタジオ用ストロボを使用する場合は、一般に発光時間が本機のフラッシュ同調速度より長いため、発光量を十分に活用できるように、シャッター速度を遅めに設定することをおすすめします。

同調速度、同調レンジを選択する

LEICA S2 は、フラッシュをつかった写真に対し、被写体や構図にあわせて絞り優先、あるいはプログラム AE モードでのシャッター速度を被写体にあわせて修正できます。これらに対し、自動設定、あるいはマニュアル設定ができます。

機能設定

1. ［カメラ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**シャッター速度制限**］（5.6）を選びます。
2. サブメニューで［**F 値**］か［**マニュアル設定**］をえらびます。
3. ［**マニュアル設定**］では作動するシャッター速度の最速値を設定できます。

メモ

- ［**F 値**］では、自動設定されるシャッター速度の最低速が、使用レンズの焦点距離に基づき、手持ち撮影でブレずに撮影できる限界である「焦点距離分の 1」秒に設定されます。例えばズマリット S f2.5/70mm ASPH.ならば、1/60 秒となります。F 値の大きなレンズでは適正露光でのシャッター速度が遅くなりがちで、ブレやすくなります。そのため［**F 値**］に設定すると、レンズの F 値と関係する焦点距離情報を自動で把握し、その値をもとにブレを防ぐ同調速度制御システムを搭載しています。ただし焦点距離が長い望遠レンズの場合、上記制限は 1/125 秒を限界とします。たとえば仮に 125mm 以上の望遠レンズが装着されても、1/125 秒制限のままです。（30 ページ）
- ［**マニュアル設定**］で速度を選ぶボックスには、初期設定では［**F 値**］が表示されます。

フラッシュ同調のタイミングを選ぶ

フラッシュ同調のタイミングを、通常の先幕シンクロと、露光の終わり（後幕が走行を始める直前）に発光する後幕シンクロから選べます。対応フラッシュユニットであれば、本機のフラッシュ機能との互換性の有無や接続方法（アクセサリーシューまたはシンクロコード）にかかわらず、また本機の撮影設定やフラッシュユニットの設定にもかかわらず、フラッシュ同調のタイミングを選べます。

フラッシュ同調のタイミングを選ぶ

1. ［カメラ］メニュー画面（13、22 ページ）で［フラッシュ同調モード］（5.7）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**先幕シンクロ**］と［**後幕シンクロ**］からフラッシュ同調のタイミングを選びます。

フラッシュユニットを取り付ける

アクセサリーシュー（1.13）にフラッシュユニットを取り付けます。フラッシュユニットの取り付け脚を奥まで確実に差し込み、ロックナットが付いている場合はしっかり締め付けて、フラッシュユニットが外れてしまうことのないようにしてください。制御接点と信号接点があるフラッシュユニットは、接点とアクセサリーシューの位置がずれてしまうと、データや設定が正しく通信されず、フラッシュ機能が正常に使えなくなることがありますので、取り付けには特に注意してください。

メモ

フラッシュユニットと本機の電源を切ってからフラッシュユニットを取り付けてください。

カメラによる発光量の自動制御

カメラ側で発光量を自動制御してフラッシュ撮影するときは、フラッシュユニットを装着して電源を入れ、TTL 調光モード（ライカ SF 58 では TTL-HSS 調光モード）を選んでから、本機で次の操作を行います。

1. 撮影ごとに、まずシャッターレリーズボタンを軽く押して測光システムをオンにし、シャッター速度や露出インジケーターをファインダーに表示します。シャッターレリーズボタンを一気に全押ししてしまうと発光されません。
2. 希望の露出モードを選び、シャッター速度や絞り値を設定して露出を決めます。シャッター速度によって、通常のフラッシュ撮影かハイスピードシンクロ撮影になるかが決まります。

TTL 調光モード

本機のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニット（43 ページ）では、本機が発光量を自動決定する TTL 調光モードでフラッシュ撮影できます。TTL 調光モードは、すべての露出モードで使用できます。

また、日中シンクロ撮影では、フラッシュ光と自然光のバランスを考慮して、発光量を自動調整します。発光量は、自然光の明るさに応じて、最大で 1 2/3EV 減少します。自然光が明るすぎるために、シャッター速度がフラッシュ同調速度（フォーカルプレーンシャッターでの撮影時は 1/125 秒、レンズシャッターでの撮影時は 1/500 秒）より速くなった場合は、自動的にハイスピードシンクロ撮影に切り換わります。ハイスピードシンクロ撮影については、「ハイスピードシンクロ（FP 発光）」をご覧ください。

本機のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットには、本機で設定した ISO 感度と絞り値が送信されます。これらのデータに基づいて、フラッシュユニットが発光量を自動調整します。

メモ

- 次の「ハイスピードシンクロ（FP 発光）」から「自動調光モード」の項目で説明する機能は、本機のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットでのみ使用できます。
- カメラ側で設定した露出補正値（35 ページ参照）は、背景の被写体への露光量にのみ反映されます。もし TTL フラッシュの発光量補正をする場合、上記露出補正とは独立して設定できます。
- ハイスピードシンクロ撮影では、シャッター幕が走行している間に継続的に連続発光するため、発光に必要なエネルギーが分散され、発光量が小さめになります。
- フラッシュユニット（特に本機のフラッシュ機能と互換性のないもの）の使用方法や機能については、各フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

ハイスピードシンクロ（FP 発光）

本機のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニット（43 ページ）では、フラッシュ撮影時のシャッター速度を本機の最高速度まで設定できるハイスピードシンクロ機能を使用できます。ハイスピードシンクロ撮影は、すべての露出モードで行えます。シャッター速度がフラッシュ同調速度（フォーカルプレーンシャッターでの撮影時は 1/125 秒、レンズシャッターでの撮影時は 1/500 秒）より速くなると、自動的にハイスピードシンクロ撮影に切り換わります。手動で設定する必要はありません。

ストロボモード

本機のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニット（43 ページ）では、シャッターが開いている間に連続発光できるストロボモードを使用できます。ストロボモードは、すべての露出モードで使用できます。

露出モードが「P」または「A」のときは、フラッシュユニットで設定した発光回数と発光間隔に応じて、シャッター速度が自動設定されます。被写体が明るすぎるために、自動設定されたシャッター速度では露出オーバーになる場合は、露出インジケーター（2.7）で確認できます。

露出モードが「T」または「m」のときは、フラッシュユニットで設定した発光回数と発光間隔に対して速すぎるシャッター速度を設定すると、ファインダー内と上面ディスプレイのシャッター速度表示（2.8、3.12）が点滅します。

露出オーバーになったりシャッター速度表示が点滅したりした場合は、発光回数、発光間隔、絞り値、シャッター速度（露出モードが「T」または「m」のときのみ）を変更して、露出を調整してください。

ストロボモードでフラッシュ撮影すると、動きのある被写体を分解写真のように 1 枚に写し込めます。ストロボモードで正しくフラッシュ撮影するには、発光量、発光回数、撮影距離、絞り値を正しく設定することが重要です。詳しくは、フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

フラッシュユニット使用時のファインダー表示

本機のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニット（43 ページ）を使用するときは、ファインダー内のフラッシュマーク（2.4a）により、フラッシュユニットの状態を確認できます。

- フラッシュユニットの電源が入って充電が完了しているが、「ϟ」が点灯しない：
  フラッシュユニットの発光モードが正しく設定されていないなどの理由から、発光できません。
- 撮影前、「ϟ」が点滅する：
  充電が完了していません。
- 撮影前、「ϟ」が点灯する：
  発光できます。
- 撮影後、「ϟ」が点灯している：
  引き続き発光できます。
  フラッシュユニットで調光補正を行っているときは、「+」または「–」（2.4b）が表示されます。

外部調光モード

本機のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニット（43 ページ）で外部調光モードに設定すると、カメラではなくフラッシュユニットの調光センサーが被写体の反射光を測光し、発光量を自動調整します。カメラで設定した露出モードは、フラッシュ撮影時ではない通常の撮影時と同じように機能します。シャッター速度がフラッシュ同調速度より速く設定された場合（露出モードが「P」または「A」のとき）や、シャッター速度をフラッシュ同調速度より速く設定した場合（露出モードが「T」または「m」のとき）は、フラッシュは発光されません。

露出モードが「P」、「A」、「T」のときは通常の露出での撮影となりますので、発光量を－1～－2EV にするなど、調光補正を行ってください。本機のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットを使用するときは、使用レンズで設定した絞り値がフラッシュユニットに送信され、その絞り値に基づいて発光量が自動調整されます。カメラで設定した ISO 感度や、自然光に基づく露出補正値（カメラで設定）と調光補正値（フラッシュユニットで設定）も、フラッシュユニットによる発光量の自動調整に考慮されます。

マニュアル発光モード

マニュアル発光モードでは、被写体の明るさに関係なく、常にフル発光または特定の発光量（設定可能な場合）でフラッシュ撮影します。カメラで設定した露出モードは、フラッシュ撮影時ではない通常の撮影時と同じように機能します。

シャッター速度がフラッシュ同調速度より速く設定された場合（露出モードが「P」または「A」のとき）や、シャッター速度がフラッシュ同調速度より速く設定した場合（露出モードが「T」または「m」のとき）は、フラッシュは発光されません。

適正露出を得るための絞り値、発光量、撮影距離などは、それぞれ計算によって求められます。例えば、絞り値を求めるときは発光量、ISO 感度、撮影距離から、発光量を求めるときは絞り値、ISO 感度、焦点距離、撮影距離から算出します。詳しくは、フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

アクセサリーシューに接続するフラッシュユニット

本機のフラッシュ機能と互換性のないフラッシュユニットをアクセサリーシューに接続して使用する場合は、本機とフラッシュユニットとの間でデータは通信されません。本機はフラッシュユニットを認識せず、通常の撮影時と同じように機能します。シャッター速度は自動設定されませんので、手動でフラッシュ同調速度（フォーカルプレーンシャッターでの撮影時は 1/125 秒、レンズシャッターでの撮影時は 1/500 秒）以下に設定してください。フラッシュユニットの状態を示すフラッシュマークも表示されません。

発光量は、外部調光モードを装備したフラッシュユニットの場合は、フラッシュユニットの調光センサーにより自動調整されます。また、適正露出になるように手動で設定することもできます。詳しくは、フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

シンクロコードで接続するフラッシュユニット

標準的なプラグを装備したシンクロコード付きのフラッシュユニットやスタジオ用の大型ストロボは、シンクロターミナルに接続して使用できます。シンクロコードで接続した場合は、本機はフラッシュユニットを認識せず、通常の撮影時と同じように機能します。シャッター速度は自動設定されませんので、手動でフラッシュ同調速度（フォーカルプレーンシャッターでの撮影時は 1/125 秒、レンズシャッターでの撮影時は 1/500 秒）以下に設定してください。フラッシュユニットの状態を示すフラッシュマークも表示されません。

画像を再生する（画像再生モード）

画像再生モードに切り換える

電源を入れたあとは、常に画像撮影モードになります。本機が使用できる状態（21 ページ）になっても、LCD モニター（1.22）には何も表示されません。

撮影画像を再生するには、次の 2 つのモードのいずれかに切り換えます。

- ［再生］モード　時間の制限なく画像を表示します。
- **オートレビューモード**　撮影直後の画像を自動的に表示します。

時間の制限なく画像を表示する（［再生］モード）

［再生］モードに切り換える

右上のメニューボタン（1.20）を押します。次のいずれの状態からでも、［再生］モードに切り換えることができます。

- 画像撮影モード（モニターが消灯した状態）のとき
- LCD モニターが撮影設定情報画面（4.3、12 ページ）のとき
- オートレビューモードで画像が表示されているとき

最後に撮影した画像が撮影情報（4.1.1〜4.1.7、11 ページ）とともに表示されます。

- メモリーカードに画像が何も記録されていない場合は、「**表示画像がありません。**」というメッセージが表示されます。

撮影直後の画像を自動表示する（オートレビューモード）

撮影直後に画像が自動的に LCD モニター（1.22）に表示されます。
オートレビューモードでは、次の 2 つの機能を設定できます。

- 画像が表示される時間（レビュー時間）
- ヒストグラム（47 ページ）の同時表示/非表示

オートレビューモードを設定する

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**オートレビュー**］（5.23）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**レビュー時間**］を選びます。
3. 次のサブメニュー画面で［**Off**］、［**1 秒**］、［**3 秒**］、［**5 秒**］、［**レビュー保持**］から設定内容を選びます。
4. ヒストグラム（47 ページ）の同時表示/非表示を選ぶには、再度最初のサブメニュー画面を表示します。
5. ［**ヒストグラム**］を選びます。
6. 次のサブメニュー画面で、［**On**］（同時表示する）と［**Off**］（表示しない）から設定内容を選びます。

メモ

- **オートレビューモード**から［再生］モードにはいつでも切り換えることができます。
- 画像がバッファメモリーからメモリーカードへ転送中でも、その画像は表示されます。ただし、メモリーカード内の他の画像を表示することはできません。なお、画像転送中は背面右下の赤い LED（1.19）が点滅します。
- ［**画像ファイル設定**］（5.10）を［**DNG + JPEG fine**］または［**DNG + JPEG basic**］に設定しているとき（28 ページ）は、JPEG 形式の画像が表示されます。
- 連続撮影（32 ページ）またはオートブラケット撮影（35 ページ）したときは、どちらの画像再生モードでも、最後に撮影した画像が表示されます。表示された画像を別の画像に切り換える方法については、48 ページをご覧ください。

通常再生表示画面（4.1）



- 画像は画面全体に表示されます。また、画像をしっかりと確認できるように、次の情報のみが同時に表示されます。
  - 画面上部：撮影情報（4.1.1〜4.1.6）

情報再生表示画面（4.2）
画像は縮小表示され、より詳しい撮影情報とヒストグラム（本ページ）が同時に表示されます。

メモ
メニュー項目でヒストグラムの表示方法を設定できます。詳しくは、「ヒストグラム」をご覧ください。

情報再生表示画面に切り換える
1. 通常再生表示画面（4.1）でメニューボタン（1.20、1.21、1.23、1.24）のいずれかを押します。
   - メニューボタンの機能表示（4.1.9：[メニュー]、4.1.10：[情報]、4.1.11：[プロテクト]、4.1.12：[削除]）が 5 秒間表示されます。
2. 機能表示が［情報］のメニューボタンを押します。
   - 詳しい撮影情報（4.2.1〜4.2.16）が表示されます（11 ページ）。

ヒストグラム
ヒストグラムの表示方法を、総合的な明るさの分布を示す標準モードと、赤、緑、青の 3 原色別に明るさの分布を示す RGB モードから選べます。また、どちらのモードでも、白とびを赤で、黒つぶれを青で表示するクリップ機能のあり/なしを選べます。

ヒストグラムの表示方法を設定する
1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**ヒストグラム**］（5.24）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**クリップなし標準**］、［**クリップあり標準**］、［**クリップなし RGB**］、［**クリップあり RGB**］から表示方法を選びます。

白飛び・黒潰れ警告エリアの設定
白飛び警告範囲（ハイライト部：上限エリア）、黒潰れ警告範囲（シャドー部：下限エリア）を設定し、どの数値からクリッピング警告を表示させるかを任意に選択できるようになりました。画像の明るさを 0〜255 の 256 段階に分け、下限エリアを 0〜20、上限エリアを 200〜255 の間で設定します。

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**上限下限エリア表示**］（5.23）を選びます。
2. サブメニュー画面で、クリックホイール（1.18）を回して［**下限エリア表示**］の数値を選びます。クリックホイールを押して［**上限エリア表示**］に移動し、数値を選んでクリックホイールを押し設定を実行します。

メモ
- ヒストグラム表示は、常に画像内で現在表示されている範囲を反映します。
- 複数の画像を縮小して同時に表示している場合（49 ページ）は、ヒストグラムを表示できません。

撮影設定情報画面（4.3）
現在の主な撮影設定の一覧が表示されます。

撮影設定情報画面に切り換える
1. 通常再生表示画面（4.1）でメニューボタン（1.20、1.21、1.23、1.24）のいずれかを押します。
   - メニューボタンの機能表示（4.1.9：[メニュー]、4.1.10：[情報]、4.1.11：[プロテクト]、4.1.12：[削除]）が 5 秒間表示されます。
2. 機能表示が［メニュー］のメニューボタンを押します。
   - 次の情報が表示されます。
     撮影設定情報（4.3.5〜4.3.25、12 ページ）
     メニューボタンの機能表示（4.3.1：[カメラ]、4.3.2：[画生]、4.3.3：[セットアップ]、4.3.4：[画像]）

表示画像を切り換える



通常表示画面（4.1）でクリックホイール（1.18）を回して表示画像を切り換えます。右に回すと大きい番号の画像に、左に回すと小さい番号の画像に切り換わります。右に回し続けると最大番号の画像の次は最小番号の画像に戻り、左に回し続けると最小番号の画像の次は最大番号の画像に戻ります。どちらの方向に回しても、すべての画像を表示できます。

- 画面上部に表示されるコマ番号も、画像の切り換えに応じて変わります。

画像を拡大表示する（ズーム表示）



1. 通常表示画面（4.1）でクリックホイール（1.18）を押します。
   - ズーム表示位置（4.1.7）が表示されます。
2. 通常表示画面（4.1）でクリックホイール（1.18）を右に回すと、画像の中央部がズーム（拡大）表示されます。右に回すほどズーム率が大きくなり、表示される範囲が小さくなります。LCD モニターの 1 画素が画像の 1 画素を表示するまでズームできます。
   - 現在のズーム率は、画面の右下にあるズーム表示位置（4.1.7）の白いエリアで確認できます。

ズーム表示位置を移動する

1. 画像をズーム表示しているときに、クリックホイール（1.18）を押します。
   - ズーム表示位置（4.1.7）の中に赤い横の両方向矢印が表示されます。クリックホイールでズーム表示位置を横に移動できます。また、左上のメニューボタン（1.24）の機能表示として、白い縦の両方向矢印が表示されます。

メモ

- ズーム表示したまま別の画像に切り換えるには、メニュー項目で［**ズーム状態保持**］を設定します。詳しくは、「ズーム表示したまま画像を切り換える」をご覧ください。（49 ページ）
- ［情報］表示画面（4.2、47 ページ）の画像をズーム表示したときも、同じ操作でズーム表示位置を移動できます。

横に移動する場合



2. クリックホイールを回して、ズーム表示位置を移動します。
   - クリックホイールを回した方向にズーム表示位置が移動します。

縦に移動する場合



2. 左上のメニューボタン（1.24）を押し続けます。
   - ズーム表示位置の中に赤い縦の両方向矢印が表示されます。左上のメニューボタンの機能表示（白い縦の両方向矢印）は消えます。
3. クリックホイールを回して、ズーム表示位置を移動します。
   - クリックホイールを左に回すと上に、右に回すと下にズーム表示位置が移動します。

ズーム表示したまま画像を切り換える

画像をズーム表示しているときに、同じズーム率のまま表示画像を切り換えることができます。

ズーム表示したまま画像を切り換える

1. [セットアップ] メニュー画面（13、22 ページ）で［**ズーム状態保持**］（5.31）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**ON**］を選びます。
3. 通常表示画面（4.1）で画像をズーム表示して、メニューボタン（1.20、1.21、1.23、1.24）のいずれかを押します。
   - メニューボタンの機能表示（4.1.9：[1：1]、4.1.10：[情報]、4.1.11：[プロテクト]、4.1.12：[削除]）が 5 秒間表示されます。
4. 左上のメニューボタン（4.1.9）を押しながら、クリックホイール（1.18）を回します。

メモ

情報再生表示画面（4.2、47 ページ）の画像をズーム表示したときも、同じ操作で画像を切り換えることができます。

複数の画像を一覧表示する（インデックス表示）

通常再生表示画面（4.1）でクリックホイール（1.18）を左に回すと、インデックス表示（複数の画像を一覧表示）できます。

- 画像は縮小表示されます。
- 4 枚または 9 枚同時に表示されます。
  - 画面の表示に応じて、画像が緑枠でハイライト表示されます。
    4 枚または 9 枚表示では、一覧表示に切り換える前に表示されていた画像がハイライト表示されます。
    そのままクリックホイールを回すと、9 枚表示ですべての画像がハイライト表示されます。

インデックス表示画面で画像を選ぶ

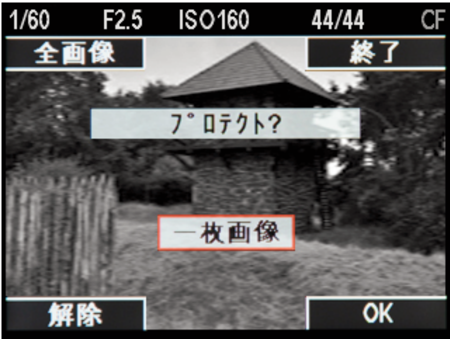
1. クリックホイール（1.18）を押します。
   - 緑枠が赤枠に変わります。
2. クリックホイールを回して画像を選びます。
   - 1 枚の画像が赤枠でハイライト表示されているときは、画面内の表示画像が順番にハイライト表示されます。最後の画像がハイライト表示されると、最初の画像にハイライト表示が戻ります。9 枚表示ですべての画像がハイライト表示されているときは、9 枚セットで表示画像を切り換えることができます。
3. 画像を選んだら、再度クリックホイールを押します。
   - 赤枠が緑枠に戻ります。
4. クリックホイールを右に回すと、選んだ画像が 1 枚表示に戻ります。

再生するメモリーカードを切り換える

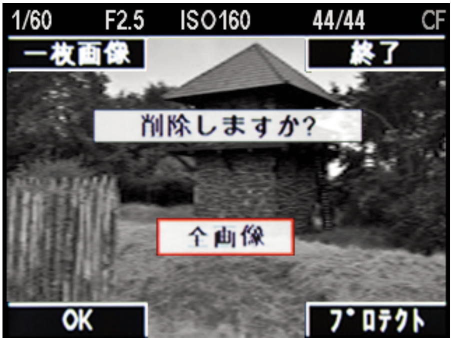
1. 通常表示画面（4.1）でクリックホイール（1.18）を左に回して 9 枚表示にし、さらに左に回します。
   - CF カードと SD/SDHC カードのアイコンがある切り換え画面が表示されます。現在使用中のメモリーカードは、アイコンが緑枠でハイライト表示されます。
2. クリックホイールを押します。
   - 緑枠が赤枠に変わります。
3. クリックホイールを回してメモリーカードを切り換えます。
   - 使用するメモリーカードのアイコンに赤枠を移動させます。
4. クリックホイールを押して、切り換えを実行します。
   - 赤枠が緑枠に戻ります。

画像をプロテクト（保護）する/プロテクトを解除する

1. 通常再生表示画面（4.1）でメニューボタン（1.20、1.21、1.23、1.24）のいずれかを押します。
   - メニューボタンの機能表示（4.1.9：[メニュー]、4.1.10：[情報]、4.1.11：[プロテクト]、4.1.12：[削除]）が 5 秒間表示されます。



2. 機能表示が［プロテクト］のメニューボタンを押します。
   - 次の情報が表示されます。
     –メニューボタンの機能表示（4.5.1：[全画像] または [一枚画像]、4.5.2：[終了]、4.5.3：[OK]、4.5.4：[解除]）
     –操作メッセージ（4.5.5：[プロテクト？]）とプロテクト/プロテクト解除される画像（4.5.6：[一枚画像] または [全画像]）
     – 画像がすでにプロテクトされている場合は、プロテクトマーク（4.5.7）も表示されます。また、左下のメニューボタンの機能表示（4.5.4）は［オールプロテクト］となり、操作メッセージ（4.5.5）は［プロテクト解除？］となります。



3. 左上のメニューボタン（1.24）を押して、表示画像だけのプロテクト/プロテクト解除を行うか（[一枚画像]）、全画像のプロテクト/プロテクト解除を行うか（[全画像]）を選びます。

メモ
- ［一枚画像］のプロテクト/プロテクト解除を選んだ状態でクリックホイール（1.18）を回すと、別の画像に切り換えてプロテクト/プロテクト解除を行うことができます。
- 機能表示が［終了］のメニューボタンを押すと、通常再生表示画面に戻ります。
- 左下のメニューボタン（1.23）を押すと、プロテクト解除の操作画面が表示されます。

4. 機能表示が［OK］のメニューボタンを押します。
   - プロテクトしたときは、プロテクトマーク（4.5.7）が表示されます。プロテクトを解除したときは、プロテクトマークが消えます。

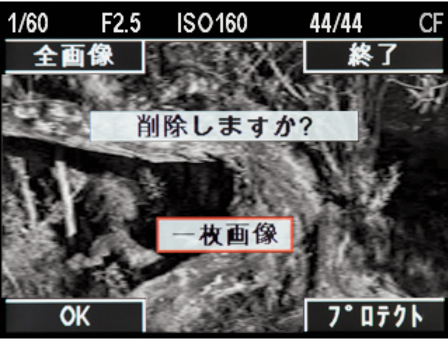
画像を削除する

1. 通常再生表示画面（4.1）でメニューボタン（1.20、1.21、1.23、1.24）のいずれかを押します。
   - メニューボタンの機能表示（4.1.9：[メニュー]、4.1.10：[情報]、4.1.11：[プロテクト]、4.1.12：[削除]）が 5 秒間表示されます。
2. 機能表示が［削除］のメニューボタンを押します。
   - 次の情報が表示されます。
     - メニューボタンの機能表示（4.5.1：[全画像] または [一枚画像]、4.5.2：[終了]、4.5.3：[プロテクト]、4.5.4：[OK]）
     - 操作メッセージ（4.5.5：[削除しますか？]）と削除される画像（4.5.6：[一枚画像] または [全画像]）
     - 画像がプロテクトされている場合は、プロテクトマーク（4.5.7）も表示されます。この場合は、機能表示が［OK］のメニューボタンは使用できません（[OK] がグレーで表示されます）。
3. 左上のメニューボタン（1.24）を押して、表示画像だけを削除するか（[一枚画像]）、全画像を削除するか（[全画像]）を選びます。

メモ

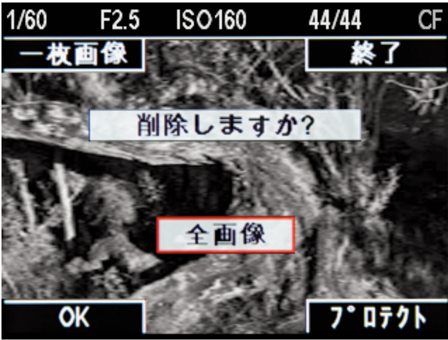
- ［一枚画像］の削除を選んだ状態でクリックホイール（1.18）を回すと、別の画像に切り換えて削除できます。
- 右下のメニューボタン（1.21）を押すと、プロテクト/プロテクト解除の操作画面が表示されます。プロテクト/プロテクト解除については、「画像をプロテクト（保護）する/プロテクトを解除する」をご覧ください。
- 機能表示が [終了] のメニューボタンを押すと、通常再生表示画面に戻ります。

1 枚の画像を削除する場合



4. 機能表示が［OK］のメニューボタンを押します。
   - 削除した画像の次の番号の画像が LCD モニターに表示されます。メモリーカードに他の画像が記録されていない場合は、「**表示画像がありません。**」というメッセージが LCD モニターに表示されます。

全画像を削除する場合



4. 機能表示が［OK］のメニューボタンを押します。
   - 「**全画像削除？**」という確認メッセージが LCD モニターに表示されます。

メモ

機能表示が［終了］のメニューボタンを押すと、通常再生表示画面に戻ります。

5. 機能表示が［OK］のメニューボタンを押します。
   - 「**表示画像がありません。**」というメッセージが LCD モニターに表示されます。

メモ

プロテクトされている画像は削除できません。メモリーカードにプロテクトされている画像が記録されている場合は、最後に撮影された画像（最大番号の画像）が表示されます。

他の機器と接続して使う

パソコンに画像を取り込む

本機とパソコンを接続して、パソコンに画像を取り込むことができます。本機は次の OS に対応しています。

Microsoft®：Windows® XP、Windows® Vista®、Windows® 7（32/64bit）

Apple® Macintosh®：Mac® OS X（v 10.5 以降）

本機は、パソコンに画像を取り込むインターフェースとして USB 2.0 に対応しており、USB 2.0 に対応したパソコンに画像を高速転送することができます。本機と直接接続して画像を取り込むには、パソコンが USB ポートを装備している必要があります。CF カードリーダーまたは SD/SDHC カードリーダーを使って画像を取り込むこともできます。

メモ

1 台のパソコンに 2 台以上の USB 機器を接続したり、USB ハブや USB 延長ケーブルを使って接続したりすると、正常に動作しないことがあります。

USB ケーブルで接続する

USB ケーブルを使って接続するときは、2 種類の通信方式から選びます。一部のアプリケーションでは、画像を取り込むときに PTP 接続が必要となることがあります。その場合は、PTP 接続を選びます。また、本機を外付けドライブ（大容量記憶装置）として認識させることもできます。その場合は、マスストレージ接続を選びます。

USB 通信方式を設定する

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**USB モード**］（5.20）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**PTP**］または［**マスストレージ**］を選びます。

PTP 接続で画像を取り込む

［**PTP**］を選んでパソコンに画像を取り込む場合は、次の手順で操作を行います。

メモ

［**記録メディア**］を［**シーケンシャル**］または［**パラレル**］に設定している場合は、使用中のメモリーカードに記録されている画像がすべて表示されます。［**PC ダイレクト**］に設定している場合は、画像は取り込めません。［**記録メディア**］については、31 ページをご覧ください。

Windows® OS をお使いの場合

3. 本機の端子カバー（1.29）を開けて、データ出力端子（1.33）に付属の USB 接続ケーブル（D）を差し込みます。パソコンの USB 端子にも USB 接続ケーブルを差し込み、本機とパソコンを接続します。

Windows® XP

パソコンの画面に「新しいハードウェアが見つかりました」というメッセージが表示されます（初回接続時のみ）。

4. メッセージをダブルクリックします（初回接続時のみ）。
   「S2 Digital Camera」という見出しのドロップダウンメニューがデータ送信ウィザードとして表示されます。
5. ［OK］をクリックし、ウィザードの指示に従って希望のフォルダに画像を取り込みます。

Windows® Vista®/ 7

パソコンのタスクバーの上にドライバのインストールを促すメッセージが表示されます。また、本機の LCD モニターには「USB 接続」というメッセージが表示されます。インストールが完了すると、完了メッセージが表示され、さまざまなオプションを含んだ［自動再生］ダイアログボックスが表示されます。

4. ［画像の取り込み］または［フォルダを開いてファイルを表示］をクリックします。［フォルダを開いてファイルを表示］をクリックすると、Windows®エクスプローラでメモリーカードのフォルダを表示して画像を取り込むことができます。

Mac® OS X（v10.5）をお使いの場合

1. 本機の端子カバー（1.29）を開けて、データ出力端子（1.33）に付属の USB 接続ケーブル（D）を差し込みます。パソコンの USB 端子にも USB 接続ケーブルを差し込み、本機とパソコンを接続します。
   本機の LCD モニターに「USB 接続」というメッセージが表示されます。
2. 「Finder」ウィンドウを開きます。
3. サイドバーにある［場所］をダブルクリックして［アプリケーション］をダブルクリックします。
4. 「イメージキャプチャ」をダブルクリックします。
   「イメージキャプチャ」が起動し、「S2 Digital Camera」というタイトルバーの画面が表示されます。
5. 取り込みたい画像を選んで［取り込む］をクリックします。

カメラをマスストレージとして接続して画像を取り込む

Windows® OS をお使いの場合
本機とパソコンを USB ケーブルで接続すると、本機はパソコンに外付けドライブとして認識され、ドライブ名が割り当てられます。Windows®エクスプローラで画像を取り込んでください。

Mac® OS をお使いの場合
本機とパソコンを USB ケーブルで接続すると、本機で使用中のメモリーカードが記録メディアとしてデスクトップに表示されます。「Finder」を使って画像を取り込んでください。

メモ
本機とパソコンをマスストレージモードで接続している間は、本機でその他の操作は行えません。
ただし PTP モードで接続されている場合は操作できます。

重要
- 付属の USB 接続ケーブル（D）以外は使用しないでください。
- 画像取り込み中は、絶対に USB 接続ケーブルを抜かないでください。本機、パソコン、メモリーカードの故障の原因となります。

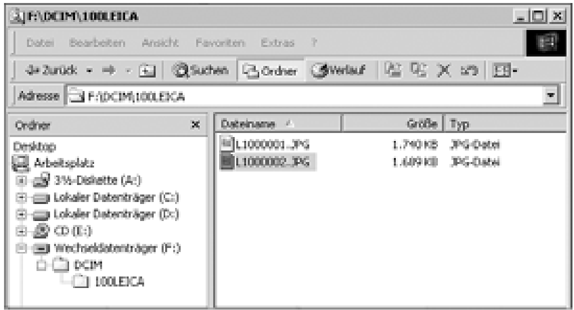
画像取り込み中は、本機の電源を切ったり、バッテリーを取り出したりしないでください。また、バッテリーが消耗して本機の電源が切れることのないように注意してください。パソコンの故障の原因となります。画像取り込み中にバッテリーが消耗した場合は、画像取り込みを中止してから本機の電源を切り（21 ページ）、バッテリーを充電してください（14 ページ）。

カードリーダーを使って画像を取り込む

一般的な CF カードリーダーまたは SD/SDHC カードリーダーを使ってパソコンに画像を取り込むこともできます。USB ポートを装備したパソコンならば、USB 接続タイプのカードリーダーを使用できます。PC カードスロットを装備したパソコン（ノートパソコンには標準的に装備されています）ならば、PC カードアダプターを使って画像を取り込むこともできます。これらのパソコン周辺機器については、周辺機器の販売店までお問い合わせください。

メモリーカード内のフォルダー構造

メモリーカードに記録された画像データをパソコンに取り込むと、次の図のようなフォルダー構造になります。



フォルダー名は「100LEICA」、「101LEICA」などと表されます。1 つのフォルダーには最大 9999 枚の画像が保存されます。

Adobe® Photoshop® Lightroom®

本機では、画質の劣化が少ない RAW ファイル形式の DNG（デジタル・ネガティブ）形式で画像を記録できます。DNG 形式で記録した画像データは、汎用画像に変換するために非常に特殊なソフトウェアが必要になります。本機は、DNG 形式の現像処理のために、プロ仕様のソフトウェア「Adobe® Photoshop® Lightroom®」を付属しています。「Adobe® Photoshop® Lightroom®」を使うと、デジタル画像のカラー処理に最適なアルゴリズムにより、ノイズを最低限に抑えた高精細画像に仕上げることができます。また、ホワイトバランスやシャープネスの調整、ノイズ除去、階調補正などの画像処理を行い、最高水準の画質にすることができます。
「Adobe® Photoshop® Lightroom®」は、ライカのホームページでカスタマー登録されたあとに、無償でダウンロードしていただけます。詳しくは、付属の「ライカのお客様へのサービス」小冊子をご覧ください。

LEICA Image Shuttle

本機は、パソコンで本機をリモート操作できる高性能ソフトウェア「LEICA Image Shuttle」を付属しています。このソフトウェアを使うと、本機の主な操作をパソコンで行ったり、画像データを直接パソコンに保存したりするなど、連結撮影が行えるので便利です。スタジオ撮影やロケーション撮影のサポートに理想的なソリューションです。
「LEICA Image Shuttle」は、ライカのホームページでカスタマー登録されたあとに、無償でダウンロードしていただけます。詳しくは、付属の「ライカのお客様へのサービス」小冊子をご覧ください。

動作環境

Microsoft®：Windows® XP Professional/Home Edition（Service Pack 2）、Windows® Vista®、Windows® 7（32/64bit ）
Apple® Macintosh®：Mac® OS X（v10.5 以降）
Windows®では、バージョンによってはデジタル署名が見つからないという警告が表示されることがありますが、この警告は無視してそのままインストールを続けてください。

ファームウェアをアップデートする

ライカは、製品の機能の向上や不具合の改善に継続的に取り組んでいます。デジタルカメラでは多くの機能が電子的に制御されており、お買い上げの後でも機能を追加したり不具合を改善したりできることがあります。
機能を追加したり不具合を改善したりするには、本機のファームウェアをアップデートします。ライカのホームページでは、最新のファームウェアを随時提供しています。最新のファームウェアをダウンロードして、本機のファームウェアをアップデートしてください。ファームウェアのアップデートは、ホームページ上で提供される資料に従って行って下さい。

他の機器で画像を再生する（スライドショー再生）

本機と再生機器を HDMI ケーブルで接続して、撮影した画像を再生できます。高画質な画像が鑑賞できます。

スライドショー再生する

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**HDMI**］（5.28）を選びます。
2. サブメニュー画面で［**解像度設定**］を選びます。
3. 次のサブメニュー画面で希望の解像度または［**自動**］を選びます。

メモ

より高精細に再生するには、［**1080p**］を選びます。

4. 最初のサブメニュー画面で［**スライドショー設定**］を選びます。
5. 次のサブメニュー画面で［**画像選択**］を選びます。
   • 画像とともに次の情報が表示されます。
   – メニューボタンの機能表示（4.5.1：[全画像]、4.5.2：[終了]、4.5.3：[OK]、4.5.4：[全消去]）
   – 操作メッセージ（4.5.5：[選択？]）と選択される画像（4.5.6：[一枚画像]）
   – 選択マーク（4.5.7、表示画像が選択済みの場合）

1 枚ずつ画像を選ぶ場合

6. クリックホイール（1.18）を回して再生したい画像を表示し、機能表示が［OK］のメニューボタンを押します。
   • 選択マーク（4.5.7）が表示されます。

全画像を選ぶ場合

6. 機能表示が［全画像］のメニューボタンを押します。
   • メニューボタンの機能表示（4.5.1）と選択される画像（4.5.6）が変わります。
7. 機能表示が［OK］のメニューボタンを押します。
   • 全画像の選択が実行中となり、背面右下の赤い LED（1.19）が点滅します。実行が完了すると、選択マーク（4.5.7）が表示されます。

メモ

機能表示が［終了］のメニューボタンを押すと、手順「4.」に戻ります。

選択を解除する場合

6. 右上のメニューボタン（1.24）を押して、1 枚ずつ選択を解除するか全画像の選択を解除するかを選びます。
   • メニューボタンの機能表示（4.5.1）と選択を解除される画像（4.5.6）が変わります。
7. 上の「1 枚ずつ画像を選ぶ場合」または「全画像を選ぶ場合」と同様の手順で選択を解除します。
   • 選択マーク（4.5.7）が消えます。
8. 再度 2 番目のサブメニュー画面を表示して、［**レビュー時間**］を選びます。
9. 次のサブメニュー画面で画像の表示間隔を選びます。手動で表示画像の送り/戻しを行うときは［**手動**］を選びます。
10. スライドショーを開始するには、再度 2 番目のサブメニュー画面を表示して、［**スライドショー開始**］を選びます。
   • メニューボタンの表示機能（4.5.2：[最後]、4.5.3：[戻る]、4.5.4：[次へ]）が LCD モニターに表示されます。また、スライドショー再生中のマークも表示されます。
11. スライドショー再生中に手動で画像の送り/戻しを行うには、次のいずれかの操作を行います。
   - 機能表示が［戻る］または［次へ］のメニューボタンを押す
   - クリックホイール（1.18）を回す（右に回すと［戻る］、左に回すと［次へ］と同じように機能）

メモ

画像の表示間隔を［手動］以外に設定していても、上の操作により手動で画像の送り/戻しを行えます。

12. スライドショーを中止するには、機能表示が［最後］のメニューボタンを押します。

メモ

• **オートパワーオフ**（26 ページ）を設定している場合は、設定した時間が経過するとスライドショーが中止されます。
• スライドショー再生中でも、シャッターレリーズボタンを全押し（32 ページ）すると撮影できます。

資料

システムアクセサリー

交換レンズ

優れた描写性能を備えた専用の交換レンズ「S レンズ」をラインアップしています。広角レンズ、標準レンズ、望遠レンズ、マクロレンズが用意されており、それぞれにレンズシャッター内蔵タイプ（CS）もあり、最速 1/500 秒のシャッター速度でフラッシュ撮影が可能です。

ズマリット S f2.5/35mm ASPH.	コード番号 11064
ズマリット S f2.5/70mm ASPH.	コード番号 11055
アポ・マクロ・ズマリット S f2.5/120mm	コード番号 11070
アポ・エルマー S f3.5/180mm	コード番号 11071
ズマリット S f2.5/35mm ASPH. (CS)	コード番号 11050
ズマリット S f2.5/70mm ASPH. (CS)	コード番号 11051
アポ・マクロ・ズマリット S f2.5/120mm (CS)	コード番号 11052
アポ・エルマー S f3.5/180mm (CS)	コード番号 11053

フィルター

S レンズは標準的なフィルターねじを備えており、各種フィルターを取り付けることができます。

交換ファインダースクリーン

次の 3 種類をラインアップしています。

- S システム ユニバーサルスクリーン：本機が標準装備しています。
  コード番号 16000
- S システム マイクロプリズムスクリーン：スプリットマイクロプリズム付きのスクリーンです。　コード番号 16001
- S システム グリッドスクリーン：垂直、水平罫線付スクリーンです。
  コード番号 16002
  交換用ファインダースクリーンには、ピンセットとクリーニングブラシが付属します。

フラッシュユニット

ライカ SF 58 は、汎用性の高い高性能フラッシュユニットです。最大でガイドナンバー 58（照射角 105mm 時）の大光量、使用レンズの焦点距離に合わせて照射角が自動設定されるメインリフレクター、サブリフレクターなど、多彩な機能を搭載しています。取り付け脚に装備した制御接点と信号接点により、カメラ本体との間で設定値などのデータ通信が自動で行われるので、非常に便利です。　コード番号 14488

S システム マルチファンクション ハンドグリップ

優れたホールド性と操作部の配置により、縦位置でも快適に撮影できるハンドグリップです。内部には予備バッテリーを装着できるので、長時間の撮影も大量の撮影も可能になります。三脚取り付け部を使って素早く簡単に取り付けることができます。　コード番号 16003

S システム プロフェッショナルバッテリーチャージャー

2 個のバッテリーを同時に充電できるバッテリーチャージャーです。長時間の撮影に便利です。　コード番号 16011

S システム リモートレリーズケーブル

電気式のリモートレリーズケーブルです。ブレを確実に抑えて撮影したいときに効果的です。　コード番号 16012

HDMI ケーブル

HDMI 端子を装備した再生機器や記憶装置と本機を接続するためのケーブルです。画像データを高速転送できます。ケーブル長は 1.5m です。
コード番号 14492

スペア用アクセサリー	コード番号
S システム ボディキャップ	16 021
S システム キャリングストラップ	16 006
S システム アイピースカバー	16 015
S システム バッテリー	14 429
S システム クイックチャージャー	16 009
(日本/米国仕様の電源プラグを装備 ヨーロッパ/UK/オーストラリア仕様の着脱式電源プラグと カーバッテリーコードを付属）	
S システム USB ケーブル 5m	16 014

使用上のご注意とお手入れ

一般的なご注意

- 強い磁気、静電気、電磁波を発生する機器（電磁調理器、電子レンジ、テレビ、パソコンのモニター、ゲーム機、携帯電話、無線機など）の近くで使用しないでください。
- テレビの上や近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- 携帯電話の近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- スピーカーや大型の電動機などの磁気により、保存した画像データが破損することがあります。
- 電磁波の影響で正常に動作しなくなった場合は、バッテリーを交換してから電源を入れ直してください。無線送信機や高圧線の近くで使用しないでください。
- 磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- 殺虫剤などの強い化学薬品をかけないようにしてください。お手入れの際は、ペトロリウム・スピリット、シンナー、アルコールは使用しないでください。
- 薬品や溶剤によっては、本体表面が変質したり、表面の仕上げがはげたりすることがあります。
- ゴム製品やビニール製品は、強い化学物質を発生することがありますので、長期間接触したままにしないでください。
- 本機は一定レベルの防塵性・防滴性を備えた設計となっていますが、雪や雨の中や浜辺などで使用する場合は、内部に水滴、砂、ほこりが入り込まないようにご注意ください。
- 砂やほこりが入り込むと、本機やメモリーカードの故障の原因となります。レンズ交換やメモリーカードの出し入れの際は特にご注意ください。
- 水滴が入り込むと、本機やメモリーカードが正常に動作しなくなるばかりか、修理が不可能になることがあります。
- 海水がかかった場合は、水道水で湿らせてよく絞った柔らかい布で拭き取ってください。その後、乾いた布でよく拭いてください。

LCD モニターと上面ディスプレイ

- 寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと、これらの表示部に結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、乾いた柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。
- 寒い場所で電源を入れた場合、表示が通常より暗いことがあります。本機が温まるにつれて、明るさは元に戻ります。
- LCD モニターは非常に精密度の高い技術で製造されており、総画素数約 46 万画素の 99.995%以上が有効画素となっていますが、0.005%以下は黒い点になったり常時点灯したままになったりします。これは故障ではありません。また、これが画像表示に影響することはありません。

センサー（撮像素子）

宇宙線の影響により（飛行機内に持ち込んだ場合など）、画素欠けが生じることがあります。

結露
本機の内部や外部で結露が生じた場合は、電源を切って常温の場所に約 1 時間置いてください。常温になじんでくると水滴は自然に消えます。

お手入れ
汚れはカビや細菌などの繁殖の原因となりますので、本機は清潔に保ってください。

カメラ
- 本機をお手入れする際は、乾いた柔らかい布をお使いください。ひどい汚れは、よく薄めたクリーナーなどを直接付けてから、乾いた布で拭き取ってください。
- 本機やレンズに付着した指紋などの汚れは、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。布では拭き取りにくい隅の汚れには、小さなブラシをお使いください。ブラシの柄などでシャッターブレードやミラーを傷つけないようにご注意ください。
- 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しないときは、動作が鈍くなるのを防ぐために、約 3 ヶ月ごとに数回シャッターを切って動かしてください。また、その他の操作部もすべて定期的に動かすことをおすすめします。

レンズ
- フロントレンズに付着したほこりは、柔らかいブラシを使って落としてください。汚れがひどいときは、クリーナーなどを何も付けていない柔らかい清潔な布を使って、内側から外側に円を描くようにして丁寧に拭き取ってください。使用する布には、ケースなどに保管されているマイクロファイバークロスをおすすめします（写真用品や光学機器の専門店で購入できます）。40℃の温水で洗濯できるものが便利です（ただし、柔軟剤の使用やアイロンがけは避けてください）。化学薬品が含まれているメガネ拭き用の布は、レンズを傷めることがあるので使用しないでください。
- 砂や海水がかかるおそれのある場所で撮影する場合は、透明の UVa フィルターを装着するとフロントレンズを保護できます。ただし、その他のフィルターと同様に、逆光での撮影やコントラストが高い被写体の撮影ではフレアが発生することがありますのでご注意ください。さまざまな保護効果があるレンズフードを装着すれば、不用意に指紋を付けたり雨でぬらしたりすることを防げます。

バッテリー
充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。
- 本機は、電源を切っても日付と時刻の設定の保存に微量の無負荷電流を使用するため、数週間後には多量の電力を消費してバッテリーが過放電状態になります。本機を長期間使用しない場合は、本機からバッテリーを取り出してください。
- バッテリーを取り出して保管する場合は、容量がある程度残った状態で保管してください。容量は上面ディスプレイ（1.11）のバッテリー残量表示で確認できます。長期間保管する場合は、過放電状態にさせないために、半年ごとに約 15 分間充電してください。
- バッテリーの端子部は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくいですが、クリップやアクセサリーなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- バッテリーを落とした場合は、外装や端子部が破損しなかったか直ちに確認してください。破損したバッテリーを使用すると、本機が故障するおそれがあります。
- バッテリーには寿命があります。
- 破損したバッテリーは、正しくリサイクルするために、リサイクル協力店にお持ちください。
- バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。

バッテリーチャージャー
- バッテリーチャージャーを無線受信機の近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。無線受信機から 1m 以上離れてお使いください。
- 充電中に音がすることがありますが、異常ではありません。
- バッテリーを充電していない場合でも、コンセントに差し込んだままにしておくと、微量の電力を使います。使用しないときはコンセントから抜いてください。
- 端子部は清潔に保ってください。また、絶対にショートさせないでください。

メモリーカード
- データの読み込み中や書き込み中は、メモリーカードを本機から取り出したり、本機の電源を切ったり、本機に振動を与えたりしないでください。
- 記録データを保護するために、付属の帯電防止ケースに入れて保管してください。
- 高温の場所、直射日光の当たる場所、磁気や静電気を発生する場所で保管しないでください。
- 落としたり曲げたりしないでください。破損して記録データが消失する原因となります。
- 本機を長期間使用しない場合は、本機からメモリーカードを取り出してください。



- メモリーカードの端子部には触れないでください。また、汚れやほこりが付着したり、水でぬらしたりしないようにご注意ください。
- データ消去を繰り返すと断片化が生じて空き容量が少なくなりますので、定期的にフォーマット（初期化）し直すことをおすすめします。

センサー（撮像素子）のクリーニング

センサーのカバーガラスに小さなごみやほこりが付着すると、その大きさにもよりますが、黒い小さな点やマークとなって画像に写り込むことがあります。
センサーをクリーニングする場合は、ライカ カスタマーサービス（64ページ）にてクリーニングサービスをご利用いただけます。なお、クリーニングサービスは保証の対象外となり、有料とさせていただきます。
また、本機のメニュー項目にある**センサークリーニング**機能を使えば、シャッターが開いたままの状態になり、センサーをご自身でクリーニングしていただけます。

メモ

- 本機の内部にほこりなどが入り込むのを防ぐために、本機には常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- 同じ理由から、レンズ交換はできるだけほこりの少ない場所で素早く行ってください。
- プラスチック製のパーツは静電気を帯電しやすいため、ほこりが付着しやすくなっています。ボディキャップを長時間衣類のポケットに入れたままにしないでください。

センサーをクリーニングする

1. ［セットアップ］メニュー画面（13、22 ページ）で［**センサークリーニング**］（5.21）を選びます。
2. バッテリー残量が十分であること（60%以上）を確認してから、［**はい**］を選びます。シャッターが開いたままの状態になり、「**確認の後　カメラ電源を切ってください。**」というメッセージが LCD モニターに表示されます。

メモ

バッテリー残量が十分でない場合は、「**注意　センサークリーニングにはバッテリー残量不足**」というメッセージが表示され、クリーニングできないことをお知らせします。バッテリーを充電してからクリーニングしてください。

3. シャッターが開いたら、クリーニングします。クリーニングする際の注意については、次の「メモ」をご覧ください。
4. クリーニングが終わったら、本機の電源を切ります。シャッターが閉じます。「**注意　センサークリーニングをすぐに中止してください..**」というメッセージが LCD モニターに表示されます。

メモ

- センサーの汚れがひどくならいようにするために、点検・クリーニングはできるだけほこりの少ない場所で行ってください。
- 8～10 倍のルーペを使うと効果的に点検・クリーニングを行えます。
- 通常のごみやほこりは、清潔な（必要に応じてイオン化した）空気や窒素を吹き付けて吹き飛ばしてください。先端がブラシ状になっていないブロワー（ゴム製など）をおすすめします。特別な低圧のクリーニング用エアースプレーを使うときは、各スプレーの使用上の注意に従ってください。
- これらの方法で吹き飛ばせないごみやほこりが付着している場合は、ライカ カスタマーサービス（64 ページ）までご相談ください。
- シャッターが開いた状態のときにバッテリー容量が 40%を下回ると、「**注意　センサークリーニングを　すぐに中止してください..**」というメッセージがまたセンサークリーニングをするときすでにバッテリー容量が 40%以下であると、「**注意　センサークリーニングには　バッテリー残量不足**」というメッセージが LCD モニターに表示されます。また、同時にブザー音が鳴り始め、本機の電源を切るまで鳴り続けます。本機の電源を切ると、シャッターが閉じます。シャッターが閉じたときに物が挟まるとシャッターが破損することがありますので、電源を切るときはご注意ください。

重要

- ご自身によるクリーニングで生じた破損については一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- センサーのカバーガラスに付着したごみやほこりは、口で吹き飛ばさないでください。わずかな唾液でもセンサーのカバーガラスに付着してしまうと、取り除くのが非常に困難です。
- 高圧の圧縮空気式クリーナーは使用しないでください。センサーが傷つくおそれがあります。
- 点検・クリーニングの際は、硬い物でセンサーに触れないようにご注意ください。

保管

- 本機を長期間使用しない場合は、次のことをおすすめします。
  a. 本機の電源を切る（21 ページ）
  b. メモリーカードを取り出す（17 ページ）
  c. バッテリーを取り出す（17 ページ）：約 3 ヶ月後には日付と時刻の設定が失われます（17 ページ）。
- レンズを装着した本機の正面に強い太陽光が当たると、レンズがルーペと同じ作用をします。太陽光とレンズの作用により本機の内部が破損しますので、レンズを保護せずに本機を強い太陽光に向けたまま放置しないでください。また、レンズカバーを装着して日陰に置いたり、ケースに収納したりして、強い太陽光が当たらないようにしてください。
- 破損やほこりから保護するために、パッドを詰めた密封ケースに保管することをおすすめします。
- 適度に風通しのよい乾いた場所で保管してください。高温・多湿の場所での保管は避けてください。湿気の多い場所で使用した場合は、湿気をよく取り除いてから保管してください。
- 収納しているケースが湿った場合は、湿気や湿気によって染み出てくるなめし剤によって本機やレンズが故障するのを防ぐために、本機やレンズをケースから取り出してください。
- 高温・多湿の熱帯地域で使用する場合は、カビなどが発生するのを防ぐために、できるだけ多く日光や風に当ててください。密封ケースなどに保管する場合は、シリカゲルなどの乾燥剤を入れてください。
- カビや細菌が発生するのを防ぐために、レザー製のケースに長期間収納したままにしないでください。
- 本機とレンズのシリアルナンバーは、紛失・盗難の際に重要となりますので、書き写して保管してください。

索引

テクニカルデータ

型式　レンズ交換式ライカプロフォーマット
一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント　ライカ S バヨネットマウント方式
使用レンズ　ライカ S レンズ

センサー　低ノイズ CCD センサー　画素ピッチ：6μm
撮像素子サイズ　45×30mm
総画素数　3,892 万画素（7,652×5,094）
有効画素数　3,800 万画素（7,540×5,040）
記録画素数　3,750 万画素（7,520×5,000）
ダイナミックレンジ　12EV
色深度　16 ビット
モアレフィルター　なし（モアレはデジタル信号処理により検知・除去）
記録形式　DNG™（RAW）、JPEG：fine/basic
画像解像度　DNG 出力画素　7,512×4,992
JPEG 出力画素　7,488×4,976
ファイルサイズ　DNG 未圧縮　約 75MB、ロスレス圧縮　約 40MB
JPEG fine　約 4～16MB、basic　約 2～8MB
色空間　Adobe® RGB、sRGB、ECI RGB
ホワイトバランス　自動、マニュアル、プリセット（8 種類）、色温度設定
記録媒体　CF メモリーカード（64GB まで）、SD メモリーカード（2GB まで）、SDHC メモリーカード（32GB まで）
表示言語　ドイツ語、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、日本語、繁体中国語、簡体中国語、ロシア語
対応 OS　Microsoft®：Windows® XP/ Vista®/7（32/64bit）
Apple® Macintosh®：Mac® OS X（v 10.5 以降）

露出制御
測光方式　TTL 開放測光
測光モード　スポット測光（全画面の 3.5%）、中央重点測光、マルチ測光（5 分割）
AE ロック　シャッターレリーズボタン（半押し）または AE/AF ロックボタンによる
露出補正　±3EV の範囲内で 1/2EV ステップ
オートブラケティング　露出モードに応じて絞り値またはシャッター速度を変更し、露出をずらして複数枚撮影　撮影フレーム数：3 枚、5 枚　補正ステップ間隔：1/2EV ステップ、1EV ステップ、2EV ステップ、3EV ステップ
測光範囲　f2.5 レンズ使用時、ISO 160 相当のとき、スポット測光：0.5cd/m2～125,000cd/m2（EV2.7～20/絞り値 F2.5、シャッター速度 1 秒～絞り値 F16、シャッター速度 1/4000 秒）、中央重点測光およびマルチ測光：0.18cd/m2～125,000cd/m2（EV1.7～20/絞り値 F2.5、シャッター速度 2 秒～絞り値 F16、シャッター速度 1/4000 秒）　測光範囲を超える場合はファインダー内に警告表示が点灯
測光素子　多分割フォトダイオード
ISO 感度　**ISO 160、ISO 320、ISO 640、ISO 1250**（手動または自動）、**Pull 80**（ISO 80 相当、コントラストは低め、手動のみ）
露出モード　**P**：プログラム AE モード（プログラムシフト可能）、**A**：絞り優先 AE モード、**T**：シャッター速度優先 AE モード、m：マニュアルモード

フラッシュ
フラッシュユニットの接続　アクセサリーシュー（中央接点および制御接点を装備）またはシンクロターミナル
フラッシュ同調　フラッシュ同調速度：1/125 秒または 1/500 秒（レンズ内蔵のレンズシャッターでの撮影時）　これより遅いシャッター速度でのフラッシュ撮影も可能　ハイスピードシンクロ機能を装備したフラッシュユニットおよび SCA-3502 M5 アダプター使用時は、1/180～1/4000 秒でのフラッシュ撮影も可能　フラッシュ同調のタイミング：先幕または後幕
フラッシュ調光素子　多分割フォトダイオード
調光方式/制御方式　プリ発光による TTL 調光（ライカ SF 58 または対応フラッシュユニットおよび SCA-3502 M5 アダプター使用時）　カメラで設定した ISO 感度および絞り値をフラッシュユニットに自動送信し、発光量を自動調整　すべての露出モードで使用可能　自然光の明るさに応じて発光量を自動調整
ハイスピードシンクロ　ライカ SF 58（TTL-HSS 調光モード）または対応フラッシュユニットおよび SCA-3502 M5 アダプター（ハイスピードシンクロ機能付きの TTL 調光モード）使用時、フォーカルプレーンシャッターで 1/125 秒より速いシャッター速度でのフラッシュ撮影が可能　シャッター幕が走行中に高速で連続発光することにより、露光の始めから終わりまで発光し、被写体全体に均一にフラッシュ光を照射　シャッター速度がフラッシュ同調速度を超えると自動的に設定（TTL-HSS 調光モード使用時）
ストロボモード　ライカ SF 58 または対応フラッシュユニット（ストロボモードと同等の機能を装備しているもの）および SCA-3502 M5 アダプター使用時、シャッターが開いている間に連続発光　露出モードが「**P**」または「**A**」のときは、シャッター速度を自動設定
調光補正　±3EV の範囲内で 1/3EV ステップ（ライカ SF 58 使用時）
ファインダー表示　フラッシュマーク（点灯または点滅）により、フラッシュの状態を表示
照射角　使用レンズの焦点距離に応じて自動調整（ライカ SF 58 またはズーム機能付きの対応フラッシュユニットおよび SCA-3502 M5 アダプター使用時）

オートフォーカス
検出方式　パッシブ方式（位相差検出方式）
センサー/測距点　セントラルクロスセンサー　ファインダースクリーンに十字線で表示
フォーカスモード　AFs（シングル、フォーカス優先）、AFc（コンティニュアス、レリーズ優先）、マニュアル
AF ロック　シャッターレリーズボタン（半押し）または AE/AF ロックボタンによる
駆動モーター　レンズに内蔵
ファインダー表示　9 ページおよび 33 ページを参照

ファインダー
形式　ペンタプリズム使用
アイピース　アイレベル式　−3〜+1 dpt.の範囲内で視度調整が可能
ファインダースクリーン　ユニフォームグランドグラススクリーン　ユニフォームグランドグラススクリーン グリッド付きまたはユニバーサルスクリーン（スプリットマイクロプリズム付きのグランドグラススクリーン）に交換可能
ファインダー視野率　約 96% / 約 29×43mm
ファインダー倍率　0.86 倍（70mm レンズ、∞、0 dpt.時）

表示部
ファインダー　下部にバックライト付 LCD 表示　表示については 9 ページを参照
上面ディスプレイ　カラー有機 EL（自発光）　表示については 10 ページを参照
LCD モニター　3.0 型 TFT 式カラー LCD モニター　ドット数：46 万ドット　表示色：1600 万色　表示については 11 ページを参照

シャッター/撮影機能
形式　電子制御式縦走りメタルブレード・フォーカルプレーンシャッター　レンズ内蔵のレンズシャッターも使用可能（レンズシャッター内蔵レンズ使用時）　シャッター切り換えにはメインスイッチを使用
シャッター速度　露出モードが「**T**」または「**m**」のとき：1/4000〜8 秒で手動設定（1/2 段ステップ）、レンズシャッター使用時は 1/500〜8 秒　露出モードが「**P**」または「**A**」のとき：1/4000〜最大 125 秒で自動設定（連続的に変化）、レンズシャッター使用時は 1/500〜8 秒「**B**」：バルブ撮影（最大 125 秒）　フラッシュ同調速度：1/125 秒、1/125 秒より速いシャッター速度でハイスピードシンクロ撮影も可能（ライカ SF 58 または対応フラッシュユニットおよび SCA-3502 M5 アダプター使用時）
連続撮影　約 1.5 コマ/秒で最大約 14 コマ（DNG 圧縮時）
シャッターレリーズボタン　3 段階の作動ポイント（1. 軽く押す：測距システムおよび測光システムがオン　2. 半押し：AE/AF ロック　3. 全押し：レリーズ）
セルフタイマー　2 秒、12 秒　作動中は本体正面の LED が点滅、LCD モニターに残り時間をカウントダウン表示
ミラー　クイックリターン式、ハーフミラー
ミラーアップ撮影　シャッターレリーズボタンを押すとシャッターが作動せずにミラーが上がり、絞りを設定値まで絞り込み、再度シャッターレリーズボタンを押すと撮影

本体電源のオン/オフ　本体背面左上のメインスイッチを使用　一定時間が経過したあとに自動的にスタンバイモードに移行する「オートパワーオフ」を設定可能（移行までの時間は 2 分、5 分、10 分、オフから選択）
電源　充電式リチウムイオンバッテリー（定格電圧 7.4V、容量 2100mAh）×1　上面ディスプレイにバッテリー残量を表示　センサークリーニング時にシャッター開放状態でバッテリーが消耗した場合はブザー音で警告
バッテリーチャージャー　定格入力：AC100〜240V（50/60Hz、自動切換）、DC12/24V　定格出力：DC7.4V、最大 1250mA

本体
材質　シャーシ：マグネシウムダイカストのフルメタル、すべりにくいラバー外装仕上げ　トップカバー：マグネシウム製、ブラック仕上げ
三脚穴　A1/4（1/4 インチ）DIN および A3/8（3/8 インチ）DIN（金属製三脚）、DIN4503 準拠ロック機構付、レンズ光軸直下に三脚座を配置
動作環境　温度：0〜+45℃　湿度：15〜80%
インターフェース　シンクロターミナル、HDMI 端子、リモートレリーズケーブル端子（確実な接続が可能な 5 ピンの LEMO プラグ）データ出力端子（USB 2.0、4 ピンの LEMO プラグに対応、確実な接続が可能）、ハンドグリップ S2 用接点
寸法　約 160×120×80mm（幅×高さ×奥行）
質量　約 1410g（バッテリー含む）

付属品　バッテリーチャージャー S（米国仕様の電源プラグを装備、ヨーロッパ/UK/オーストラリア仕様の着脱式電源プラグおよびカーバッテリーコードを付属）、充電式リチウムイオンバッテリー、USB 接続ケーブル、キャリングストラップ、ボディキャップ、アイピースカバー

デザイン、仕様、その他は変更される場合があります。

ライカアカデミー

ライカカメラ社では、高性能な写真関連製品の製造に携わるだけでなく、長年にわたるサービスの一環としてライカアカデミーを主催しています。ライカアカデミーでは、実践的なセミナーやトレーニングコースを開催し、写真や映像分野の専門知識を、初心者から上級者までの熱心な写真愛好家の皆様にご提供します。
専門知識、経験ともに豊かな講師陣が、ソルムスの本社工場や近郊のグート・アルテンベルクにある最新の研修施設にて実施するコース内容には、一般的な写真撮影から専門の対象分野までが含まれます。こちらは、数多くのアドバイスや情報に加えて、皆様の作品作りに対するサポートもご提供しています。ライカアカデミーの最新プログラムについては、下記までお問い合わせください。

Leica Camera AG
Leica Akademie
Oskar-Barnack-Str. 11
D-35606 Solms
Phone:+49 (0) 6442-208-421
Fax: +49 (0) 6442-208-425
la@leica-camera.com

ライカのホームページ

各種製品、ニュース、イベント、ライカカメラ社の最新情報については、ライカのホームページをご覧ください。

http://www.leica-camera.com
http://www.leica-camera.co.jp

ライカ インフォメーションサービス

ライカ製品の使い方などの技術的なご質問は、下記までお問い合わせください。

Leica Camera AG
Informations Service
Postfach 1180
D-35599 Solms
Phone:+49 (0) 6442-208-111
Fax: +49 (0) 6442-208-339
info@leica-camera.com

ライカ S システムヘルプライン

Tel. 03-6215-7033
Fax. 03-6215-7073
Email: S-System@leica-camera.co.jp
受付時間：
火ー土曜日　10：00-18：00
（休：日・月曜日、祝祭日／弊社指定休業日）

ライカ カスタマーサービス

ライカ製品のメンテナンスや修理が必要な場合には、下記のカスタマーサービスセンター、ライカカメラジャパンカスタマーサービス、またはお近くのライカ正規販売店までお問い合わせください。

Leica Camera AG
Customer Service
Solmser Gewerbepark 8
D-35606 Solms
Phone:+49 (0) 6442-208-189
Fax: +49 (0) 6442-208-339
customer.service@leica-camera.com

ライカカメラジャパン株式会社
カスタマーサービス
東京都中央区銀座 6-4-1 ライカ銀座店内
Tel. 03-6215-7072
Fax 03-6215-7073
Email: repair@leica-camera.co.jp



my point of view

ライカカメラジャパン株式会社
東京都千代田区有楽町1-7-1
Tel 03-5221-9501 / Fax 03-5221-9502
info@leica-camera.co.jp
www.leica-camera.co.jp

1.0.0.16
1007-TS30
933 21 II/10/DW/J

ライカS2 ファームウェア 1.0.0.16

アップデート情報

対象機種 ライカS2
バージョン 1.0.0.16
ファイル名/ファイルサイズ FW_S2_1_0_0_16.S2/ 7.48 MB
更新日 2010年4月
ダウンロードページ https://owners.leica-camera.com/

注意
ファームウェアのアップデート中は、以下の操作を絶対に行わないでください。
– カメラの電源を切る
– バッテリーを取り出す
– レンズを取り外す
– メモリーカードを取り出す

ファームウェアのアップデート中にこれらの操作を行うと、カメラの故障の原因となります。
ファームウェアのアップデート後にカメラが誤作動を起こした場合は、カメラを購入された特約店または
ライカS-systemヘルプラインまでお問い合わせください。

改善内容

バージョン 1.0.0.16

内容
1. メモリーカード交換後もファイル番号の連番を維持するように変更
2. 本機でフォーマットしていないメモリーカード使用時の不具合を修正
3. パソコンを使った連結撮影時のデータ転送速度を向上
4. 画像再生時の操作性を向上
5. LCDモニターの表示性能を向上
6. 露出モード設定時の操作性を改善
7. LEICA Image Shuttle使用時の操作性を改善
8. JPEG画像の画質を向上
9. 各種機能を追加
   9.1. ホワイトバランスのプリセットに「HMI」を追加
   9.2. ファインダー表示に「露出補正値」を追加
   9.3. プレビューボタンにカスタム設定モード用のボタンとしての機能を追加
   9.4. 上面ディスプレイのスタンバイモードへの移行時間を設定できる機能 を追加
   9.5. 操作部のロック機能を追加
   9.6. カスタム設定モードで割り当てられるメニュー項目を追加
10. レンズの性能を向上
11. 交換用ファインダースクリーンの自動認識機能を追加

内容の詳細については、添付資料「アップデートの詳細」をご覧ください。

ファームウェアのアップデート方法

ステップ1：
現在のファームウェアのバージョンを確認する

お使いのカメラのファームウェアのバージョンが現在提供されているバージョンと異なる場合は、ファームウェアを　アップデートすることをおすすめします。

1. カメラの電源を入れます。
2. 機能表示が[セットアップ]となっているメニューボタン（1.21）を押してメニュー画面を表示し、クリックホイール（1.18）を回して[ファームウェア]（5.35）を選びます。
3. クリックホイールを押します。現在のカメラとレンズのファームウェアのバージョンが表示されます。
4. ファームウェアをアップデートすると、バージョンが以下のように表示されます。
   Camera LEICA S2
   Version 1.0.0.16

ステップ2：
アップデートファイルをダウンロードする

1. パソコンのデスクトップに「FW_S2_1_0_0_16.S2」をダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルのサイズを確認します。サイズが上記の「アップデート情報」のサイズと異なる場合は、再度ダウンロードしてください

ステップ3:アップデートファイルをCFメモリーカードまたはSDメモリーカードにコピーする

メモリーカードの準備(フォーマット)

1. カメラでメモリーカードをフォーマットします。フォーマット方法については、取扱説明書の42ページをご覧ください。

   注意
   メモリーカードをフォーマットすると、プロテクトされたデータを含むすべてのデータが消去されます。消去されたデータは、特殊なソフトウェアを使わないと復旧できません。

2. フォーマットしたメモリーカードをパソコンのカードスロットに挿入します。パソコンにカードスロットが装備されていない場合は、外付けのカードリーダーをお使いください。
3. 「FW_S2_1_0_0_16.S2」をメモリーカードのルートディレクトリ(*1)にコピーします。

ステップ4:ファームウェアをアップデートする

1. パソコンのカードスロットまたはカードリーダーからメモリーカードを取り出し、カメラのカードスロットに挿入して、カードカバーを閉じます。
2. AE/AFロックボタン(1.17)を押しながら、カメラの電源を入れます。電源を入れると、数秒後にアップデートが始まります。アップデートが始まったら、AE/AFロックボタンを離します。
   アップデート中は、LCDモニターに進行状況が表示されます。アップデートは約60秒で完了します。
3. アップデートが完了したら、カメラの電源を切ります。再度カメラの電源を入れ、ファームウェアのバージョンを表示して、正しくアップデートできたかを確認してください(ステップ1を参照)。

注意
バッテリーが十分に充電されていないと、LCDモニターに警告メッセージが表示されます。

(*1)ルートディレクトリ=メモリーカードを開いたすぐの場所

アップデートの詳細

1. メモリーカード交換後もファイル番号の連番を維持するように変更

メモリーカードを交換しても、ファイル名に使われるファイル番号が自動的に連番で付くようになりました。新しいメモリーカードやフォーマットしたメモリーカードに交換すると、最後に撮影した画像のファイル番号の次の番号が付きます。交換したメモリーカードに、本来連番で付く番号以上の番号が付いた画像がある場合は、その画像の番号の次の番号が付きます。現在のフォルダーにファイル番号が9999の画像があるときに撮影すると、新しいフォルダーが作成され、ファイル番号が0001に戻ります。フォルダー番号が999のときにファイル番号が9999に達すると、LCDモニターに警告メッセージが表示されます。この場合は、ファイル番号をリセットしてください。

「画像番号リセット」を選ぶと、カメラが記憶しているファイル番号がリセットされます。次の撮影からは0001から連番でファイル番号が付きます。



2. 本機でフォーマットしていないメモリーカード使用時の不具合を修正

パソコンなどの本機以外の機器でフォーマットしたメモリーカードを使うときは、本機でフォーマットし直す必要があります。本機でフォーマットし直さないと、新しいフォルダーが作成されます。

3. パソコンを使った連結撮影時のデータ転送速度を向上
本機とパソコンを接続して行う連結撮影時のデータ転送速度を向上しました。

4.画像再生時の操作性を向上
右上のメニューボタン（1.20）を押して通常表示画面にした後に、クリックホイールを回すだけで表示画像を切り換えることができるように変更しました。また、通常表示画面でクリックホイールを押すと画像を拡大表示（ズーム表示）できるように変更しました。

通常表示画面





拡大表示画面

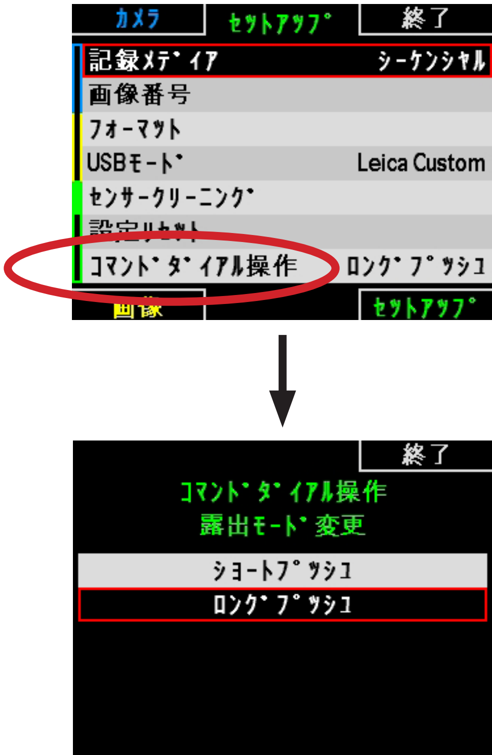


5. LCDモニターの表示性能を向上
LCDモニターの表示性能を向上しました。

6. 露出モード設定時の操作性を改善

露出モード(プログラムAE、シャッター速度優先AE、絞り優先AE、マニュアル)の切り換えは、シャッター速度ダイヤルとクリックホイールで行います(取扱説明書の37ページを参照)。
露出モードが誤って変更されることを防ぐために、露出モードを切り換えるときのクリックホイールの操作方法をメニュー画面で設定できるようになりました。

操作方法は次の2種類から選べます。
_ ショートプッシュ: クリックホイール短押しで露出モードを切り換え
_ ロングプッシュ: クリックホイール長押しで露出モードを切り換え



7. LEICA Image Shuttle使用時の操作性を改善

LEICA Image Shuttleでシャッター速度や絞り値を設定したときに、シャッターレリーズボタンを押してもそれらの設定値がリセットされないように改善しました。また、LEICA Image Shuttleでシャッター速度を設定したときに、設定したシャッター速度がカメラで設定されているシャッター速度と異なる場合は、上面ディスプレイにシャッター速度が青で表示されるようになりました。

シャッター速度や絞り値などをLEICA Image Shuttleで設定した後にカメラで設定し直した場合は、カメラでの設定が有効になります。

8. JPEG画像の画質を向上

解像度、シャープネス、ノイズに関するJPEG画像の処理性能を向上しました。

9. 各種機能を追加

以下の機能を追加しました。

9.1 ホワイトバランスのプリセットに「HMI照明」を追加

ホワイトバランスで選べるプリセットに「HMI照明」を追加しました。



9.2 ファインダー表示に「露出補正値」を表示

ファインダー内の露出インジケーターに「露出補正値」が表示されるようになりました。

例：露出補正値が+1.5EVの場合



9.3 プレビューボタンにカスタム設定モード用のボタンとしての機能を追加

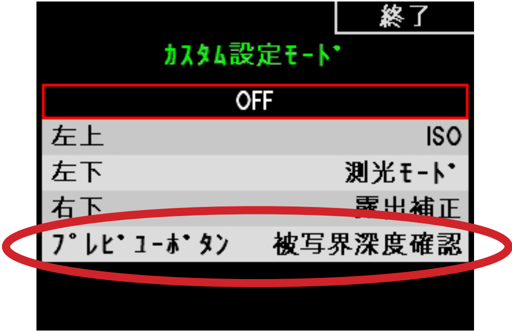
カスタム設定モードは、任意のメニュー項目をメニューボタン（1.21、1.23、1.24）に割り当てることができる機能です。メニューボタンを長押しするだけでメニュー項目を呼び出せるので、よく使う機能や大事な機能を素早く設定できます。カスタム設定モード用のボタンとして、3つのメニューボタンに加えてプレビューボタン（1.3）も使えるようになりました。

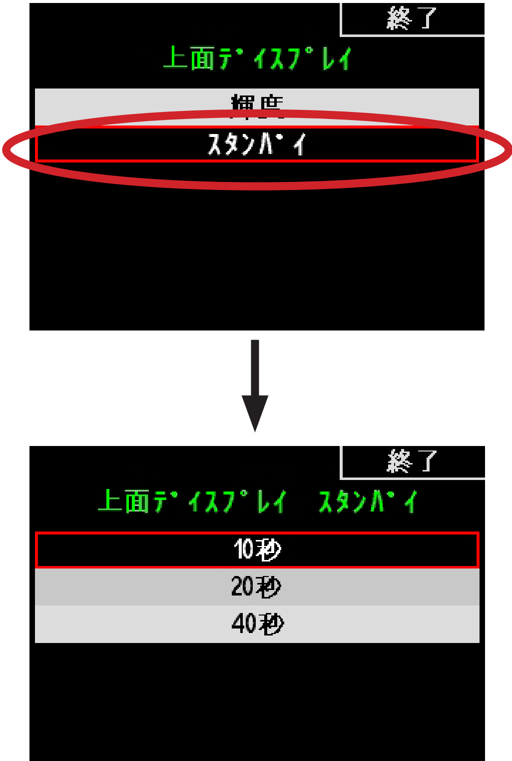
9.4 上面ディスプレイのスタンバイモードへの移行時間を設定できる機能を追加

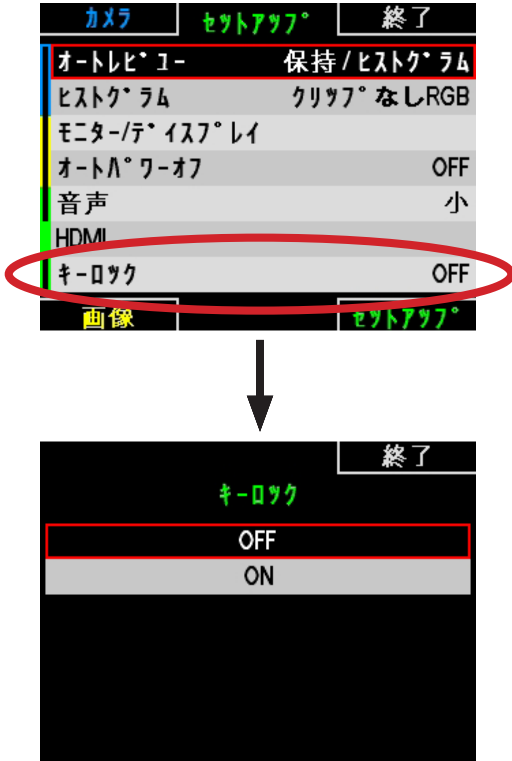
上面ディスプレイがスタンバイモードへ移行するまでの時間をメニュー画面で設定できるようになりました。

9.5 操作部のロック機能を追加

露出の設定にかかわる操作部（シャッター速度ダイヤルと絞り値を設定するときのクリックホイール）について、設定が誤って変更されることを防ぐために、ロック機能を追加しました。ロック機能のオン/オフの切り換えは、メニュー画面で行います。このメニュー項目をカスタム設定モード（9.6を参照）でボタンに割り当てることもできます。







9.6 カスタム設定モードで割り当てられるメニュー項目を追加

カスタム設定モードは、任意のメニュー項目をメニューボタン（1.21, 1.23, 1.24）やプレビューボタン（1.3）に割り当てることができる機能です。

これらのボタンを長押しするだけでメニュー項目を呼び出せるので、よく使う機能や大事な機能を素早く設定できます。
カスタム設定モードで割り当てられるメニュー項目として、以下を追加しました。

_ フォーマット（メモリーカードをフォーマットするときに使用）
_ キーロック（露出の設定にかかわる操作部のロック機能のオン/オフに使用）

10. レンズの制御性能を向上

レンズの制御性能をさらに向上しました。

11. 交換用ファインダースクリーンの自動認識機能を追加

交換用ファインダースクリーンの種類（ユニフォームグランドグラススクリーン グリッド付きなど）を自動的に認識する機能を追加しました。
交換用ファインダースクリーンについての詳細は、取扱説明書の19ページをご覧ください。

ライカS2 ファームウェア 1.0.0.17

アップデート情報

対象機種 ライカS2
バージョン 1.0.0.17
ファイル名/ファイルサイズ FW_S2_1_0_0_17.S2/ 7.9 MB
更新日 2010年9月16日
ダウンロードページ https://owners.leica-camera.com/

改善内容

バージョン FW S2 1.0.0.17

内容
Leica Apo-Macro-Summarit-S 1:2,5/120mm ASPH.への対応

注意
ファームウェアのアップデート中は、以下の操作を絶対に行わないでください。
- カメラの電源を切る
- バッテリーを取り出す
- レンズを取り外す
- メモリーカードを取り出す
- ライカSマルチファンクションハンドグリップを取り付ける

ファームウェアのアップデート中にこれらの操作を行うと、カメラの故障の原因となります。
ファームウェアのアップデート後にカメラが誤作動を起こした場合は、カメラを購入された特約店または
ライカ**S-system**ヘルプラインまでお問い合わせください。

ライカS2 ファームウェア 1.0.0.24

アップデート情報

対象機種 ライカS2
バージョン 1.0.0.24
ファイル名／ファイルサイズ FW_S2_1_0_0_24.S2 / 7.48 MB
更新日 2010 年12 月

ダウンロードページ https://owners.leica-camera.com/

注意
ファームウェアのアップデート中は、以下の操作を絶対に行わないでください。
– カメラの電源を切る
– バッテリーを取り出す
– レンズを取り外す
– メモリーカードを取り出す

ファームウェアのアップデート中にこれらの操作を行うと、カメラの故障の原因となります。
ファームウェアのアップデート後にカメラが誤作動を起こした場合は、カメラを購入された特約店または
ライカ**S-system**ヘルプラインまでお問い合わせください。

改善内容

バージョン 1.0.0.24

変更内容
1. メモリーカードの互換性向上
2. DNGのロスレス圧縮に対応
3. 白飛び・黒潰れ警告エリアの設定
4. オートレビュー時のヒストグラムを拡大
5. 最大露光時間を125秒へ延長
6. バルブ撮影時の露光時間設定
7. AF/AEロックボタンの設定オプションの拡張
8. AFパフォーマンスの最適化

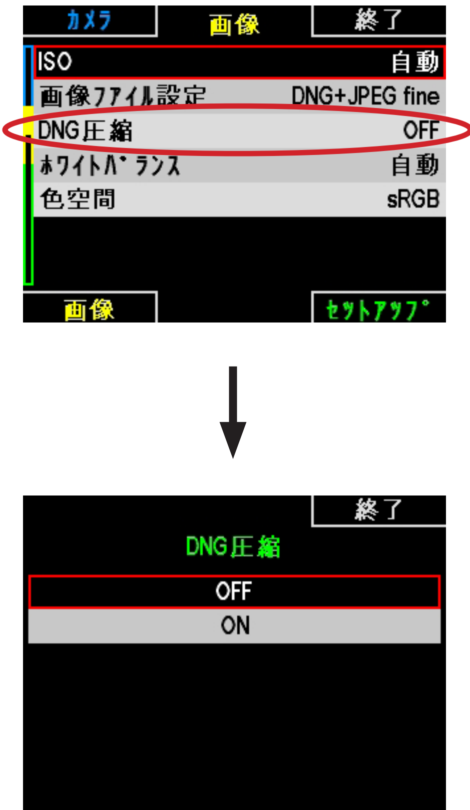
詳しい変更内容については「アップデートの詳細」をご覧ください。

アップデートの詳細

1. メモリーカードの互換性向上
64GB(UDMA6)のCF メモリーカードの互換性を向上させました。

2. DNG のロスレス圧縮に対応
DNG（デジタルネガ）が、ロスレス（可逆式）圧縮に対応いたしました。

圧縮DNG には、以下の利点があります。
- ファイルサイズが約75MB から約40MB に縮小（画像によって異なります）
- 連続撮影可能コマ数が最大14 コマに向上（画像やカードの種類によって異なります）
- Image Shuttle による連結撮影での画像転送速度が向上



3. 白飛び・黒潰れ警告エリアの設定

白飛び警告範囲（上限エリア）、黒潰れ警告範囲（下限エリア）を設定し、どの数値から警告を表示させるか任意に選択できるようになりました。

4.オートレビュー時のヒストグラムを拡大

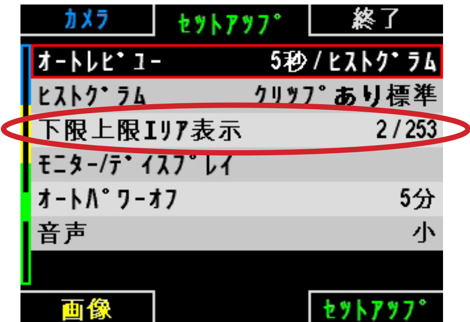
オートレビュー時のヒストグラムを拡大し、より確認しやすくなりました。

5. 最大露光時間を125 秒へ延長

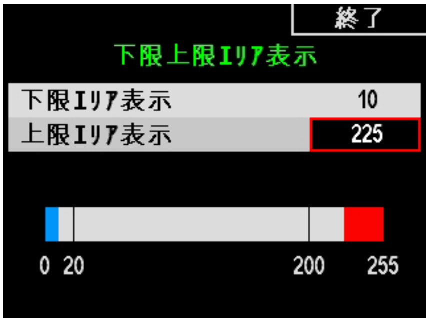
最大露光時間が32 秒から125 秒に延長されました。

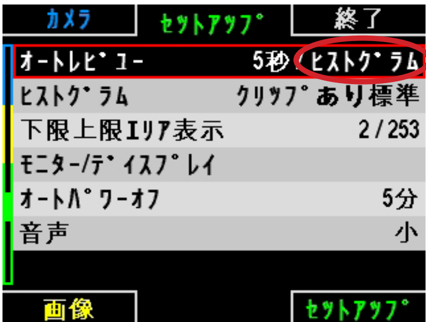
最大露光時間は、ISO 設定により変化します。

ISO PULL80	→	125 秒
ISO 160	→	125 秒
ISO 320	→	60 秒
ISO 640	→	32 秒
ISO 1250	→	32 秒

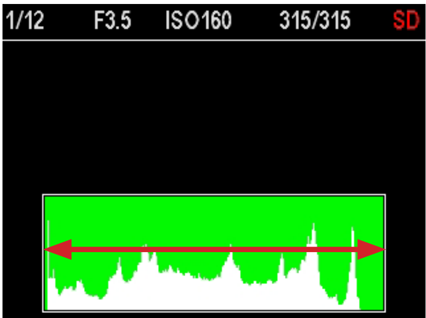










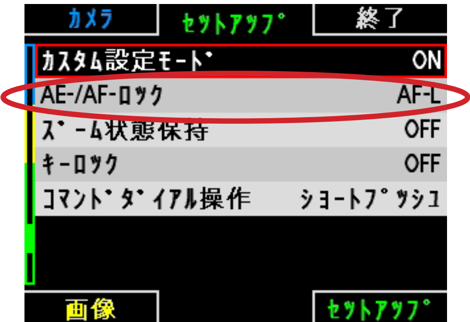


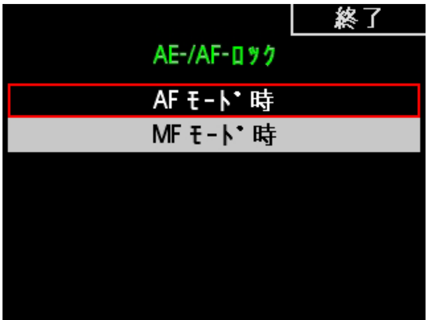
6. バルブ撮影時の露光時間設定
バルブ(B)撮影時、クリックホイールを押してバルブ露光時間メニューを呼び出し、8 秒以上の露光時間を設定することができます。設定を変更するには、クリックホイールを再度押してください。設定露光時間はOLED 上面ディスプレイに表示されます。



7. AF/AE ロックボタンの設定オプションの拡張
AF/AE ロックボタン(**1.17**)の機能を変更できるようになりました。

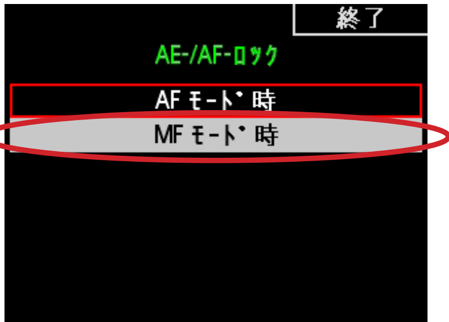
まず、オートフォーカス(AF)とマニュアルフォーカス(MF)を区別します。





MF モード時
MF モードでは、AF/AE ロックボタンに下記の機能を割り当てることができます。

AFs オン	- シングルオートフォーカス始動
AFs オン / AE-L	- シングルオートフォーカス始動および露出値ロック
AFc オン	- コンティニュアスオートフォーカス始動
AFc オン / AE-L	- コンティニュアスオートフォーカス始動および露出値ロック
AE-L	- 露出値ロック





AF モード時

AF モードでは、AF/AE ロックボタンに下記の機能を割り当てることができます。

AF-L - フォーカスロック
AE-L - 露出値ロック
AF-L / AE-L - フォーカスおよび露出値ロック

8. AF パフォーマンスの最適化

オートフォーカスの測距精度を更に向上することができました。特に、非常に小さい被写体に正確に焦点を合わせることができるようになりました。測距点はビューファインダーの十字線の中央にあります。

ライカS2 ファームウェア 1.0.1.8

アップデート情報

対象機種 ライカ**S2**
バージョン **1.0.1.8**
ファイル名/ファイルサイズ **FW_S2_1_0_1_8.S2/ 7.48 MB**
更新日 **2011年7月**
ダウンロードページ **https://owners.leica-camera.com/**

注意
ファームウェアのアップデート中は、以下の操作を絶対に行わないでください。
– カメラの電源を切る
– バッテリーを取り出す
– レンズを取り外す
– メモリーカードを取り出す
– ライカSマルチファンクションハンドグリップを取り付ける

ファームウェアのアップデート中にこれらの操作を行うと、カメラの故障の原因となります。
ファームウェアのアップデート後にカメラが誤作動を起こした場合は、カメラを購入された特約店または
ライカ**S-system**ヘルプラインまでお問い合わせください。

改善内容

バージョン FW S2 1.0.1.8

内容
1. オートブラケットの自動段階撮影
2. カスタム設定モードで設定できるボタンの追加

内容の詳細については、添付資料「アップデートの詳細」をご覧ください。

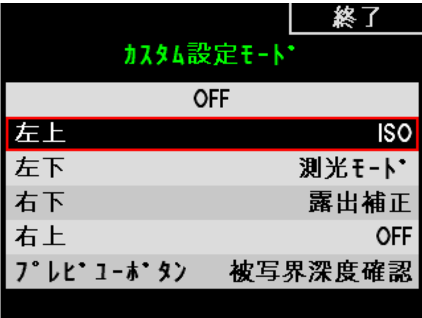
アップデートの詳細

1. オートブラケットの自動段階撮影
従来のオートブラケット撮影では、レリーズボタンを押すごとに1コマずつ段階撮影を行いましたが、これを1回のレリーズで連続して段階撮影できる選択項目を追加いたしました。この機能はHDR（ハイダイナミックレンジ）処理のための撮影に有効です。



2. カスタム設定モードで設定できるボタンの追加
カスタム設定モードで設定できるボタンに背面右上のボタンを追加しました。





ライカS2 ファームウェア 1.0.2.0

アップデート情報

対象機種 ライカS2
バージョン 1.0.2.0
ファイル名/ファイルサイズ FW_S2_1_0_2_0.S2/ 7.9 MB
更新日 2011年12月20日
ダウンロードページ https://owners.leica-camera.com/

注意
ファームウェアのアップデート中は、以下の操作を絶対に行わないでください。
– カメラの電源を切る
– バッテリーを取り出す
– レンズを取り外す
– メモリーカードを取り出す
– ライカSマルチファンクションハンドグリップを取り付ける

ファームウェアのアップデート中にこれらの操作を行うと、カメラの故障の原因となります。
ファームウェアのアップデート後にカメラが誤作動を起こした場合は、カメラを購入された特約店または
ライカ**S-system**ヘルプラインまでお問い合わせください。

改善内容

バージョン FW S2 1.0.2.0

内容
LEICA ELMARIT-S 2.8/30mm ASPH.への対応

ライカS2 ファームウェア 1.0.3.3

アップデート情報

対象機種 ライカ**S2**
バージョン 1.0.3.3
ファイル名/ファイルサイズ FW_S2_1_0_3_3.S2/ 7,5 MB
更新日 2012年5月10日
ダウンロードページ https://owners.leica-camera.com/

注意
ファームウェアのアップデート中は、以下の操作を絶対に行わないでください。
– カメラの電源を切る
– バッテリーを取り出す
– レンズを取り外す
– メモリーカードを取り出す
– ライカSマルチファンクションハンドグリップを取り付ける

ファームウェアのアップデート中にこれらの操作を行うと、カメラの故障の原因となります。
ファームウェアのアップデート後にカメラが誤作動を起こした場合は、カメラを購入された特約店または
ライカ**S-system**ヘルプラインまでお問い合わせください。

改善内容

バージョン FW S2 1.0.3.3

内容

- 新しいハッセルブラッドレンズをサポートするアダプター ライカSアダプターH（コード 16030）
- 1/125秒 フォーカルプレーンシャッターでのフラッシュ同調速度の改良

LEICA S2/S2-P ファームウェア 1.0.4.2

アップデート情報

対象機種 ライカ**S2/S2-P**
バージョン 1.0.4.2
ファイル名/ファイルサイズ FW_S2_1_0_4_2.S2/ 7,5 MB
更新日 2012年12月7日
ダウンロードページ https://owners.leica-camera.com/

注意
ファームウェアのアップデート中は、以下の操作を絶対に行わないでください。
– カメラの電源を切る
– バッテリーを取り出す
– レンズを取り外す
– メモリーカードを取り出す
– ライカSマルチファンクションハンドグリップを取り付ける

ファームウェアのアップデート中にこれらの操作を行うと、カメラの故障の原因となります。
ファームウェアのアップデート後にカメラが誤作動を起こした場合は、カメラを購入された特約店または
ライカ**S-system**ヘルプラインまでお問い合わせください。

改善内容

バージョン FW S2 1.0.4.2

内容

1. 下記のレンズに対応いたしました。

・スーパーエルマーS f3.5/24mm ASPH.
・バリオエルマーS f3.5–5.6/30–90mm ASPH.
・各種セントラルシャッター搭載レンズ

2. Adobe® Photoshop® Lightroom®におけるホワイトバランスの演算精度を向上させました。

3. （お客様からのご要望により）シャッター速度優先時、絞りの設定範囲を超えるオーバー露出、アンダー露出の場合でも、設定したシャッター速度が維持されるように変更いたしました。